

授 業 科 目 の 概 要					
(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)					
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考	
総合教育科目	外国語科目	英語	Foundations of English I	<p>英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	
総合教育科目	外国語科目	英語	Basic English Communication I	<p>Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to actively use the first 700 words of the NGSL.</p> <p>英語話者に対して、英語で自分のことを語り、自分の故郷や国のことを説明し、相手についても尋ねることが出来る基礎的な英語コミュニケーション能力を養う。また、同様のことを英文で書くことによって英語表現力と語彙力を高め、平易な英語を大量に読む速読・多読を通じて英語で読むことに慣れ、英文を読む速度を高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	
総合教育科目	外国語科目	英語	Foundations of English II	<p>英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	
総合教育科目	外国語科目	英語	Basic English Communication II	<p>Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to actively use the second 700 words of the NGSL.</p> <p>英語話者に対して、英語で自国の文化を紹介したり、相手の国の文化について尋ね、自分の意見を述べる事が出来る英語コミュニケーション能力を養う。また、同様のことを英文で書くことによって英語表現力と語彙力を高め、平易な英語を大量に読む速読・多読を通じて、英語で読むことに慣れ、英文を読む速度をさらに高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	
総合教育科目	外国語科目	英語	Comprehensive English I	<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication I	<p>Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to actively use the third 500 words of the NGSL.</p>	
				<p>日常的な事柄から学問的な事柄まで、英語を用いて説明をしたり、自分の意見を述べたり、相手と意見を交換したりすることが出来る会話力を養う。また、同様の事柄について自分の主張をわかりやすく英文にまとめる英作文力を養い、学問的な英文や時事的な英文を読んで、英語で要約する力も養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	
総合教育科目	外国語科目	英語	Comprehensive English II	<p>時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication II	<p>Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to actively use the fourth 500 words of the NGSL.</p>	
				<p>学問的な事柄から時事的な事柄まで、英語を用いて説明をしたり、自分の意見を述べたり、相手と意見を交換したりすることが出来る会話力をさらに高める。また、自分の主張を論理的な英文にまとめる英作文力を養い、所属学部の専門に関係するような英文や時事的な英文なども読み、その内容を英語で要約する力も養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	
総合教育科目	外国語科目	英語	Comprehensive English III	<p>世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication III	Students will learn higher levels of expression appropriate for English discussions, presentations and debates. Students will learn to read and write about more difficult topics related to global affairs and their major. Students will also develop the ability to actively use the fifth 400 words of the NGSL.	
				英語によるディスカッションやプレゼンテーション、さらにはディベートなどを行い、高度な発信能力を養う。また、国際情勢のような難しい事柄や、各学部学科で学んでいる専門的な事柄についても、英語で読み、英語で自分の意見を書くことの出来る高度な英作文力を養成し、アカデミック・ライティングの力を高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Career English I	英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶことによって、仕事の舞台でもグローバルに活躍する英語力の基礎を身に付ける。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English for Global Mobility I	Students will develop their listening, reading, writing and speaking skills for authentic communication in English with native and non-native English speakers. Internet-based technologies will be used to enhance communication. Topics for classroom-based discussions will be current global issues and product development. Students will learn to become autonomous English-users.	
				読む、書く、聞く、話すという英語の4技能を駆使して、英語を母語とする者、英語を母語としない者を含め、世界中の英語話者と自在にコミュニケーションを行う訓練を行う。インターネット技術を活用したツールも活用してコミュニケーションの幅を広げ、世界の様々な時事的問題や産業に関する問題などについてのディスカッションも行うなど、様々な方法を通じて英語コミュニケーションの実践的な訓練を行うことで、自立した英語使用者となるための基礎訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Career English II	英語の4技能を総合的に復習し、出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来る英語力の養成を目標とする。また、TOEICでもよく出題され、世界で活躍するために欠かせないビジネス英語の語彙や表現についても学び、英文ビジネス・レターの書き方や英語による面接についての練習も行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English for Global Mobility II	Students will further develop their listening, reading, writing and speaking skills using internet-based technologies for authentic English communication. Topics for classroom-based discussions and presentations will be global issues and product development. Students will further developing autonomous learning skills.	
				読む、書く、聞く、話すという英語の4技能を駆使して、英語を母語とする者、英語を母語としない者を含め、世界中の英語話者と自在にコミュニケーションを行う能力を完成する。インターネット技術を応用したツールによるコミュニケーションの幅をさらに広げ、世界の様々な時事的問題や産業に関する問題などについてのディスカッションやプレゼンテーションなど、様々な方法を通じて英語コミュニケーションの実践的な訓練を積み重ねることで、自立した英語使用者となるためのさらなる訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	フランス語 I	フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする。まず発音記号、綴りと発音を学び、フランス語特有の母音や綴りに慣れる。次に日常的な会話表現を学んでゆく。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で名詞・形容詞・所有形容詞・冠詞およびその性数、規則動詞と代表的な不規則動詞の変化を学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	フランス語 II	フランス語 I で得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。具体的には、時間、曜日、予定、謝る、場所、趣味・余暇、頻度、習慣、家族、過去の出来事、どこに行ったのか、だれかを誘う、断る、交通手段を尋ねるなどの表現を学ぶ。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で、疑問詞、前置詞、複合過去、複合過去における性数一致について学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	ドイツ語 I	本授業の達成目標は、自己紹介、大学や家での生活など、自分の身の回りのことがらを、正しいドイツ語を使って、口頭でも筆記でも表現できるようになることである。ドイツ語圏文化理解の出发点であるドイツ語運用の基礎力を身につけることをねらいとし、「ドイツ語 II」との連続受講で、ドイツ語技能検定試験4級あるいは3級合格程度の力を身につけてもらう。語彙力の強化と発信型の学習を特に重視する。発信型の学習の例として、授業では受講生によるDialog作りおよびその発表を行う。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	ドイツ語 II	本授業の達成目標は「ドイツ語 I」と同様、自分の身の回りのことがらを、正しいドイツ語を使って、口頭でも筆記でも表現できるようになることである。「ドイツ語 II」ではさらに、身近な話題について書かれたドイツ語の文章を読んで理解することも目標とする。ドイツ語運用の基礎力を身につけることをねらいとし、教科書をベースに自分で表現できることの幅を広げていく。語彙力の強化と発信型の学習を特に重視し、授業でのDialog作成・発表に加え、クラス内でのインタビューや作文など、表現の機会を多く設ける。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	中国語 I	初めて中国語を学ぶ学生を対象に初級段階に必要な発音と基本文法事項・語彙を学習する。拼音字母の発音、声調、音節の発音に習熟することをはじめとして、聞く・話す・読む・書くの4つの能力にわたる中国語の基礎学力を身につける。基礎文法については、豊富な例文を取り上げ、繰り返し練習問題に取り組むことで要点の理解を進める。また、例文については音読し、暗唱できるようにする。最後には学習した文型を使いながら、自分自身について語る力を身につけ、自己紹介ができるようにする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	中国語Ⅱ	この授業では、「中国語Ⅰ」で学んだ初級段階の発音と基本文法事項・語彙についての復習を交えつつ、一段階進んださらに多くの語彙や呼応関係、文法事項を学ぶ。特に日常生活や中国旅行など、実際の場面で役立つ例文を豊富に学習し、繰り返し練習問題に取り組むことで理解を進める。音読練習、暗唱を盛り込み、頭で理解するだけでなく中国語の音を体で感じながら、発音と構文を一体として習得する。また2人組みでの会話の発表などを通じて実践的な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	スペイン語Ⅰ	スペイン語の入門・初級クラス。前半はスペイン語理解の基礎として、アルファベット、名詞の性・数、冠詞、形容詞、ser動詞、estar動詞、規則動詞、不規則動詞の現在形を講義する。講義した文法事項を踏まえて「聴く」「話す」訓練を実施する。後半はより複雑な表現や点過去形、線過去形、未来形、現在完了形などの時制、接続法の初歩について講義し、「読む」「書く」訓練を重視する。スペイン語話者との間で簡単なコミュニケーションができる(ヨーロッパ言語共通参照枠A2)程度の語学力を習得することを目標とする。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	スペイン語Ⅱ	スペイン語の初級・中級クラス。複雑な文を理解するために、直説法の時制、人称代名詞の目的語の用法、再帰動詞、受動文、知覚文、無生物主語文などについて講義する。構文を理解することで、会話での「聴く」「話す」能力ばかりでなく、メールや雑誌などを「読む」「書く」能力を高める。スペイン語話者との間で率先してコミュニケーションができる(ヨーロッパ言語共通参照枠B1)程度の文法事項と語彙を習得することを目標とする。	
総合教育科目	外国語科目	日本語	日本語Ⅰ	外国人留学生が日本語で口頭発表したり2,000字程度のレポートを書いたりするために必要な知識として、日本語の文法および語彙の基本的な学習を行う。文法については、品詞の知識と文章上での単語の使い方を中心に学習を進め、正しい日本語の組み立て方を理解する。語彙については、普遍性の高い言葉を学ぶために新聞記事や小説などを取り上げ、その読解および要約を通して知識を習得する。担当者による講義以外に、受講生に適宜プレゼンテーションや課題作文を実施することによって、より実践的な日本語運用能力を身に付けることを目指す。	
総合教育科目	外国語科目	日本語	日本語Ⅱ	「日本語Ⅰ」をすでに履修した外国人留学生を対象とした授業とする。日本語の語彙・文法についての基礎知識を確認しながら、幅広いテーマについて書かれた本文を読んで内容を把握しディスカッションを行って理解を深める。次に本文について要旨や感想、意見を短文にまとめ、学生同士互いに批評しあうことでさらに手直しし提出する。これらの過程を通して「聞く・話す・読む・書く」の4つの能力にわたって総合的な力を身につける。最後に、本文のテーマに沿ったレポートを書き、明解な文章を構成する力を養う。	共同
総合教育科目	人文系科目		心理学	心理学に対して興味や関心をもつ人は多いが、心理学という学問がどういった学問で、どのようなことを研究しているのか理解している人は少ない。心理学の対象・目的・仕事を明確にし、心理学の代表的な研究方法を学ぶことで、心理学とはどのような学問であるのかを理解する。さらに、心理学の様々な分野(知覚心理学、性格心理学、思考心理学、臨床心理学、社会心理学、動物心理学、教育心理学、発達心理学、生理心理学等)における研究成果を知ることにより、その有用性を確認する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育科目	人文系 科目  哲学	ギリシアに始まる哲学の営みを代表的な学説を紹介しながら、主に時系列に学んでゆく。古代は自然哲学と人間・社会の哲学の関連を、古代末期と中世は、「神」と人間を哲学がどのように考えたのかをみてゆく。近世・近代は、懐疑と科学的精神に基づいた新たな哲学および、その揺り戻しとしての思弁的哲学の展開を追う。「神」なき時代を共通の前提とする現代において、ヨーロッパの哲学がいかに人間のあり方を実存として考え直したのか、日本近代哲学がいかに東洋思想の伝統に西洋哲学を受容したのかを紹介する。最後に倫理学、法哲学、政治哲学など、隣接分野との関連を論ずる。	
総合 教育科目	人文系 科目  倫理学	規範倫理学、非規範的な倫理学、応用倫理学について主要な学説を学んでゆく。規範倫理学については、功利主義、義務論、徳倫理学、討議倫理学の基本的な学説を解説する。非規範的な倫理学は、メタ倫理学と現象学的倫理学を中心に倫理を規範とは別の観点から考察する方法を学ぶ。これらの理論を踏まえた上で、生命倫理、環境倫理、正義論、グローバルジャスティスといった応用倫理学の主要な議論を紹介し、現代が直面する問題の倫理的なアプローチを学ぶ。	
総合 教育科目	人文系 科目  教育学	子どもと教育に関する心理学的、社会学的、哲学的、教育学的な理論を学び、学際的視点から現代社会における教育の課題を検討する。特に1980年代以降の子ども論の理論動向を軸に、高度情報化社会の中の子どもの生活世界の変容や、近代学校制度から始まる学校中心主義の教育言説の構造的問題点についても触れながら、子ども・若者の教育の現代的課題を浮き彫りにし、人間にとっての教育の意味、社会における教育の意味を検討していく。	
総合 教育科目	人文系 科目  言語学Ⅰ	言葉とは何かという素朴な疑問から入り、身のまわりの言葉の不思議な魅力に迫る。言葉について人はどのように考え、どのようにアプローチしてきたのか。言葉に対する人間の飽くなき好奇心の歴史をたどる。人間の認知や心理など、20世紀中葉までの言語学で敬遠されてきた側面に焦点を当て、人間にとって不可欠な存在となった言葉の仕組みの一端を明らかにする。ときに、生物学、脳科学、心理学、哲学、コンピュータ科学、社会科学などの領域についても言及し、関連する日本語の表現や文法現象についても広く見ていく。	
総合 教育科目	人文系 科目  言語学Ⅱ	前半の授業では主に日本語と英語の文法を比較し、その共通点と相違点を整理することを通して、人間言語の普遍性と多様性について考える。後半の授業では、母語話者と第二言語(外国語)学習者の文法知識の習得過程に関する主要な先行研究を概観し、その共通点と相違点および第二言語習得の成否を左右する要因について検討する。最後に、言語の特性や言語習得過程に関する正しい理解をふまえ、効果的な外国語学習法や外国語教育のあり方について議論する。	
総合 教育科目	人文系 科目  文学Ⅰ(日本文学)	日本文学を学ぶということは、言語表現を伴う日本文化のさまざまな事象を理解することにつながる。中でも古典文学は、わが国の伝統的な精神文化を言語表現の分野から形づくった媒体で、日本文化の基盤をなすものである。本授業では、このような日本文化の諸事象に影響を与えたとおぼしき日本古典文学作品の読解を進め、日本文学の源流を学びながら、その本質を理解することを目指す。最終的な到達点としては、日本文化の基幹としての日本文学全体をカバーする幅広い知見を身に付けることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育科目	人文系 科目  文学Ⅱ (中国文学)	中国文学は三千年近い歴史を有し、日本文学や日本文化への影響も計り知れない。本授業は、中国文学を世界文学の一つである点と日本文学との深い関わりとの両方を軸として捉え直す。中国古典文学の多様なジャンルの作品を取り上げ、味わうと共にその特徴を考察する。また、作者の生涯や作品が誕生した社会的あるいは文学史的背景に着目し、文学に表された人間観、世界観について考える補助線とする。古典文学が人間存在の奥深さや世界観の多様さへと我々をいざない、現代の個人や社会の諸問題のありかを照らす灯となることを理解する。	
総合 教育科目	人文系 科目  文学Ⅲ (イギリス文学)	イギリス文学は、幅広いジャンルと長い伝統を持ち、欧米文学への入り口として好適である。この講座では、イギリス文学史の区分に従って講義と作品鑑賞を行い、イギリス文学の魅力を探ってゆく。詩と小説の鑑賞を交互に行いながらイギリス文学の歴史と魅力について学び、時代背景や文化・思想・宗教などについても学ぶ。英詩の鑑賞には英日対訳教材を用い、小説の鑑賞には映画と翻訳を活用するが、時には原書も参照する。鑑賞した作品については授業内でディスカッションを行い、相互に理解を深める。また、作品分析のレポートを書き、文化研究の方法を学ぶ。	
総合 教育科目	人文系 科目  歴史 (近現代)	主として19～20世紀の日本社会を対象にして、日本史学の現状と課題を講義する。長野県地域史の成果や沖縄・北海道・在日朝鮮人など「日本史」をなるべく多様な問題群に開いていくよう意識したい。なお、単なる「概説」ではなく、講義名の内実をも意識して史学方法論もあわせて講義し、近現代世界史のなかで「日本」・長野県を考えて行くこととする。	
総合 教育科目	人文系 科目  民俗文化論	民俗文化 (Folk Culture) とは都市文化 (Urban Culture) との対比で語られてきた文化現象である。民俗学という分野を中心に研究が行われてきたが、文化人類学、社会学、歴史学、文学との関連も深い。参拝、祭り、民間伝承、民俗芸能などの事例から民俗文化に親しみ、現代の観光やデジタルコンテンツとの融合状況を学んで、民俗文化の変容について考える。先駆者の仕事から民俗文化への接近方法を習得し、まれびと、トリックスター、フォークロリズムなど、民俗文化を理解するための専門的な切り口について理解を深める。	
総合 教育科目	人文系 科目  文化人類学	文化人類学とは、文化を通して人間集団について理解する学問分野である。文化とは集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受け、常に変化する。他者とは何かを考えながら、人間が創り出す世界観についてのイメージを持ち、各地の様々な文化現象について、共感できなくても理解する力を習得する。構造主義、文化相対主義、創られた伝統、トリックスター、ポトラッチ、シャーマニズムなどの文化人類学の思考方法や概念を通して世界を見つめた後に、自分とは何か、人間とは何かといった普遍的な問いに立ち返る。	
総合 教育科目	人文系 科目  音楽	第2回～第8回は、エリック・サティの家具の音楽、ジョン・ケージの「4分33秒」、ブライアン・イーノの環境音楽、ノイズミュージックなどの音楽作品や障がい児を対象とした音楽療法の紹介、さらに受講生全員によるワークショップを通して聴くことの意味を考察する。第9回目から第13回は子どもの音楽表現、あるいは障がい者の音楽表現、即興演奏、様々な表現とのコラボレーションを紹介しながら、音楽が生み出されるプロセスについて検証する。なお、第2回、第3回、第7回、第11回、第13回は担当教員によるピアノ演奏や必要に応じてゲストとのコラボレーションを実演する。第14回日は本講義の教育目標でもある「音楽の多様性について」グループごとディスカッションしたのちに、全体でプレゼンテーションを行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	社会系科目	国際関係論	現代の国際社会が直面するグローバルな諸問題（変容する国民国家の役割・機能、多発化する国際的紛争、グローバル化する格差・貧困、悪化する地球環境、国際移動する移民・難民など）を受講生自ら解決する手がかりを見つけ出せるよう、国際関係論の歴史と理論について講義を行う。また、現代の国際関係に関連するビデオ（第1次世界大戦、第2次世界大、冷戦）を用いる。	
総合教育科目	社会系科目	社会学	基本的に講義形式で行い、学生による能動的学修も組み込む。社会学の立場から、現代社会の構造と特徴について講義する。現代社会を、社会学的パースペクティブを用いて分析し、考察できるようになることを目標とする。まず、社会学の方法と視点、社会学が誕生した歴史的背景について解説する。次に、近代社会、リスク社会の特質について、解説する。そして、社会的に重要視され、受講生が関心を持つ問題を取り上げて、そのメカニズムや構造的背景について考察する。特に、身近な分野としての家族、地域社会、男女共同参画社会、NPOや市民の活動などについて社会学的に接近し、履修者間の議論を通じて理解を深める。	
総合教育科目	社会系科目	憲法	この授業では、前半で国民主権や平和主義などの日本国憲法の基本原理や、自由権、参政権、社会権、法の下での平等などの様々な基本的人権について概説する。加えて、判例や事例等を通じて、それらの人権規定が実際に適用される状況や適用の限界等に関わる問題点についての検討も行う。後半では、人権保障のために設けられている立法、行政、司法、地方自治等の統治機構の各機能について概説する。また、改憲手続や近年の改憲論争についても解説を行う。	
総合教育科目	社会系科目	経済学入門Ⅰ	社会を理解するには、消費者や生産者といった個々の経済主体がどのような意思決定に基づいて行動するのかを知る必要がある。また、経済学では、「社会全体にとっての幸せの大きさ」から「その幸せの実現のために必要とされる費用」をひいた、ネットの幸せの部分を最大化することが目的とされる。これらの点を理解するためには専門科目としての「ミクロ経済学」で体系的にミクロ経済学を学ぶ必要があるが、その準備となるよう、この入門講座では、経済学の役割、市場の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性を、現在の経済事情をひもときながら、主としてミクロ経済学の視点でわかりやすく説明する。	
総合教育科目	社会系科目	経済学入門Ⅱ	グローバル化の進む社会と経済を理解するには、家計、企業、国家の役割を統合した大きな視点から理解する必要がある。このためには、専門科目としての「マクロ経済学」で体系的にマクロ経済学を学ぶ必要があるが、その準備となるよう、この入門講座では、企業の役割、国家の役割、家計の役割を、現在の経済事情をひもときながら、主としてマクロ経済学の視点でわかりやすく説明する。	
総合教育科目	社会系科目	社会保障入門	現在の社会保障制度は、グローバル化、少子高齢化、就業構造や地域構造の変容など社会的経済的変化の下でさまざまな課題に直面している。社会保障の持続可能性を巡っては、負担と給付のバランスや世代間格差など社会を分断しかねない議論も展開されている。そこで、入門編である本講義においては、日本や諸外国の制度を概観・比較したり、また、貧困や格差といった個別テーマに関連づけたりしながら、社会保障の理念や内容に関する最低限の知識を修得する。	
総合教育科目	自然・情報系科目	数学的発想	この授業では、数Ⅰ・A程度の知識を前提として、グラフ理論、確率・統計、整数の性質などについての初歩的な講義を行う。これらの数学の身近な応用として、たとえば、グラフ理論ではカーナビの経路探索、確率・統計では宝くじや保険、整数の性質では公開鍵暗号方式などのしくみを理解する。それぞれのテーマごとの講義の後に、応用例に関するグループワークなどを通じた体験的活動を行って、数学的な発想法を経験的に学んでいく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育科目	自然・ 情報系 科目  生命科学	変化が激しくストレスに晒されやすい現代にあって、私たちを取り巻く自然への深い関心と理解を培い、生涯に亘って精神と身体を健康に維持できるように、生物の生命現象を分子の動きを追いつながりながら学び、疾患や失調という形で表出されてくる個体や集団レベルでの課題を理解できるようにする。具体的には、生体構成物質の構造や性質ならびに細胞や器官の働きを理解し、ヒトの健康と密接に関わる栄養、ホメオスタシス、生殖、発生等における基本的な物質の流れを理解する。さらに、生命操作技術の発展が人間社会に及ぼす影響などを理解する。	
総合 教育科目	自然・ 情報系 科目  プログラミング基礎	情報と情報技術を問題発見の解決に活用するためのより発展的な内容を学習する。まず、WWWの仕組みを理解し、HTMLを使った演習、ホームページビルダーを利用したWebサイトの作成を通して情報発信力、情報表現力を身につける。次に、アルゴリズムの記述、変数や制御構造、プログラミングの基礎を学ぶことにより、コンピュータの原理理解を深めるとともに、論理的な思考、問題解決能力を養う。最後にExcelプログラミングでは、より実務的な機能を習得することを目的に、これまで学んだExcel関数をベースに複関数の使い方やマクロの使い方、VBAの基本について学ぶ。	
総合 教育科目	自然・ 情報系 科目  IT活用論	はじめにインターネットサービスとはどんなものなのかを中心に学習する。次にマーケティングに活用するビッグデータの重要性を実践的に体験、習熟する。さらにEC、会員サービスとポイント、インターネット広告、検索などのインターネットサービスの基本サービスの学習と事例紹介、決済FinTech、シェアリングエコノミー、IoTの仕組みと事例を学ぶ。すべての講義において、学生とインタラクティブに対象のサービスを実際に使いながら進め、試しに作ってみるなど、実践的な講義を目指す。いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話をしてもらおう。ワークショップ、グループディスカッションなどを織り交ぜながら、常に動きのある講義にする。	
総合 教育科目	基盤 科目  発信力ゼミ	この科目は、専門ゼミの導入科目としての役割を果たすもので、大学で必要とされる基礎能力：思考・判断力、表現力、アカデミックスキルズなどを学ぶ。各ゼミでは、担当教員の指導のもと、あらかじめ設定したテーマに沿って、各自が独自に調べ、まとめたものを発表し、皆で評価し合う。この機会を通して、読み書き話すといった日本語能力を徹底的にブラッシュアップする。最終学期に、ゼミごとに異なるテーマについて調べた内容を成果としてまとめ、全ゼミ合同の報告会で発表し、論集などの成果物にして残す。	
総合 教育科目	基盤 科目  デザイン思考	世の中の様々なデザインの系譜や事例を整理し、デザインが所謂デザイナーの活動だけではなく、様々な分野や職種で応用・実践できる方法論であることを理解する。今の姿を探る、課題を見つける、アイデアを発案する、試して磨き上げるというプロセスの中で、発散と収束を繰り返して課題を発見し解決するための、様々なツールを実際に体験する。また、関連したノウハウなども学習し、総合演習では、グループで設定したテーマで、これまで学習したプロセスを通して実施することで、デザイン思考による課題の発見と解決を実践する。	
総合 教育科目	基盤 科目  世界の文化と社会 I	日本と密接な関係を持っている多文化・多人種社会アメリカ合衆国について、特に地域・人種・日米関係等の視点から、基本的に理解するための講義を進めてゆく。またアメリカ文化が幕末・明治時代以降現在に至るまで日本においていかに受容されてきたのかを概観し、さらにグローバルな視点からアメリカ文化と日本及び東洋の文化との間の比較的考察を試みる。質疑応答・議論などの機会も設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育 科目	基 盤 科 目  世界の文化と社会Ⅱ	日本と歴史的に密接な関係を持つ、中華人民共和国および台湾・シンガポールなど漢語通用地域の社会、政治、文化、民族問題などについて、基礎的な情報を理解することを目的として講義を進める。グローバルな視点から日本・中国など東アジアの現在までの歴史的展開について概観しながら、現在の東アジア情勢の原点について考える。また日本の文化と中国の文化の相違についても考察する。質疑応答・議論などの機会も設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。	
総合 教育 科目	基 盤 科 目  象山学	イノベーターを学外から招き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう講義である。イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、講師をファシリテーターとし、学生自らが自分の問題として考えていく。これまで、整理された知識を受動的に身につける機会が多かった学生に対し、複雑な現実と格闘する先達の姿を見せ、能動的に現実を向き合っていくきっかけを与え、現実と向き合って社会に貢献していく方法を身につけてもらう。  (オムニバス方式／全14回)  (4 真野 毅・27 首藤 聡一郎／2回) (共同) ガイダンス、ディスカッション (自分が考える経営のイメージとポイント) : 第1回及び第14回講義 (4 真野 毅／6回) 起業の難しさと面白さ、ソーシャルビジネス、行政におけるイノベーション、ディスカッション (イノベーターになるには?)、サービス産業におけるイノベーション、ベンチャーキャピタル: 第2回～第7回講義 (27 首藤 聡一郎／6回) 農業におけるイノベーション、ものづくりにおけるイノベーション、ディスカッション (イノベーションを起こすためには?)、経営者の責任と面白さ、経営戦略の重要性、組織マネジメントの難しさ: 第8回～第13回講義	オムニバス 方式・共同 (一部)
総合 教育 科目	基 盤 科 目  信州学	大学で身につけるべき教養とは、精神的に豊かに生きるための知識である。そのためには、自分で問題を見つけ出し、解決する能力を身につける必要がある。君たちは何故ここにおいて、これからどのように生き、未来を創っていくべきか。この大きな課題に迫るためには、最も身近な足下から見直していかなければならない。この授業では、長野県立大学なのにどうして、旧国名を冠した信州学なのか、善光寺はあの場所であればいけないのかなど、信州の歴史や民俗に基軸を置きながら、君たちが学ぶ長野県を多面的に理解できるようにする。	
総合 教育 科目	基 盤 科 目  情報リテラシー	コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。	
総合 教育 科目	基 盤 科 目  健康と運動科学Ⅰ	本講義では講義・実習・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。	講義7回 実技7回

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育 科目	基盤 科目  健康と運動科学Ⅱ	<p>学生自身のからだところへの理解は、知識だけではなく「からだを動かす」ということを通しても広がり、深まってゆく。そのため、できるだけ幅広い分野の教材を取り上げたい。健康・運動・スポーツは、分かる・理解するなどの「知識」を身につけるだけでは不十分で、「実践」につながってこそ始めて完結する。ここに健康と運動科学授業の意味と重要さがある。自分自身でやってみることで、自分自身のからだを実感し、その中の客観的・科学的理論を抽出し、これを再意識して「からだ」についての知識とからだそのものを結び付ける授業としたい。</p>	講義 7回 実技 7回
総合 教育 科目	基盤 科目  シーズンスポーツ	<p>長期休暇を利用して合宿形式で新しい仲間を作り、自然体験を通して他者との交流を持ちながら、心身ともに充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り、創っていくための様々な方法や技能を学ぶ。自然の中での活動を通して自然環境の理解を図る。授業は長野県内の豊かな自然環境を利用したプログラムを行う。シーズンスポーツを通して、自然、ひと、自分とうまく付き合っていく方法を学んでいく。</p>	
総合 教育 科目	基盤 科目  グローバル教養ゼミ	<p>専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。</p> <p>(5 張 勇) 異文化圏に暮らす人々の体格・体力・生活習慣について考える (9 谷口 真由実) 中国語及び中国文学(特に古典)・中国文化について考える (15 坂 淳一) 英国の文学及びその背景となる文化・歴史について考える (22 二本松 泰子) 日本語及び日本文学(特に古典)・日本文化について考える (23 萱津 理佳) 情報通信技術 (ICT) の利活用・情報教育について考える (26 織田 竜也) 文化人類学の諸概念について考える (28 馬場 智一) フランス語・ドイツ語及び哲学・倫理学の諸問題について考える (30 中島 基樹) 言語の文法とその習得過程について考える</p>	
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 科 目  経営学入門	<p>経営学は、営利企業、公的組織を問わず、組織の経営行動の最適化を目的に体系化された学問であり、社会や市場、顧客などの組織外部との関係性の側面と、組織を構成するリーダーやメンバーの意識や行動、設備や技術などの経営資源の活用といった組織内部の側面がある。授業では、第一に経営学とは何か、経営学を学ぶことの意義について、第二に企業はなぜこのような行動をとるのか、競争優位を獲得するための企業の経営行動について学ぶ。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	<p style="text-align: center;">政策科学</p> <p>本講義は、学部の1年次全員を対象に、政策の基本的な事項や政策を理解するために必須となるデータ・リテラシーを学ぶことを通じて、経済政策や公共政策を今後学習するための基本的な素養を涵養することを目標とするものである。具体的には政策の立案、実施、評価の基本的な過程に関して、個別事例を通じて理解を促すとともに、政策を作成する上で欠かすことの出来ないアンケートや各種統計データに関する基礎的な見方を学び、政策に関する基本的な知識の習得を目指している。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(13 田村 秀/11回)</p> <p>政策形成プロセスに関する具体的な事例を通じて、アンケートや統計データなどの情報リテラシーの有益性と政策形成への活用方を習得する。</p> <p>⑥ 中村 稔彦/3回)</p> <p>政策立案・評価に必要な経済波及効果の算出方法について事例をもとに理解を深め、経済波及効果の算出上の問題点と解決方法について考察する。</p>	オムニバス 方式
専門 教育科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	<p style="text-align: center;">マーケティング入門</p> <p>マーケティングの考え方やフレームワークは、一般的な企業はもとより、行政機関や教育機関、医療機関といった様々な組織で活かすことができる。さらに言えば、身近なグループや個人の行動にすら適用することが可能である。本授業は入門という位置づけであるため、特に基本的なフレームワーク（環境分析、STP、4P）に焦点を当て、それらを理解し活用できるようにすることを狙いとする。なお、出来る限りイメージしやすいように事例を多く示すこと、各論となるマーケティング関連科目への橋渡しとなるような俯瞰的な視点を提供することの2点を意識した授業を行う。</p>	
専門 教育科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	<p style="text-align: center;">アントレプレナーシップ 論</p> <p>本講義では、アントレプレナーシップ（起業、創業）という現象がなぜ生じるのか、アントレプレナーシップを生じさせる構造はどうなっているのか、アントレプレナーシップと地域再生や地域活性化にはどのような関係があるのかを学習する。具体的には、事例を扱いながら、アントレプレナーの役割とアントレプレナーにとって必要な要素を学習する。そして、地域との関係性をどのように構築し、地域の活性化に貢献する手法を学ぶ。</p>	
専門 教育科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	<p style="text-align: center;">ソーシャル・ビジネス論</p> <p>近年、社会的課題の解決にビジネスの手法を活用する「ソーシャルビジネス」が台頭し、社会的にその期待が高まっている。本講義では、ソーシャル・ビジネスの台頭した社会的背景、役割、特徴について学び、事例の検討をおこない、ソーシャルビジネスの本質について学習する。講義では、本質を理解するために、ディスカッション、ワークシヨップ、映像鑑賞などを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につける。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 目	海外実地研修 A	<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 ミズーリ大学コロンビア校 (アメリカ合衆国・ミズーリ州コロンビア)</p>
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 目	海外実地研修 B	<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 リンカーン大学 (ニュージーランド・クライストチャーチ)</p>
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 目	海外実地研修 C	<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 Ara Institute of Canterbury (AICクライストチャーチ工科大学) (ニュージーランド・クライストチャーチ)</p>
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 目	海外実地研修 D	<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 スウェーデン市民大学ウプサラ校 (スウェーデン王国・ウプサラ)</p>

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	海外実地研修 E	<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 アテネオ大学 語学学習センター (フィリピン共和国・マニラ)</p>
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	海外実地研修 F	<p>受入校による多様性を活かすが、語学研修（英語）とビジネス研修により構成する。語学研修（英語）は、「ビジネス」をテーマとし、学生の英語力に合わせた難易度（TOEIC500点程度）のビジネスイングリッシュを盛り込みながら、2年次1学期までに英語集中プログラムを通じて習得した英語力のうち、特に発信する力（会話やプレゼン力）を重点的に伸ばす内容とする。ビジネス研修は、講義、ワークショップ、ジョブシャドウイング、企業訪問、調査研究などの活動を研修先に応じて組み合わせながら実施する。研修先の国や地域ならではの産業に関連する企業やNPOへの訪問を週1回行い、その前後に、講義やワークショップ形式の事前準備や振り返りを行うことを基本とする。研修の最後には、まとめのプレゼンテーションを行う。</p> <p>【研修先】 レスター大学 (英国・レスター)</p>
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	国内実地研修	<p>海外実地研修A～Fを履修できない学生のための国内における代替研修として、語学研修（英語）とビジネス研修により構成し、英語による対話力の向上、異文化に対する理解力の向上等を目標とする。語学研修（英語）は、ネイティブ・スピーカーによる国際ビジネスの場面で交わされる会話を中心に学ぶ内容とし、ビジネス研修は、海外に事業展開をしている企業等の海外勤務経験を有する社員等によるビジネスの実情を学ぶレクチャーなどを組み込んだ研修、インバウンド拡大への取組を行う企業等における研修等を組み合わせる内容とする。</p>
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	海外経営経済演習 I	<p>自身が参加する研修先となる国（海外実地研修に参加しない学生は、担当教員と相談して定めた任意の国）について、政治、社会、文化、民族、経済、産業の具体的な特徴を学生自身で調べて報告し、議論し、研修先における学修の要点について教員のアドバイスを受ける。適宜、英語による発表を取り入れる。訪問国を中心とした海外諸国の経済社会事情について基礎知識を得ることと英語によるプレゼンテーションの機会を与えて経験値を高めることを目標とする。</p>
専門 教育 科目	専 門 学 部 基 盤 共 通 科 目	海外経営経済演習 II	<p>自身が参加した海外実地研修における経済学、経営学、社会学、行政学等に係るテーマ（海外実地研修に参加しなかった学生は、「海外経営経済演習 I」履修時に担当教員と相談して定めた任意の研究対象）について、その概略、研修から得られた知見、自身の経営上のアイデアや政策判断を、主として英語でプレゼンテーションし、クラス全員で議論し、教員のアドバイスを受け、その後の専門分野における学びの動機付けとする。</p>

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目  基盤科目 コース専門	経営組織論	<p>今日の社会は組織なしには動かない。そのため、組織について基本知識を持つことが不可欠である。つまり、組織全体をいかにマネジメントするかを考える必要があり、また組織のなかの人間行動に注目することが不可欠である。本科目では、経営組織論、特にマクロ組織論（組織理論）に注目し、今後の社会生活において必要不可欠な組織についての知識や技能を、講義や演習、事例分析を通して身につける。そしてこうした知識・技能を活用して、組織をマネジメントする基礎的な実践能力を涵養する。</p> <p>本授業では、経営組織論に関する様々なテーマについて、講義形式の授業、事例分析やグループ活動、ビデオや動画などのAV資料などを通じて効果的に学習する。また本授業は、最初の数回で「組織論の全体」を把握し、その後「組織と環境との関係」、「組織の成長・発展の方法」を主題にしなが、経営組織論の各論を学習する。</p>	
専門教育科目  基盤科目 コース専門	ミクロ経済学	<p>消費者は何をどれだけ消費（需要）するか、企業はいかに生産活動を行うのか、市場価格はどうか、独占はなぜ問題なのか、市場機構の限界と政府の役割は何かなど一般的な市場メカニズムの理論を体系的に講義するとともに、近年目覚しく発展してきたゲームの理論や情報の経済学の基本事項を学び、高年次における応用科目への橋渡しを行う。現実の経済問題をミクロ経済学のツールを用いて分析した英文レポートの提出を通じて、ミクロ経済学を現実に用いる能力を養う。</p>	
専門教育科目  基盤科目 コース専門	ファイナンス入門	<p>ファイナンスは、将来の利益が確実でない状況での資金の貸借を研究している。企業は、不確実性を伴う事業に必要な資金を調達し、その利益から資金を返済している。経営者や金融機関の担当者、投資家が企業活動を金銭的な観点から評価し、正しい意思決定をするためには、ファイナンスの知識が必要になる。本講義では、経営学系、経済学系の専門教育科目（発展科目）の学習に必要な基礎知識や予備知識の修得を目指し、初学者が理解しやすいように、金融機関や金融市場の概要から取り上げ、ファイナンスの基本的な考え方を学習する。</p>	
専門教育科目  基盤科目 コース専門	原価計算入門	<p>世の中にはものを販売する小売業もあれば、ものを製造する製造業がある。本講義では、主に製造業において原価を計算し、それを報告する会計手法である工業簿記を学ぶ。原価には製造原価、販売費、一般管理費などがあり、製造原価はさらに材料費、労務費、経費に分類される。これらの費用をどのように計算すれば、適切に企業の生産活動をコントロールできるのかを学ぶのが工業簿記です。本講義では実際に電卓をたたき、問題演習を豊富に解きながら、この工業簿記の基礎を勉強する。</p>	
専門教育科目  基盤科目 コース専門	アカウンティング入門	<p>アカウンティングは、経済主体のビジネス活動を、主として、貨幣額を用いて認識・測定を行うことにより会計情報に要約し、様々なステークホルダーに伝達する行為である。各ステークホルダーは、この会計情報を、自己の経済的意思決定における判断材料として利用する。それゆえ、今日、ビジネスに関わる者は、少なくとも、アカウンティングという行為が社会的にどのように機能し、またいかなる問題に関わっているのかを理解した上で、その作成と利用に関する基本スキルを身につける必要がある。</p> <p>本講義では、こうした社会的ニーズを勘案して、アカウンティング領域のおおまかな全体像を初学者に示しつつ、上記の基本スキルのうち、入門レベルの複式簿記の技法および会計理論の習得を目標に学習を進める。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	コース専門 基盤科目  地方財政論	「地方財政論」の講義の到達目標は、受講生が地方財政の理論、制度、歴史、政策等を包括的に理解することだけでなく、それらをもとに現在直面しているわが国の地方財政上の様々な課題を自己評価する力を身につけることであるため、講義では単に知識を修得するにとどまらず、講義の中で学生自身が「望ましい地方政府と地方財政の姿」を考えられるようにしたい。具体的には、毎回、理論や制度の説明を行うだけでなく、地方財政の実態や問題点、改革案を明示したり、学生に意見を求めることにも力点を置くようにする。実態や問題点をより明確にするために、多数の財政統計資料（図表）も配付する。また理解力、思考力を高めるために、毎回授業の最後には、受講生に講義内容の要約や感想、課題の解答等をコメントシートにまとめさせる時間を設ける。	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目  行政学	本授業では、行政学の基本的な考え方を学び、行政が果たすべき役割と機能について考察する。具体的には、教科書や参考書を基に講義を行い、行政システム、官僚制、行政組織、公務員制度、政策過程に関する基礎的な理論を習得するとともに、具体的な事例を取り上げることで、理論を現実の問題に応用する力を養う。さらには、政治と行政（政官関係）、国と地方（中央地方関係）、行政と民間（官民関係）、行政と住民（行政統制）など、行政を取り巻く多様なアクターとの関係について考察し、行政を様々な角度から理解するための視点を養うことのできる講義とする。	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目  社会調査論	基本的に講義形式で行い、学生による能動的学修も組み込む。社会調査についての基本的な理解の習得、社会調査報告書を読むリテラシーを身に付けることを目標とする。社会調査の意義、社会調査の歴史、社会調査における倫理、調査の種類と具体例、量的調査と質的調査の相違と特徴、調査目的に応じた調査方法の選択、調査の企画・設計、標本抽出と誤差、調査票の作成法（ワーディング）、質的調査法、フィールドワークの仕方など、データ収集から分析するまでの具体的な方法についても解説する。	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目  リーダーシップ論	リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」のことである。「リーダーシップ論」の授業では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロアー、現在と今後のリーダーシップのあり方などの論点と実践的な事例を取り上げる。授業方法は、講義に加えて、課題や事例についてのグループ討議、発表と質疑を行い、受講生が主体的に学べるものとする。	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目  経営戦略論	企業の経営戦略について講義する。特に詳細に取り扱うのは、企業のポジショニングや関係性を重視する経営戦略論と、企業内部の経営資源の蓄積と活用や人々の学習を重視する経営戦略論である。加えて、ゲーム理論の要素を組み込んだものなども取り扱う。講義の中で現実の企業事例を題材に議論を行うことで、理論に対する理解を深めると同時に考える力を養ってもらおう。また、ケースディスカッションを通じて、理論を用いて現実を理解し分析する力を養成する。	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目  公共哲学	社会についての西洋哲学の歴史を辿り、現代社会が抱える公共性の問題を考えるための手掛かりを学んでゆく。まず古代ギリシアから中世における理想体制論と、その体制を形成する主体の徳論を辿る。次いで近世・近代にかけてのユートピア論、社会契約論の様々な形態を概観する。近代の国家論・市民社会論の到達点としてヘーゲルの思想を外観したのち、現代における公共性の議論を主にドイツの戦後思想とアメリカの正義論を巡る諸々の立場を通じて紹介する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	コース 専門 基盤 科目	地方自治論	<p>本授業では、地方自治の基本的な仕組みを学び、今後の課題を考察する。前半の授業（第1回～第7回）では、地方自治に関する歴史と理論、地方分権改革の動向、さらには地域政治システムについて検討を行う。後半の授業（第8回～第14回）では、自治体の政策過程とそこにおける住民参加・協働の重要性を解説するとともに、まちづくり、地域福祉、防災・危機管理といった具体的な政策課題を取り上げ、行政と企業、NPO、地域住民の協働のあり方について自治体の実践を交えつつ実証的な検討を行う。以上により、地方自治の基本的な仕組みに関する知識の習得のみならず、地方自治の現実の姿を多面的な視点から理解することができる講義とする。</p>
専門 教育 科目	コース 専門 基盤 科目	民法概論	<p>この授業では、所有権(物権)・契約・不法行為(財産法と称する分野)を一通り学び、民法の基礎を固める。契約が有効に成立するには、一人前の取引能力を有すること、真意が相手に正しく伝わっていること、契約内容が適法性・社会的妥当性を有することが要求されるが、これを代理や時効とともに学ぶ。そして、その契約を通して不動産や動産の所有権を他人に移転するが、その所有権の有する支配権という強力な権能から生ずる様々な問題のほか、交通事故・公害・欠陥商品など身近に起きる不法行為と損害賠償に関する問題も学ぶ。</p>
専門 教育 科目	コース 専門 基盤 科目	キュレーター概論	<p>起業するしないにかかわらず、未来を切り拓く基礎的な力として、俯瞰的な視点、事柄の本質を問う力、価値を自ら定義する力を身につけておきたい。本科目では、これらの力が必要になる「キュレーター」が重要視される社会的背景を理解し、講義、ワーク、グループワークを繰り返すことで実際にこれらの力を養う。ケーススタディではリアルな社会課題を取り上げる。受講を通じて、自分の思考が枠にはまっていることに気がつき、広い視野と高い視点で物事をとらえる基本姿勢を持てるようになる。</p>
専門 教育 科目	コース 専門 基盤 科目	長野県の経済と産業	<p>現在、急激な人口減少や高齢化が進む中で「地方消滅」がさげばれており、いかに持続可能な地域経済を考えていくかが課題となっている。本講義では、長野県の経済と産業に焦点を当て、地域経済の現状や課題がどのようになっているのか、個別の自治体や産業の実態にも焦点を当てつつ解説していく。また、地域経済に関するいくつかの経済理論を紹介しつつ、持続可能な地域経済のあり方や、それを支える政策のあり方について考えていく。</p>
専門 教育 科目	コース 専門 基盤 科目	組織行動論	<p>リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」のことである。「リーダーシップ論」の授業では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロワー、現在と今後のリーダーシップのあり方などの論点と実践的な事例を取り上げる。授業方法は、講義に加えて、課題や事例についてのグループ討議、発表と質疑を行い、受講生が主体的に学べるものとする。</p>
専門 教育 科目	コース 専門 基盤 科目	グローバル・ビジネス	<p>グローバル・ビジネスは、多様で複雑なグローバルな事業環境において、企業は、それぞれの国においていかにして最適な経営を行うべきか、研究された学問分野である。授業では、第一に現代のグローバル経済社会にはどのような特徴があるのか、第二に進出国の産業政策、文化や経済システムの違いなどによって外国企業にとって不利な立場にあるのに、なぜ企業は進出し、競争優位を実現することができるのか、企業のグローバルな経営行動について学ぶ。 (アクティブ・ラーニングによる講義形式となる。)</p>

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	コース専門 基盤科目	経営統計学入門	
		<p>この授業では、経営科学の基礎である統計学の入門事項を履修する。平均値と分散、度数分布、回帰と相関の分析、標本分布、および推定と検定をテキストに沿って進める。受講者の理解を助けるため、都度、計算演習を課す。</p>	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目	地方行財政基礎演習	オムニバス 方式・共同 (一部)
		<p>第1回の授業で、授業の進め方と長野県における地方行財政の概要を担当教員2名が説明する。第2回～13回までの授業には、県内各地で特色ある政策を行っている自治体職員や地域活動を行っている方などにゲストスピーカーとして講義をしていただき、そのお話を受けて、講師と受講生の間で質疑応答を行う。毎回の講義の最後に、ゲストスピーカーの話の要約と質問を受講生に書いてもらう。第14回の授業で本講義のまとめを行ったのち、学期末に「私の自治体の政策」についてのレポートを作成する。地域政策について関心の幅を広げ、考察力を深めることができる講義とする。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>⑥ 中村 稔彦・⑦ 野口 暢子／2回) (共同) 長野県の事例を中心に、地方行財政システムの概要と地域の魅力を高めるための具体的政策のあり方を考察する。</p> <p>⑥ 中村 稔彦／4回) 地域における特徴ある政策や取組事例に関するゲストスピーカーとの議論を踏まえ、地方財政に比重を置いた政策立案への考察力を涵養する。</p> <p>⑦ 野口 暢子／8回) 地域における特徴ある政策や取組事例に関するゲストスピーカーとの議論を通じて、地方自治のシステム・政策に関する理解を促進し、地域課題のための政策提言の素養を涵養する。</p>	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目	行政法	
		<p>行政法は、憲法、民法、刑法などとは異なり、行政法という名前の単独の実定法はない。このため、本授業では、「行政法」を行政に関する法を総称するものと定義したうえで、行政法の基本的な概念及び特徴的な仕組みを、国家行政組織法・地方自治法・情報公開法・行政手続法・行政不服審査法・国家賠償法・個別の行政作用法などの実定法の条文及びそれらに関する判例を参照しつつ、学習する。授業方法は、講義形式で行うが、参加人数に合わせて可能な限り双方向性を確保する。</p>	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目	コミュニティ・デザイン (概論)	
		<p>基本的に講義形式で行い、学生による能動的学修も組み込む。コミュニティデザインを学ぶためのコミュニティの基礎的知識を理解することを目標とする。講義内容の柱は次の3つである。第一は、コミュニティに関する社会学者による理論的展開について、第二は、コミュニティを地縁型とテーマ型に分け、それぞれの構造と現状、課題について、第三は、コミュニティのデザインとしての公共政策、住民による市民活動・まちづくりについてである。これらを通じて、受講者とコミュニティとのあり方について考察を深める。</p>	
専門 教育科目	コース専門 基盤科目	地域マーケティング	
		<p>地域マーケティングとは、まちづくりや地域の問題解決、地域活性化のためにマーケティングの理論や技法を適用することである。標的市場の選定やマーケティング・ミックスなど、マーケティングの基本を学んだ後、地域にとっての顧客であるビジター、住民、企業をいかに引き付け維持するか、また地元企業にとっての顧客である地域内外の人々や企業に地元企業の商品やサービスを購入してもらうためにいかに地元企業を支援するか、等を事例を交えて解説する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基盤科目 コース専門	ソーシャル・イノベーション論	<p>ソーシャルイノベーションとは社会的課題の解決や社会的課題の創出を止める新しい商品やサービスの提供、およびその新しい仕組みの提供である。本講義は、ソーシャルイノベーションが必要とされる社会的背景（市場の失敗、政府の失敗、NPOの失敗およびその相互補完の失敗）、ソーシャルイノベーションの創発プロセス（クロスセクター・コラボレーション）、そしてソーシャル・イノベーションの必要とされる理由について、事例や映像を交えて学ぶ。そして、参加者と議論しながら企業セクター、公共セクター、NPOセクターのそれぞれの役割について考える。そして、個人の在り方について学ぶ。</p>	
専門教育科目	基盤科目 コース専門	地域イノベーション論	<p>長期間にわたる国内景気の低迷や安価な輸入品との競争激化などにより、日本の多くの地域・地場産業が衰退の一途をたどっている。本講義では、長い歴史の中で生き残ってきた国内外の代表的な地域・地場産業を取り上げ、その持続性を支えるイノベーションを生み出してきた企業家や地域企業、非営利組織（NPO）、社会的企業の活動について学ぶ。これらの主体がどのようなロジックで地域社会の変革を引き起こすのかについて、理論的な説明に加え、具体的な事例を取り上げて議論する。</p>	
専門教育科目	展開科目 経営学系科目	経営史	<p>18世紀の産業革命の時代から21世紀の現在までを対象にして、日本、アメリカ、ヨーロッパ、そしてアジア地域における、ビジネスとマネジメントの歴史を概観する。グローバルとローカルの関係に留意しつつ、各時期の政治・経済・社会・文化の背景を踏まえて、市場に対する創造的な適応であるイノベーションの実現の観点から経営史を纏っていく。このように歴史から思考の糧を得ることを通じて、歴史感覚と国際感覚を磨き、多角的な視点で物事に創造的にアプローチできる力を養うこととしたい。</p>	
専門教育科目	展開科目 経営学系科目	企業家論（トップ・マネジメント論）	<p>民間営利企業、NPO・NGOなどの非営利団体などの経営者（トップ・マネジメント）について、基本的な理解を得ることを目指す。具体的には、①経営者の果たす役割・機能、②経営者の様々なタイプ、③生い立ちや経営者になるまでの歩み、④経営者として成功するための条件、⑤経営者の陥りやすい罠、失敗の要因などに関して、内外の色々な経営者の伝記やビデオ、経営者論などを通じて学ぶ。もし条件が合えば、実際の若手経営者にゲスト講師として参加いただき、学生と対話をして頂くことも考えている。</p>	
専門教育科目	展開科目 経営学系科目	健康マネジメント論	<p>健康な社会づくりとは何か、地域のあるべき姿を描き、何をすべきかを考える力を養う。健康的な地域社会の実現のために、地域全体のアセスメントから健康ニーズや取り組むべき課題を明確にし、計画・実施・評価を展開する方法を学ぶ。これらに基づいて地域住民及び保健・医療・福祉・企業等を含む地域にある様々な社会資源と連携して、いかに健康的な地域社会づくりをマネジメントするかを理解するために必要な知識（健康や連携の意義、健康づくりを支える地域システム、事業化・施策化など）を学び、地域特性に合った社会づくりの必要性を理解する。</p>	
専門教育科目	展開科目 経営学系科目	中小企業論	<p>本講義では、地域企業の現状をふまえ、中小企業の直面する課題を具体的に考察する。まず、グローバル化、IT化、ものづくりの課題、事業承継など、日本経済の環境変化の下での中小企業の直面する課題について概説する。次に、創業率の低下、高齢化の進展、ものづくり産業の衰退など、長野県の地域企業の状況を学ぶ。さらに、ポーターのクラスターの理論、フロリダの学習地域論等をふまえ、地域中小企業の競争優位について考察する。また、国や自治体の中小企業政策についても、その変遷や現状に触れつつ、今後の展開を考える。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	組織間関係論	<p>組織間関係とは、一定の環境下において、ある組織と別の一つあるいはそれ以上の組織との間で生じる関係のことである。その対象は、営利企業だけではなく、NPOや行政組織なども含まれる。そのため、企業間の協調関係、企業と非営利組織との関係、企業と行政との関係、あるいは複数の異なるセクター間協働などが、この範疇に入る。また環境変化が激しい現在では、単一組織だけで十分な成果をあげることが難しくなっており、そのために他組織と何らかの関係を構築することが求められている。</p> <p>本科目ではこうした組織間関係を、先行研究（理論）と事例（実践）の両側面から検討し、組織間関係が生じるメカニズムは何か、関係を継続・発展するためにどのようなマネジメントが必要か、さらには組織間関係によってどのような付加価値が創造されるのか、などを考える。これら考察により、組織を運営するための実践的なマネジメント能力を涵養する。</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	B o P ビジネス概論	<p>BoPビジネスでは、多様で複雑なグローバルな環境において、SDGs（持続的な開発目標）に向けて、主に途上国・新興国でどのようなビジネスが行われているのかについて学ぶ。そのために、①世界で起きている社会課題を認識し、②このような社会課題（主に途上国・新興国と言われる地域での）に対してどのようなビジネスが興ってきているのかを知り、③グローバルな課題と自分自身をつなげて考えることができるようになるための演習なども含める。また、ワークショップ実施や、ゲスト講師をお呼びするなどを予定している。</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	人材マネジメント論	<p>人材マネジメントとは、経営資源の中で最重要とされている人材、すなわち人的資源（Human Resource）を対象とする経営管理の一分野で、人材の計画、活用、育成などに関わる諸活動から成り立つものである。本授業「人材マネジメント論」では、人的資源管理の基礎となる知識と重要な概念、実際の役割や機能について、体系的に理解を深める。具体的には、人的資源とそれにかかわる環境、経営、戦略、雇用、評価、異動、報酬、育成等について学ぶ。</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	経営情報論	<p>本講義では、情報に関連する経営の基礎理論と結びつける形で現実の企業における情報技術活用について講義していく。このような形をとるのは、情報技術は大きなポテンシャルを有するが、あくまでツールであり、その上手い活用のためには企業における情報の流れに対する深い理解が必要とされるためである。本講義を通じて受講者は、情報という観点から経営学の諸理論を捉え直すことができると同時に現実の経営における情報の利活用について深く考えられるようになる。</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	企業倫理	<p>本講義では、企業倫理について、主に以下の4項目を学習する。</p> <p>(1) 企業倫理とは何か；企業不祥事、コンプライアンス、CSRなどに触れながら、企業倫理とは何かを概説する。</p> <p>(2) 我が国における企業倫理の変遷；近江商人の三方よし、CSRの先駆者、伊庭貞剛など、企業倫理の先駆的な事例を考察する。</p> <p>(3) 市場経済とCSR：フリードマンのCSR否定論、ポーターのCSVなどを例に引き、市場経済の下での企業の役割を考える。</p> <p>(4) 企業倫理の今日的課題；食品産業の不祥事や製品欠陥問題などの事例をあげ、その原因と対応策のあり方を考える。</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	グローバル・ビジネス演習	<p>グローバル・ビジネス演習では、主にグローバルに活動する日本企業の事例について検討し、ディスカッションする。企業は、先進国、発展途上国を問わず、異文化社会やその国の産業政策への対応、各国市場での競争優位性の維持が求められており、そのための経営戦略、技術移転、生産、経営組織、人事管理、マーケティング、研究開発、海外子会社経営など国際経営の主要な側面について、企業の直面した経営課題やその解決策などを具体的に考察する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	コーポレート・ガバナンス	「企業を誰が、誰のために、どのように統治すべきか」というコーポレート・ガバナンス（企業統治）については、時代や国によってその捉え方が大きく異なっている。本講義では、コーポレート・ガバナンスの基本的な仕組みとその機能について学習したうえで、株式会社制度の歴史を振り返りながら、企業統治のあり方がどのように変遷してきたのか。そして、国・地域によって企業統治の実態がどのように違っているのかについて、各国の具体的な事例を取り上げて議論する。	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	セルフ・マネジメントと社会イノベーション	「私」という存在は、世の中のシステムの縮図である。この授業では、とかく、頭を使うことに偏りがちな現代の我々が、感情や身体性にもアクセスしながら、自分自身のシステムやパターンに気づき、地域や社会のシステムに気づくことが、結果として、自らの進化や社会の変革につながっていく流れを、体感とともに科学としても学ぶ。なぜ、グローバル企業や世界の教育現場、リーダー育成などで、今、マインドフルネスが重要視されるのか。受講生とともに、自らに気づき、つながることから始まる社会イノベーションを実践、体感する場を共創する。	共同
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	ソーシャルビジネス・プランニングⅠ	本講義は、プランニング基礎編として、講義に加えて個人ワークとグループワークを組み合わせ、主体性と創造力を養う。Ⅰではプランニングの前提として持つべき“望ましい姿”を醸成する。ソーシャルアントレプレナー事例からイメージを膨らませ、価値基準が貨幣価値だけではないことを理解し、マルチステークホルダーとの四方よしの関わり方を理解する。商いの立場交換の実習や未来構想力トレーニングを取り入れる。受講を通じて、ビジネスで“きれいごと”を言ってよいのだ、ということを理解する。	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	ソーシャルビジネス・プランニングⅡ	本講義は、Ⅰに引き続き、プランニング基礎編として、ソーシャルビジネスの形成過程が理解できる。創業者が事業化に進む時の“スイッチ”はどこで押されるのか、事業原動力、継続モチベーションは何か、事例から理解する。県内外のソーシャルビジネス事業者と一般の事業者のリサーチを実習で取り組み、ソーシャルビジネス事業が創業者の体験や価値観と深くつながっていること、事業を貫いている理念が明確な場合が多いことを理解する。受講を通じて、生き方が働き方とつながっていること、未来構想力がカギになることを理解する。	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	ソーシャルビジネス・プランニングⅢ	本講義は、プランニング実践編であり、Ⅰ、Ⅱを履修済であることが望ましい。実務的な指導を含めて実際のプランニングに取り組む。講義と実習から基本的なプランニング力を身につける。Ⅲではプランニングに必要な要素、事業化する際のポイントを理解する。実習では、他者の事業を使って模擬プランニングを行い、さらに“よいビジネス”にするにはどうすべきか机上検討し、グループ討議では視点の多様性の価値を理解する。なお、受講時点で具体的な事業プランや希望がある学生は、相談に応じる。	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	ソーシャルビジネス・プランニングⅣ	本講義は、Ⅰ～Ⅲの集大成としてマイプランニングを行う。ライフプランニングも並行させ、なりたい自身の姿を投影したビジネスプランニングの実務を含む指導を行う。事業内容は仮想でも可。各自プランをグループワークで相互ブラッシュアップを重ね講義最後にプレゼンテーションする。事業内容によってはトライアル実施も可能としたい。受講を通じて、生き方と働き方をかい離させないことを具体的に理解し、一歩踏み出す自信、挑戦する楽しみを知る。なお、具体的な事業化を希望する学生には、センター（仮称）で創業実務を含めて支援する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	コミュニティ・デザイン(各論 I)	<p>ソーシャルな課題を、人々の繋がり・関係性に着目し、解決へとアプローチする「コミュニティデザイン」的な思考力を身に付けることを目標とする。講義と、グループワークによる体験学習を行う。</p> <p>①:地縁型やテーマ型などコミュニティの多様なフィールドと、コミュニティデザインの実践例を知る ②:①の事例をもとにコミュニティデザインの構造を知り、実際の現場で用いられる手法(フィールドワーク、ワークショップなど)を知る ③海外プログラム体験をもとに考察する ④:②の手法の一部を実践する</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	コミュニティ・デザイン(各論 II)	<p>地域における身近なコミュニティをフィールドとして、「コミュニティデザイン」的な行動力を身に付けることを目標とする。フィールドワークを中心に、グループワークによる体験学習を行う。</p> <p>①:フィールドワーク、ヒアリングをもとに、県立大が位置する身近な地域のコミュニティにおける課題を発見する ②: 이슈を設定し、解決へ向け、ワークショップを経て提案する ③:②の提案の一部をデザイン手法を用いて実験的に実施する(プロトタイプング) ④:①②③を通してコミュニケーション力を高める</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	マーケティングリサーチ	<p>近年の企業経営では、大企業はもとより中小企業であっても、実証的なデータを取得・分析し、その結果に基づく意思決定を行なおうとする動きが加速しており、調査・分析にかかわる知識やスキルがビジネスパーソンに強く求められるようになってきている。本授業では実証的な手法の中でも特に定量的な調査手法に重点を置き、その知識とスキルの習得を目指す。講義中心であるが実際の調査票を比較したり、標本サイズを算出してサンプリングを実施したりするなど、適宜、実習的な要素を取り入れる。また、実際に企業で行われた調査について取り上げ、意図や問題点を考察するなど、実務の世界でいかに適用するか、という実践的な視点を重視する。なお、ここで得られる知識やスキルは主張(提案)の強力な根拠となるものであり、実証研究にもそのまま活かすことができる。</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	マーケティング論	<p>本講義では、フィリップ・コトラーの『マーケティング・マネジメント』を基礎とし、市場環境分析、STP、マーケティング・ミックスの一連の戦略立案プロセスを網羅する。マーケティング領域もデジタル化が進み、セグメンテーションマーケティングからOne to Oneマーケティングへ進化する。チャネル、プロモーションもオムニチャネル化、デジタルプロモーションへ進化する。そこで、本講義では従来のマーケティング戦略立案の流れをケーススタディで習得した後、デジタルマーケティングの最新ケースを学び、環境変化に対応できるようにする。</p>	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	消費者行動論	<p>本授業は心理学や社会学、経済学など複数の学問領域の知見を適宜利用しながら、購買意思決定を行う消費者について深く理解することを目的とする。授業は4つのパートで構成され、最初のパート(1、2)では、消費者行動について主に研究の視点から概要をまとめる。第2パート(3~7)では購買意思決定に影響を与える消費者個人の内部要因、第3パート(8~10)では消費者を取り巻く外部要因について詳細をまとめる。最終パート(11~14)ではそれまでの知見を統合し、情報処理と購買意思決定のメカニズムを明らかにする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	簿記システム論	もともと、商人の債権債務や財産の管理のために考え出された簿記の記帳技術は、今日に至るまでの史的なプロセスを通じて、世界中の多くの国々で、改良を加えながら利用され続けている。なかでも複式簿記は、現代の経済におけるディスクロージャー制度を支える基本技術として、多様な目的のために様々な経済主体に利用されている。それゆえ、日々のビジネス活動において非常に重要な役割を担っている。本講義では、初級レベル（中級レベルの基本論点を含む）程度の複式簿記の記帳技術とその背後にある会計思考に焦点を当て、具体的に財務諸表を作成するまでのプロセスの処理を、問題演習を交えながら学習する。	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	管理会計Ⅰ	主に製造業において、製品を作る場合、製品の種類も多種多様であり、製造工程も複雑であり、またヒトやモノも複数の製品や複数の工程、部門に複雑に関与している。中、上級の工業簿記では、このような複雑性に対応した、工業簿記システムを構築することで、会計数値の側面から、コントロールとマネジメントを試みる。本講義では、これらの中、上級の工業簿記の計算システムを、問題演習によって実際に電卓をたたいて計算しながら、身につけていくものとする。	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	管理会計Ⅱ	数万人の従業員と数百の関連・子会社を抱える企業の現状を把握し、経営戦略を練るにはどうした良いか。ある事業部を統廃合するときの意志決定。従業員のボーナスを決める評価。製品を作るときどの製造計画。これらを行うには、「測定ツール」が必要である。測定ツールにより、数値による計量化を行うことで、今まで見えなかったものが、見るようになり、私たちはマネジメントの羅針盤を手に入れることができる。その測定ツールの代表的なものが管理会計である。本講義では、より経営学と融合した形で管理会計を学ぶものとする。	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	財務会計入門	ビジネス活動を通じて、企業等の経済主体と利害関係を持つステークホルダーは、自己の経済的意思決定の判断材料として、利害に関わる情報を必要とする。しかしながら、ビジネス活動が複雑化する今日の状況では、ビジネス活動の全てを詳細に伝達することは物理的に不可能である。そこで、企業のビジネス活動を、会計数値等によって要約的にとらえ、効率的・効果的に伝達する方法が利用されることになる。複式簿記は、会計情報の効率的な作成技法のひとつであるが、実際にその会計情報に機能性を持たせるには、認識・測定・伝達に関わる会計ルールが、作成者と利用者間で事前に合意（共通化）されていなければならない。本講義では、中級レベルの会計ルールのうち基礎部分に焦点を当て、資金循環のプロセスに沿って、これを学習する。	
専門教育科目	展開科目	経営学系科目	財務会計論	企業等の経済主体が、ビジネス活動に関わる要約的な会計情報を作成する際には、その利用者であるステークホルダーに対して信頼性ある情報をスムーズに伝達するため、単に、複式簿記による記帳システムを利用するだけでなく、ビジネス活動の描写に関わる、認識、測定、伝達に関わる会計ルールを、事前に定めておく必要が生じることになる。これは、その会計情報に機能性を持たせるという意味で重要な意味を有している。本講義では、この会計ルールのうち、中級レベルのものに焦点を当て、財務諸表の項目の順に従って、これを学習する。また、今日大きな問題となっている会計の国際化をはじめとする幾つかの応用論点についても、適宜講ずる予定である。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	経営学系科目 経営分析	<p>主要な財務諸表として損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書がある。これらの財務諸表によって報告された会計数値を加工することで、様々な財務指標を作ることができる。本講義では、ビジネスで多く用いられているROE、ROA、流動性比率、自己資本比率といった財務指標を用いて、実際の企業の財務分析を行う。また同業他社比較や、業種・業態別比較を行うことによって、様々な企業の特徴を捉えるようにする。講義形式であるが、実際に電卓をたたいて計算を行い、企業の特徴について考える講義としたい。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目 金融論	<p>金融論は、経済における資金の循環を、制度や歴史、政策の観点から研究している。情報通信技術の発展により、瞬時に大規模な資金が国境を越えて取引されるようになり、ある国の金融危機が世界中に波及するようになった。金融業界の現状のみならず、日本や企業を取り巻く経済状況を理解するためにも、金融論の知識が必要になる。本講義では、ファイナンス系のみならず、それ以外の系の発展科目の学習に必要な基礎知識や予備知識の修得を目指し、貨幣や銀行、金融市場、金融政策等の金融論の基礎知識を学習する。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目 コーポレート・ファイナンスⅠ	<p>この授業では、コーポレート・ファイナンスの基本概念である「現在価値」に基づき、債券や普通株式等の金融商品やプロジェクトが評価されることを簡単な計算例を基に理解する。また、リスクとリターン、ポートフォリオ理論、資本支出予算、企業の資金調達などについて学習する。授業の理解を助けるために、何度か計算演習を行う予定である。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目 コーポレート・ファイナンスⅡ（応用）	<p>この授業では、企業の資金調達手段と企業価値評価について学ぶ。前者として、間接金融としての金融機関の融資の仕組み、直接金融としての債券、株式、投資信託・デリバティブ等その他の証券による資金調達の仕組みを学ぶ。後者として、企業価値のフレームワーク、ファンダメンタル分析、経営戦略分析、投資プロジェクトおよび企業価値の評価について学ぶ。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目 金融システム論	<p>金融システムは金融機関と金融市場から構成され、金融取引を円滑にし、最適な資金（資源）配分を実現する機能を果たしている。近年の金融自由化や情報通信技術の発展により、金融システムはより効率的になったが、金融危機が生じやすくなった。金融危機により、金融システムが機能しなくなると、企業部門への資金の移転が滞り、経済が不況に陥る。金融システムの効率性と安定性を確保することは非常に難しい問題になった。本講義では、金融システムに関する理論研究や実証研究を取り上げ、金融システムの機能を制度や歴史、政策の観点から学習する。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目 国際交通観光ビジネス入門	<p>航空輸送と観光の市場構造、業務の実態、サービス財としての特徴、政府の支援や規制の現状、航空と観光の周辺事情等の基礎知識を提供する。また、エアラインを事例に我が国の交通ビジネスと観光ビジネスを取り巻く課題と展望について理解を深める。エアラインビジネスにおいては国際競争力の観点から、観光ビジネスについては訪日旅客促進の観点から事例研究を含めた分析・考察を深める。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	産業組織論	産業組織論は、ミクロ経済学やゲーム理論などを分析用具として、理論と実証の両面から産業・企業の構造や行動を明らかにして、経済厚生や政策を論じる実践的な学問である。本授業では、伝統的な産業組織論から現代に至るまでの基礎的な理論とそれらの応用とを、豊富な具体的事例を交えて学びます。主なテーマは、独占や寡占における企業行動や企業間関係、企業の戦略的行動と市場支配力、電力や電気通信等のネットワーク産業の特質と競争政策などである。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施する。	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	公共経済学 I	この講義では、「公共性が高い」とされる社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習を、経済学、特に「市場の失敗」を分析用具に検討する（ただし、マクロの視点からの分析は財政学に譲ります）。「公共性が高い」とは、「市場の失敗・欠落」要因の存在をさす。この講義では、現実のいくつかの具体的な経済問題・社会問題を例示しながら、その背景となる「市場の失敗・欠落要因」および価格規制についての理論的検討を行う。交通や通信の公共性、農業保護の妥当性、防災、医療、教育といった、すぐれて経済的な公共的課題だけでなく、我々の日常生活をとりまく様々な社会問題（たとえば、飲酒や麻薬などの非合法財、ギャンブル、プロ野球球団のドラフト制、結婚制度等）についてもとりあげ、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論する。	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	公共経済学 II (航空政策)	本講義は「公共経済学 I」を履修していなくても履修登録できますが、Iを履修済みであることを前提に講義する。「公共経済学 I」における「市場の失敗・欠落」要因の理論的検討は、どの財についても適用できるものであり、政策立案はそれに沿ってなされることが求められる。本講義では、その具体的例として航空市場をとりあげ、「公共経済学 I」における理論的検討を航空市場に適用した場合の具体的な政策のありかたを示すことによって、他の政策においても同様のステップで議論の展開が可能となることを示す。したがって、本講義の目的は、航空政策そのものを論じることにはならない。公共政策の事例として航空市場を取り上げるのだという点を理解すること。また、本講義では、講義内容を理解するうえで必要な場合には航空会社の経営の問題についても言及するが、本来の目的は、社会全体の視点から政策論を展開することにあるという点も理解すること。	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	マクロ経済学	マクロ経済指標の読み方、国民所得の決定要因と失業発生メカニズム、貨幣の役割と金融政策の役割、財政政策の役割、インフレの発生メカニズムとその影響、開放経済モデルによるマクロ経済政策分析などを学習し、マクロ経済学の基礎的なレベルの内容を理解するとともに、日々のマクロ経済に関わるニュースを理解できるようになることを目標にする。現実の経済問題をマクロ経済学のツールを用いて分析した英文レポートの提出を通じて、マクロ経済学を現実にも用いる能力を養う。	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	医療経済学	社会にとって望ましく適切な医療を提供するためには、適切な医療制度の設計が必要である。この講義では、現在の医療制度の概要を把握した上で、経済学的視点から制度の問題点を明確にし、医療制度のあり方について検討する。また現在の医療制度が、医療機関や患者に与える影響とその問題を、経済理論とデータを用いて分析する。講義を受けることで「医療制度」を把握し、患者・医療機関・医療スタッフのインセンティブとその結果を理解し、データによって検証することができるようになる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	グローバル経済論	<p>経済発展プロセスを生産構造の多様化を通じた生産性向上のプロセスと規定し、アジア諸国の目覚ましい発展の背景にある構造変化をラテンアメリカ、アフリカなどの他地域との比較分析を通じて明らかにするとともに、そうした構造変化にグローバリゼーションが及ぼした影響を分析する。アジア域内での成長格差にも留意し、そうした格差が生じた要因を分析する。途上国の経済発展に対してグローバリゼーションが及ぼす効果を理解し、今後の開発政策へのインプリケーションを明らかにするとともに、日本を含めたアジア地域の将来について考察します。既成の学問にとらわれない新しい経済開発論を具体例にもとづいて議論する。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	環境経済学	<p>環境経済学は、持続可能な社会 (sustainable society) の経済的基礎を分析し、それを実現するための経済理論と各主体の行動様式および公共政策のあり方を解明することを目的とした学問領域である。講義では、環境経済学の一般的なテキストブックで扱われる主要な理論について解説していく。さらに、環境経済学は環境問題の解決を目指した学問であることを踏まえ、長野県内の事例をはじめ、いくつかの具体的な問題に対し、既存の理論の応用の可能性やその限界について、考えていく。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	ビジネス・エコノミクス	<p>企業の組織、戦略、マーケティング等を経済学の視点から分析する。本講義は3つのパートからなり、第1のパートで市場の概要、需要の分析方法、費用の決定要因、市場支配力等をまとめる。第2のパートでは、企業戦略に関するゲーム理論、寡占市場における競争、価格戦略、競争戦略等を論じる。最後に第3のパートでは、情報とインセンティブ、企業の境界と組織を考える。講義は理論に偏らずケース事例等を重視するとともに受講者の興味、関心に配慮して進める。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	規制の経済学	<p>規制の経済学は、市場の失敗に対処するための法制度と経済システムの関わりを分析し、個々の産業の特質をふまえて社会的に望ましい制度設計について考察する学問である。本授業では、経済的規制と社会的規制とを対象に、分析の基礎となる経済理論と現実社会の事例とを学ぶ。主なテーマは、自然独占などの市場の失敗、料金規制、インセンティブ規制、参入規制、規制改革と競争促進の理論と実際などで、事例検討として電力や電気通信等を取り上げる。授業はパワーポイントによる講義と対話の他、レポートの発表・討議も実施する。</p>	
専門教育科目	展開科目	経済学系科目	数理統計学	<p>この授業では、マネジメント分野で必要とされる数理・統計分析のために選定した事項を学ぶ。数理の領域では、確率論について学び、確率、確率変数と確率分布、代表的な離散確率分布および連続確率分布の例を習得する。統計の領域では、回帰分析を採りあげ、単回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析等について、SPSS等の統計ソフトを使用してデータ分析する。</p>	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目	企業と法	<p>本講義では、企業を取り巻く法制度に関する入門・基礎的内容を概括して学習する。まず、法学入門の内容を学習したのちに、法領域ごとの基礎的内容を学習する。具体的には、総論、企業の組織に関する法領域、情報開示に関する法領域、資金調達に関する法領域、企業の取引に関する法領域、企業と労働者に関する法領域、企業と市場に関する法領域、企業の知的財産権に関する法領域、企業と訴訟に関する法領域について、初歩的な理解をするための学習をする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 契約法	この講義では、各種契約類型に共通する問題として、契約が成立するための要件、債務不履行の際の債権者の救済手段等について検討する。続いて、財産権移転型契約、使用供与型契約、役務提供契約を中心に、各種契約類型に固有の諸問題についての検討を行う。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則（第3編第1章）の一部（債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償）と契約（第3編第2章）に相当する。歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 労働法	労働法とは、雇用の場で発生するさまざまな問題を解決するための法律である。本講義では、労働法の基本的原則を解説するとともに、労働基準法・労働組合法・労働契約法を中心に学習する。労働法の各分野が、雇用社会において、どのような場面で、どのような問題を解決するために存在するのか、具体的な例をあげて労働法の意義を解説する。将来、自らや同僚が労使関係の問題に直面した際に、問題の法的解決に向けて、自分で考える力を身につけることを本講義の目標とする。	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 法政策学	本授業は、政策と法の関係、法政策学と立法学の関係等の考察を踏まえたうえで、立法に関する知識及び技法について、国及び地方公共団体の事例を参照しつつ、実践的立場から、学習する。立法に関する知識としては、立法の主体及び立法過程等を、立法に関する技術としては、法律の立案、法律の形式及び法令用語等を、学ぶ。法政策学の理論面については、法政策学を提唱した代表的著作及び最近の研究成果については、その概要を把握する。授業方法は、講義形式で行うが、参加人数に合わせて可能な限り双方向性を確保する。	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 商法	本講義では、今日の代表的な企業組織形態である株式会社の法制度について学習する。学習にあたっては、法制度の趣旨（なぜ、その法制度が存在するのか）を理解することに重きを置きながら、内容（どのような法制度が存在するのか）について理解を深める。具体的には、会社法の役割、株式、会社のガバナンス、取締役等会社役員の実務、会社法上の訴訟制度、会社の組織変更といった内容を取り扱う。このほかに、いわゆる大規模公開会社に関するルールについての理解を促すために、資本市場と会社との関係という視点からも学習をする。	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 知的財産法	本講義では、知的財産法のうち、主として特許法及び著作権法を取り上げ、これら法律の基本的知識を学ぶと共に、実務上の問題点を検討する。法文の理解、及び判例の研究に重点を置き、法文及び判例の規範を正確に理解し、具体的事案に対し正確に適用し、適切に処理できる（現場で実践できる）レベルに達することを目標とする。また、知的財産法の理解に関し、物権、債権など民法上の財産権との比較の視点も重要と考えるので、必要に応じ、これらについても検討する。	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 比較法制度論	各国の法制度は、その国の歴史や社会的環境を反映しており、共通の課題に対して異なる対応をしている場合が多い。他方、現代的課題については、類似の対応をする場合もある。本講義では、日本、アメリカ、EU(特にドイツ)の法制度について、最初に各国の法制度の歴史と特徴を概観し、次に、重要なテーマについて、各国がどのような法制度を設けているかを比較する。本講義により、受講生が法制度についてのグローバルな視点を育むとともに、他国との比較により日本の法制度をより深く理解できるようになることが期待される。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 金融商品取引法	本講義では、金融商品取引法の内容を中心にした金融・資本市場に関する法制度について学ぶ。学習にあたっては、法制度の趣旨（なぜ、その法制度が存在するのか）を理解することに重きを置きながら、内容（どのような法制度が存在するのか）について理解を深める。具体的には、総論、企業の情報開示制度（発行開示・流通開示、会計・監査・内部統制、TOB制度、5%ルール制度）、不正取引の禁止（インサイダー取引等）、市場の担い手に対する規制といった内容を取り扱う。このほかに、必要に応じて、自主規制機関（金融商品取引所、証券業協会その他）によるルールについても学び、資本市場法制全体の理解に繋げる。	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 政治学	政治学とは何か。主権者である国民（本人）が政府（代理人）を雇って自らの利益の実現（共通の目的）をはかる観点に立ち、政治の課題から何がデモクラシーを支えるか、地方自治、国際政治まで、政治学の理論や考え方、対象とする問題を体系的に理解する力をつける。政治的現実をダイナミックにかつ実証的に分析することを課題とする政治学とはいかなる学問分野であるか、説明する。	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 公共政策学	本講義は、政府または公共部門が行う公共政策に関して、その基礎となる理論及び国、地方の具体的な政策事例を紹介することを通じて、公共経営コースの学生に、政策とはどのようなものであって、どのように立案すべきかについて考えさせることを目標としており、次に開講する公共政策演習のための事前学習の性格も有するものである。具体的には交通政策、ふるさと創生から地方創生に至る地域活性化のための政策などを取り上げるとともに、政策の評価に関してランキングを用いて課題を明らかにすることで学生の基礎的な政策形成能力の涵養を目指している。	
専門教育科目	展開科目	行政・公共政策系科目 公共政策演習	<p>本演習は、公共政策学で学んだ政策事例なども参考にしながら、学生がグループワークを通じて実現可能性を有する政策提案を行うことによって、政策形成能力を涵養することを目標とするものである。具体的には、第1回目を全体講義、第14回目を全体の振り返りとし、残りの12回を3つに分け、観光、防災、環境の3つのテーマに関して、基調講義（1回）、グループワーク（2回）、発表と講評（1回）の4回を1クールとして実施する。グループの構成員はクール毎に変えることによってチームワーク力の涵養も目指している。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(4 真野 毅・8 小西 敦・13 田村 秀/1回) (共同) 観光、防災、環境の3つのテーマに関する公共政策事例のグループワークを総括する。 (4 真野 毅/4回) 公共政策の事例（環境）をテーマにグループワークを行い、政策提案のポイント考察や、課題に対応するための政策形成能力の涵養を図る。 (8 小西 敦/4回) 公共政策の事例（防災）をテーマにグループワークを行い、政策提案のポイント考察や、課題に対応するための政策形成能力の涵養を図る。 (13 田村 秀/5回) 公共政策の事例（観光政策）をテーマにグループワークを行い、政策提案のポイント考察や、課題に対応するための政策形成能力の涵養を図る。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目 行政・公共政策系科目	市民参加論	各回の前半で選挙・住民投票・パブリックコメントなど、さまざまな市民参加の制度を紹介し、後半は実際にその制度を真似た模擬投票・ワークショップなどを行うことで、市民参加に関する知識と実践力を養う授業とする。また、毎回、授業内容に関する感想や質問を書く小テストに書かれた感想を受講者で共有し、質問への回答を伝えるためのペーパーを丁寧に作成する。受講者と教員、受講者間で学び合う空間を作り、市民参加に関する知識を身に付けるだけでなく、地域の問題に関する興味・関心の幅を広げ、考察力を深め、問題解決の力を高めることができる講義とする。	
専門教育科目	展開科目 行政・公共政策系科目	公共経営論	本講義は、行政と住民との協働、行政と企業との協働などを幾つかの事例を紹介しつつ、現状と課題を論じるとともに、市町村合併や道州論など自治体の適正規模に関する議論も概観し、ガバナンスの時代における公共経営のあり方について学生が考察を深めることを目標としている。具体的には食によるまちづくりを進めている自治体の協働事例やアウトドアメーカーが自治体と連携して事業展開を行うものなどを紹介するとともに、3度の市町村合併の成果と課題、都道府県の適正規模のあり方などを考察することで公共経営の多面性についての理解を促すことを目指している。	
専門教育科目	展開科目 行政・公共政策系科目	地域社会学	基本的に講義形式で行うが、後半では、学生による能動的学修も組み込む。地域社会を社会学的視点でとらえることのできる能力を習得することを目標とする。地域社会学の方法論について解説し、都市・農村それぞれの地域社会の構造や変動、市町村合併による地域社会の変容などについて、地域における生活・人間関係・集団などの諸次元について、多角的に解説する。さらに、少子化・過疎化による人口減少、地域計画とまちづくり、コミュニティの変容など、現代の地域社会に起きている多様な問題群について、社会学的にアプローチし、履修者間で、議論しながら、その諸問題の解決策を検討する。	
専門教育科目	展開科目	インターンシップ	インターンシップでは、企業や組織で経験を積む実習として3年次に実施する。地元企業を中心とした様々な実践的な現場体験を通して、課題発見・地域社会への理解を深め、社会人として働くことの意味や責任について考察する。また、組織や社会の一員として求められる資質と実行力を強化し、将来の職業選択意識を高めることによって、学生自身の大学での学修目標を明確なものにすることを目的とする。	
専門教育科目	展開科目	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅠは、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度を身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考の向上を図ることを目的とする。そのため、1年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。授業では、教員が学生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げる課題発見能力を養成し、2年次に行く「海外実地研修」を踏まえた知見の定着を図る。	
専門教育科目	展開科目	ゼミナールⅡ	ゼミナールⅡは、専門分野における特定のテーマに関する知識と調査研究に取り組むことによって、課題の設定、資料調査、分析そして研究成果の発表に至るまでの一連のプロセスを学修することを目的とする。受講生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択し、考察を深める。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけさせることを目指す。  (2 森本 博行) 世界各国の政治制度や産業政策、文化の違いや、企業の戦略的行動の課題について考察する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	展 開 科 目	<p style="text-align: center;">ゼミナールⅡ</p> <p>(① 中条 潮) 「市場の失敗・欠落」要因の理論的検討を踏まえた具体的な政策立案について考察する。</p> <p>(4 真野 毅) 地方自治の現場が抱える課題への対策について考察する。</p> <p>(6 宮下 清) リーダーシップのあり方や企業・組織の課題について考察する。</p> <p>(8 小西 敦) 立法に関する知識及び技法について、国及び地方公共団体の事例から考察する。</p> <p>(10 尹 大栄) 企業統治の基本概念と理論・実態、企業マネジメントについて考察する。</p> <p>(11 宮崎 紀枝) 健康に関する社会の動向や現状の課題や、健康な社会づくりに向けた地域社会の仕組みづくりについて考察する。</p> <p>(12 大室 悦賀) 地域再生や地域活性化、アントレプレナーシップの意義を考察する。</p> <p>(13 田村 秀) 公共政策の課題や政策形成の立案方策について考察する。</p> <p>(14 穴山 梯三) 市場の失敗に対処するための法制度と経済システムの関わりについて考察する。</p> <p>(③ 臼井 則生) 発展途上国の経済発展とグローバリゼーションの影響について考察する。</p> <p>(17 築山 秀夫) 社会調査の分析を踏まえた地域課題の把握分析と、地域課題について考察する。</p> <p>(18 菅野 正泰) 数理・統計分析や資金調達手法について学び、企業の経営戦略について考察する。</p> <p>(19 永田 邦和) 金融システムに関する理論・実証研究を踏まえ、金融システムの機能と現状について考察する。</p> <p>(① 中村 文彦) アカウンティングの社会的機能と社会活動との関わりについて考察する。</p> <p>(⑤ 衣川 修平) 経営分析の指標を用いた財務分析と、営利・非営利組織のマネジメントについて考察する。</p> <p>(27 首藤 聡一郎) 現実の企業の経営戦略の概要と理論、企業行動の相関について考察する。</p> <p>(31 金 賢仙) 資本市場と関連法制への理解と、それらに起因する諸問題について考察する。</p> <p>(32 東 俊之) マクロ組織論（組織理論）に注目した事例分析や、組織の経営活動について考察する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	展 開 科 目  ゼミナールⅡ	<p>(33 中村 陽人) マーケティングに関する企業調査の実務的な適用方策について考察する。</p> <p>(6 中村 稔彦) 地方財政の理論や制度・政策等を学習し、地方財政の実態について考察する。</p> <p>(7 野口 暢子) 市民参加に関する知識を学習し、地域の課題発見と解決方策について考察する。</p> <p>(37 三浦 正士) 地方自治をめぐる具体的な政策課題と、それらに対処するための協働のあり方について考察する。</p>	
専門 教育 科目	展 開 科 目  ゼミナールⅢ	<p>ゼミナールⅢは、「ゼミナールⅡ」に引き続き、専門テーマに基づく課題研究に取り組む。各自のテーマに関連する文献調査や考察を通して、各自の課題研究を深めていく。各自の課題の研究・考察にあたっては、授業での報告や討論を通して、検討に必要な具体的な課題を明確にし、調査、分析発表といった一連のプロセスを行う能力と道筋を立てて考える力を向上させる。学士課程における学修の締めくくりとして、教員の指導のもとで研究成果を完成させる。</p> <p>(2 森本 博行) 世界各国の政治制度や産業政策、文化の違いを踏まえて、グローバルに活動する企業の戦略的行動や海外子会社経営の課題について考察する。</p> <p>(1 中条 潮) 「市場の失敗・欠落」要因の理論的検討を踏まえた具体的な政策立案について、具体的事例をもとに考察する。</p> <p>(4 真野 毅) 地方自治の現場が抱える課題への対策と貢献方策について、事例を通して考察する。</p> <p>(6 宮下 清) リーダーシップや人的管理と企業・組織の具体的な課題の相関を踏まえた経営組織への展開方策について考察する。</p> <p>(8 小西 敦) 立法に関する知識及び技法について、国及び地方公共団体の事例を参照しつつ、実践的立場から考察する。</p> <p>(10 尹 大栄) 企業統治の基本概念と理論・実態を踏まえて、企業マネジメントへの応用について考察する。</p> <p>(11 宮崎 紀枝) 健康に関する社会の動向や現状の課題を踏まえ、健康な社会づくりに向けた社会資源との連携や地域社会の仕組みづくりについて考察する。</p> <p>(12 大室 悦賀) 地域再生や地域活性化の具体的事例を踏まえ、アントレプレナーシップの意義とその機能について考察する。</p> <p>(13 田村 秀) 公共政策の理論を踏まえ、課題発見力や問題解決のための政策形成の立案方策について考察する。</p> <p>(14 穴山 梯三) 市場の失敗に対処するための法制度と経済システムの関わりや、望ましい規制の在り方について考察する。</p> <p>(3 臼井 則生) 発展途上国の経済発展とグローバリゼーションの影響を理解し、今後の開発政策の将来について考察する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	展 開 科 目	<p style="text-align: center;">ゼミナールⅢ</p> <p>(17 築山 秀夫) 社会調査の分析を踏まえた地域課題の把握分析を通して、地域課題の解決策の構築を考察する。</p> <p>(18 菅野 正泰) 数理・統計分析や資金調達手法を踏まえ、企業価値の評価や経営戦略分析について考察する。</p> <p>(19 永田 邦和) 金融システムに関する理論・実証研究を踏まえ、世界各国の金融システムの課題を明らかにし、解決策を考察する。</p> <p>① 中村 文彦 アカウンティングの社会的機能と社会活動との関わりや、資金循環のプロセスについて考察する。</p> <p>⑤ 衣川 修平 経営分析の指標を用いた財務分析を踏まえた、営利・非営利組織のマネジメントのあり方について考察する。</p> <p>(27 首藤 聡一郎) 現実の企業の経営戦略の概要を踏まえ、理論と現実の企業行動の相関について考察する。</p> <p>(31 金 賢仙) 資本市場と関連法制への理解と分析を踏まえ、それらに起因する諸問題の対応方策について考察する。</p> <p>(32 東 俊之) マクロ組織論（組織理論）に注目した事例分析を通して、組織の経営活動ならびに組織内の人間行動について考察する。</p> <p>(33 中村 陽人) マーケティングに関する実際の企業調査の事例を踏まえ、調査の意図や問題点、実務的な適用方策について考察する。</p> <p>⑥ 中村 稔彦 地方財政の理論や制度・政策等を踏まえ、地方財政の実態や問題点、改革方策について考察する。</p> <p>⑦ 野口 暢子 市民参加に関する知識を踏まえ、地域の課題を発見し解決するための実践的な取組について考察する。</p> <p>(37 三浦 正士) 地方自治をめぐる具体的な政策課題と、それらに対処するための協働の実践事例について考察する。</p>	
専門 教育 科目	展 開 科 目	<p style="text-align: center;">卒業研究</p> <p>卒業研究では、研究方法についての基礎知識とスキルを修得する。各自が設定するテーマ・課題について、専門分野を担当する各教員の指導・助言の下に、先行研究の精読、課題設定、適切な研究手法の選定を行い、論文又は研究発表の基礎固めを行う。また、設定したテーマ・課題について論文又は研究発表にまとめることで、課題発見力、企画力、実践力、分析力、考察力を身につける。</p> <p>(2 森本 博行) 「グローバルに活動する企業の戦略的行動や海外子会社経営課題」</p> <p>① 中条 潮 「市場の失敗・欠落要因と政策立案に向けた理論的検討」</p> <p>(4 真野 毅) 「地方自治の現場が抱える課題への対策と貢献方策」</p> <p>(6 宮下 清) 「リーダーシップと企業・組織管理の相関と経営組織への展開方策」</p> <p>(8 小西 敦) 「国及び地方公共団体の実践的な立法技法の考察」</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(グローバルマネジメント学部グローバルマネジメント学科等)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	展 開 科 目	卒 業 研 究	
		<p>(10 尹 大栄) 「企業統治の理論・実態と企業マネジメントへの応用」</p> <p>(11 宮崎 紀枝) 「健康に関する社会資源と地域社会の仕組みづくりへの探求」</p> <p>(12 大室 悦賀) 「地域再生や地域活性化とアントレプレナーシップの相関と機能」</p> <p>(13 田村 秀) 「公共政策の理論と課題解決のための政策形成の立案方策」</p> <p>(14 穴山 梯三) 「市場の失敗に対処する法制度・経済システムや規制の在り方の考察」</p> <p>③ 白井 則生) 「発展途上国の経済発展・グローバリゼーションと今後の開発政策」</p> <p>(17 築山 秀夫) 「社会調査分析が有する地域課題把握と課題解決策構築の探求」</p> <p>(18 菅野 正泰) 「数理・統計手法を用いた企業価値評価と経営戦略分析の考察」</p> <p>(19 永田 邦和) 「金融システムの機能強化策に関する理論・実証分析に基づいた考察」</p> <p>① 中村 文彦) 「アカウンティングと社会機能・活動の相関と資金循環プロセス」</p> <p>⑤ 衣川 修平) 「経営・財務分析を活用した営利・非営利組織のマネジメント」</p> <p>(27 首藤 聡一郎) 「企業の経営戦略理論と現実の企業行動の相関」</p> <p>(31 金 賢仙) 「資本市場と関連法制に起因する諸問題の対応方策の考察」</p> <p>(32 東 俊之) 「マクロ組織論による事例分析と組織の経営活動・人間行動の考察」</p> <p>(33 中村 陽人) 「マーケティング意図・課題と実務的な適用方策の考察」</p> <p>⑥ 中村 稔彦) 「地方財政の実態や問題点を踏まえた改革方策の探求」</p> <p>⑦ 野口 暢子) 「市民参加と地域課題の発見・解決方策の相関と実践についての考察」</p> <p>(37 三浦 正士) 「地方自治の政策課題に対処するための協働実践事例の探求」</p>	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康発達学部食健康学科)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	外国語科目	英語	Foundations of English I	英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Basic English Communication I	Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to actively use the first 700 words of the NGSL. ----- 英語話者に対して、英語で自分のことを語り、自分の故郷や国のことを説明し、相手についても尋ねることが出来る基礎的な英語コミュニケーション能力を養う。また、同様のことを英文で書くことによって英語表現力と語彙力を高め、平易な英語を大量に読む速読・多読を通じて英語で読むことに慣れ、英文を読む速度を高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Foundations of English II	英文法の理解をさらに確実なものとするに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Basic English Communication II	Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to actively use the second 700 words of the NGSL. ----- 英語話者に対して、英語で自国の文化を紹介したり、相手の国の文化について尋ね、自分の意見を述べる事が出来る英語コミュニケーション能力を養う。また、同様のことを英文で書くことによって英語表現力と語彙力を高め、平易な英語を大量に読む速読・多読を通じて、英語で読むことに慣れ、英文を読む速度をさらに高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Comprehensive English I	時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication I	Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to actively use the third 500 words of the NGSL.  ----- 日常的な事柄から学問的な事柄まで、英語を用いて説明をしたり、自分の意見を述べたり、相手と意見を交換したりすることが出来る会話力を養う。また、同様の事柄について自分の主張をわかりやすく英文にまとめる英作文力を養い、学問的な英文や時事的な英文を読んで、英語で要約する力も養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
			Comprehensive English II	時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通じて、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication II	Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to actively use the fourth 500 words of the NGSL.  ----- 学問的な事柄から時事的な事柄まで、英語を用いて説明をしたり、自分の意見を述べたり、相手と意見を交換したりすることが出来る会話力をさらに高める。また、自分の主張を論理的な英文にまとめる英作文力を養い、所属学部の専門に関係するような英文や時事的な英文なども読み、その内容を英語で要約する力も養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
			Comprehensive English III	世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication III	Students will learn higher levels of expression appropriate for English discussions, presentations and debates. Students will learn to read and write about more difficult topics related to global affairs and their major. Students will also develop the ability to actively use the fifth 400 words of the NGSL.  ----- 英語によるディスカッションやプレゼンテーション、さらにはディベートなどを行い、高度な発信能力を養う。また、国際情勢のような難しい事柄や、各学部学科で学んでいる専門的な事柄についても、英語で読み、英語で自分の意見を書くことの出来る高度な英作文力を養成し、アカデミック・ライティングの力を高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目 英語	Career English for Global Mobility I	出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、ビジネス英語の語彙や表現、学科の専門分野の語彙や表現を身に付け、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶ。さらには、英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力の基礎を固める。	
総合教育科目	外国語科目 英語	Career English for Global Mobility II	出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることを目標とする。また、英文ビジネス・レターの書き方や英語による面接についての練習も行うほか、国際的な話題に関する英文を読み、ディスカッションやレポート作成を行うなど、これまでに学んだ英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力を完成させる。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	フランス語 I	フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする。まず発音記号、綴りと発音を学び、フランス語特有の母音や綴りに慣れる。次に日常的な会話表現を学んでゆく。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で名詞・形容詞・所有形容詞・冠詞およびその性数、規則動詞と代表的な不規則動詞の変化を学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	フランス語 II	フランス語 I で得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。具体的には、時間、曜日、予定、謝る、場所、趣味・余暇、頻度、習慣、家族、過去の出来事、どこに行ったのか、だれかを誘う、断る、交通手段を尋ねるなどの表現を学ぶ。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で、疑問詞、前置詞、複合過去、複合過去における性数一致について学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	ドイツ語 I	本授業の達成目標は、自己紹介、大学や家での生活など、自分の身の回りのことがらを、正しいドイツ語を使って、口頭でも筆記でも表現できるようになることである。ドイツ語圏文化理解の出発点であるドイツ語運用の基礎力を身につけることをねらいとし、「ドイツ語 II」との連続受講で、ドイツ語技能検定試験4級あるいは3級合格程度の力を身につけてもらう。語彙力の強化と発信型の学習を特に重視する。発信型の学習の例として、授業では受講生によるDialog作りおよびその発表を行う。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	ドイツ語 II	本授業の達成目標は「ドイツ語 I」と同様、自分の身の回りのことがらを、正しいドイツ語を使って、口頭でも筆記でも表現できるようになることである。「ドイツ語 II」ではさらに、身近な話題について書かれたドイツ語の文章を読んで理解することも目標とする。ドイツ語運用の基礎力を身につけることをねらいとし、教科書をベースに自分で表現できることの幅を広げていく。語彙力の強化と発信型の学習を特に重視し、授業でのDialog作成・発表に加え、クラス内でのインタビューや作文など、表現の機会を多く設ける。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	中国語 I	初めて中国語を学ぶ学生を対象に初級段階で必要な発音と基本文法事項・語彙を学習する。併音字母の発音、声調、音節の発音に習熟することをはじめとして、聞く・話す・読む・書くの4つの能力にわたる中国語の基礎学力を身につける。基礎文法については、豊富な例文を取り上げ、繰り返し練習問題に取り組むことで要点の理解を進める。また、例文については音読し、暗唱できるようにする。最後には学習した文型を使いながら、自分自身について語る力を身につけ、自己紹介ができるようにする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	中国語Ⅱ	この授業では、「中国語Ⅰ」で学んだ初級段階の発音と基本文法事項・語彙についての復習を交えつつ、一段階進んださらに多くの語彙や呼応関係、文法事項を学ぶ。特に日常生活や中国旅行など、実際の場面で役立つ例文を豊富に学習し、繰り返し練習問題に取り組むことで理解を進める。音読練習、暗唱を盛り込み、頭で理解するだけでなく中国語の音を体で感じながら、発音と構文を一体として習得する。また2人組みでの会話の発表などを通じて実践的な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	スペイン語Ⅰ	スペイン語の入門・初級クラス。前半はスペイン語理解の基礎として、アルファベット、名詞の性・数、冠詞、形容詞、ser動詞、estar動詞、規則動詞、不規則動詞の現在形を講義する。講義した文法事項を踏まえて「聴く」「話す」訓練を実施する。後半はより複雑な表現や点過去形、線過去形、未来形、現在完了形などの時制、接続法の初歩について講義し、「読む」「書く」訓練を重視する。スペイン語話者との間で簡単なコミュニケーションができる(ヨーロッパ言語共通参照枠A2)程度の語学力を習得することを目標とする。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	スペイン語Ⅱ	スペイン語の初級・中級クラス。複雑な文を理解するために、直説法の時制、人称代名詞の目的語の用法、再帰動詞、受動文、知覚文、無生物主語文などについて講義する。構文を理解することで、会話での「聴く」「話す」能力ばかりでなく、メールや雑誌などを「読む」「書く」能力を高める。スペイン語話者との間で率先してコミュニケーションができる(ヨーロッパ言語共通参照枠B1)程度の文法事項と語彙を習得することを目標とする。	
総合教育科目	外国語科目	日本語	日本語Ⅰ	外国人留学生在が日本語で口頭発表したり2,000字程度のレポートを書いたりするために必要な知識として、日本語の文法および語彙の基本的な学習を行う。文法については、品詞の知識と文章上での単語の使い方を中心に学習を進め、正しい日本語の組み立て方を理解する。語彙については、普遍性の高い言葉を学ぶために新聞記事や小説などを取り上げ、その読解および要約を通して知識を習得する。担当者による講義以外に、受講生に適宜プレゼンテーションや課題作文を実施することによって、より実践的な日本語運用能力を身に付けることを目指す。	
総合教育科目	外国語科目	日本語	日本語Ⅱ	「日本語Ⅰ」をすでに履修した外国人留学生を対象とした授業とする。日本語の語彙・文法についての基礎知識を確認しながら、幅広いテーマについて書かれた本文を読んで内容を把握しディスカッションを行って理解を深める。次に本文について要旨や感想、意見を短文にまとめ、学生同士互いに批評しあってさらに手直しし提出する。これらの過程を通して「聞く・話す・読む・書く」の4つの能力にわたって総合的な力を身につける。最後に、本文のテーマに沿ったレポートを書き、明解な文章を構成する力を養う。	共同
総合教育科目	人文系科目		心理学	心理学に対して興味や関心をもつ人は多いが、心理学という学問がどういった学問で、どのようなことを研究しているのか理解している人は少ない。心理学の対象・目的・仕事を明確にし、心理学の代表的な研究法を学ぶことで、心理学とはどのような学問であるのかを理解する。さらに、心理学の様々な分野(知覚心理学、性格心理学、思考心理学、臨床心理学、社会心理学、動物心理学、教育心理学、発達心理学、生理心理学等)における研究成果を知ることにより、その有用性を確認する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育科目	人文系 科目  哲学	ギリシアに始まる哲学の営みを代表的な学説を紹介しながら、主に時系列に学んでゆく。古代は自然哲学と人間・社会の哲学の関連を、古代末期と中世は、「神」と人間を哲学がどのように考えたのかをみてゆく。近世・近代は、懐疑と科学的精神に基づいた新たな哲学および、その揺り戻しとしての思弁的哲学の展開を追う。「神」なき時代を共通の前提とする現代において、ヨーロッパの哲学がいかに人間のあり方を実存として考え直したのか、日本近代哲学がいかに東洋思想の伝統に西洋哲学を受容したのかを紹介する。最後に倫理学、法哲学、政治哲学など、隣接分野との関連を論ずる。	
総合 教育科目	人文系 科目  倫理学	規範倫理学、非規範的な倫理学、応用倫理学について主要な学説を学んでゆく。規範倫理学については、功利主義、義務論、徳倫理学、討議倫理学の基本的な学説を解説する。非規範的な倫理学は、メタ倫理学と現象学的倫理学を中心に倫理を規範とは別の観点から考察する方法を学ぶ。これらの理論を踏まえた上で、生命倫理、環境倫理、正義論、グローバルジャスティスといった応用倫理学の主要な議論を紹介し、現代が直面する問題の倫理的なアプローチを学ぶ。	
総合 教育科目	人文系 科目  教育学	子どもと教育に関する心理学的、社会学的、哲学的、教育学的な理論を学び、学際的視点から現代社会における教育の課題を検討する。特に1980年代以降の子ども論の理論動向を軸に、高度情報化社会の中の子どもの生活世界の変容や、近代学校制度から始まる学校中心主義の教育言説の構造的問題点についても触れながら、子ども・若者の教育の現代的課題を浮き彫りにし、人間にとっての教育の意味、社会における教育の意味を検討していく。	
総合 教育科目	人文系 科目  言語学Ⅰ	言葉とは何かという素朴な疑問から入り、身のまわりの言葉の不思議な魅力に迫る。言葉について人はどのように考え、どのようにアプローチしてきたのか。言葉に対する人間の飽くなき好奇心の歴史をたどる。人間の認知や心理など、20世紀中葉までの言語学で敬遠されてきた側面に焦点を当て、人間にとって不可欠な存在となった言葉の仕組みの一端を明らかにする。ときに、生物学、脳科学、心理学、哲学、コンピュータ科学、社会科学などの領域についても言及し、関連する日本語の表現や文法現象についても広く見ていく。	
総合 教育科目	人文系 科目  言語学Ⅱ	前半の授業では主に日本語と英語の文法を比較し、その共通点と相違点を整理することを通して、人間言語の普遍性と多様性について考える。後半の授業では、母語話者と第二言語(外国語)学習者の文法知識の習得過程に関する主要な先行研究を概観し、その共通点と相違点および第二言語習得の成否を左右する要因について検討する。最後に、言語の特性や言語習得過程に関する正しい理解をふまえ、効果的な外国語学習法や外国語教育のあり方について議論する。	
総合 教育科目	人文系 科目  文学Ⅰ(日本文学)	日本文学を学ぶということは、言語表現を伴う日本文化のさまざまな事象を理解することにつながる。中でも古典文学は、わが国の伝統的な精神文化を言語表現の分野から形づくった媒体で、日本文化の基盤をなすものである。本授業では、このような日本文化の諸事象に影響を与えたとおぼしき日本古典文学作品の読解を進め、日本文学の源流を学びながら、その本質を理解することを目指す。最終的な到達点としては、日本文化の基幹としての日本文学全体をカバーする幅広い知見を身に付けることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	人文系科目	文学Ⅱ (中国文学)	中国文学は三千年近い歴史を有し、日本文学や日本文化への影響も計り知れない。本授業は、中国文学を世界文学の一つである点と日本文学との深い関わりとの両方を軸として捉え直す。中国古典文学の多様なジャンルの作品を取り上げ、味わうと共にその特徴を考察する。また、作者の生涯や作品が誕生した社会的あるいは文学史的背景に着目し、文学に表された人間観、世界観について考える補助線とする。古典文学が人間存在の奥深さや世界観の多様さへと我々をいざない、現代の個人や社会の諸問題のありかを照らす灯となることを理解する。	
総合教育科目	人文系科目	文学Ⅲ (イギリス文学)	イギリス文学は、幅広いジャンルと長い伝統を持ち、欧米文学への入り口として好適である。この講座では、イギリス文学史の区分に従って講義と作品鑑賞を行い、イギリス文学の魅力を探っていく。詩と小説の鑑賞を交互に行いながらイギリス文学の歴史と魅力について学び、時代背景や文化・思想・宗教などについても学ぶ。英詩の鑑賞には英日対訳教材を用い、小説の鑑賞には映画と翻訳を活用するが、時には原書も参照する。鑑賞した作品については授業内でディスカッションを行い、相互に理解を深める。また、作品分析のレポートを書き、文化研究の方法を学ぶ。	
総合教育科目	人文系科目	歴史 (近現代)	主として19～20世紀の日本社会を対象にして、日本史学の現状と課題を講義する。長野県地域史の成果や沖縄・北海道・在日朝鮮人など「日本史」をなるべく多様な問題群に開いていくよう意識したい。なお、単なる「概説」ではなく、講義名の内実をも意識して史学方法論もあわせて講義し、近現代世界史のなかで「日本」・長野県を考えて行くこととする。	
総合教育科目	人文系科目	民俗文化論	民俗文化 (Folk Culture) とは都市文化 (Urban Culture) との対比で語られてきた文化現象である。民俗学という分野を中心に研究が行われてきたが、文化人類学、社会学、歴史学、文学との関連も深い。参拝、祭り、民間伝承、民俗芸能などの事例から民俗文化に親しみ、現代の観光やデジタルコンテンツとの融合状況を学んで、民俗文化の変容について考える。先駆者の仕事から民俗文化への接近方法を習得し、まれびと、トリックスター、フォークロリズムなど、民俗文化を理解するための専門的な切り口について理解を深める。	
総合教育科目	人文系科目	文化人類学	文化人類学とは、文化を通して人間集団について理解する学問分野である。文化とは集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受け、常に変化する。他者とは何かを考えながら、人間が創り出す世界観についてのイメージを持ち、各地の様々な文化現象について、共感できなくても理解する力を習得する。構造主義、文化相対主義、創られた伝統、トリックスター、ポトラッチ、シャーマニズムなどの文化人類学の思考方法や概念を通して世界を見つめた後に、自分とは何か、人間とは何かといった普遍的な問いに立ち返る。	
総合教育科目	人文系科目	音楽	第2回～第8回は、エリック・サティの家具の音楽、ジョン・ケージの「4分33秒」、ブライアン・イーノの環境音楽、ノイズミュージックなどの音楽作品や障がい児を対象とした音楽療法の紹介、さらに受講生全員によるワークショップを通して聴くことの意味を考察する。第9回目から第13回は子どもの音楽表現、あるいは障がい者の音楽表現、即興演奏、様々な表現とのコラボレーションを紹介しながら、音楽が生み出されるプロセスについて検証する。なお、第2回、第3回、第7回、第11回、第13回は担当教員によるピアノ演奏や必要に応じてゲストとのコラボレーションを実演する。第14回目は本講義の教育目標でもある「音楽の多様性について」グループごとディスカッションしたのちに、全体でプレゼンテーションを行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	社会系科目	国際関係論	現代の国際社会が直面するグローバルな諸問題（変容する国民国家の役割・機能、多発化する国際的紛争、グローバル化する格差・貧困、悪化する地球環境、国際移動する移民・難民など）を受講生自ら解決する手がかりを見つけ出せるよう、国際関係論の歴史と理論について講義を行う。また、現代の国際関係に関連するビデオ（第1次世界大戦、第2次世界大、冷戦）を用いる。	
総合教育科目	社会系科目	社会学	基本的に講義形式で行い、学生による能動的学修も組み込む。社会学の立場から、現代社会の構造と特徴について講義する。現代社会を、社会学的パースペクティブを用いて分析し、考察できるようになることを目標とする。まず、社会学の方法と視点、社会学が誕生した歴史的背景について解説する。次に、近代社会、リスク社会の特質について、解説する。そして、社会的に重要視され、受講生が関心を持つ問題を取り上げて、そのメカニズムや構造的背景について考察する。特に、身近な分野としての家族、地域社会、男女共同参画社会、NPOや市民の活動などについて社会学的に接近し、履修者間の議論を通じて理解を深める。	
総合教育科目	社会系科目	憲法	この授業では、前半で国民権や平和主義などの日本国憲法の基本原理や、自由権、参政権、社会権、法の下での平等などの様々な基本的人権について概説する。加えて、判例や事例等を通じて、それらの人権規定が実際に適用される状況や適用の限界等に関わる問題点についての検討も行う。後半では、人権保障のために設けられている立法、行政、司法、地方自治等の統治機構の各機能について概説する。また、改憲手続や近年の改憲論争についても解説を行う。	
総合教育科目	社会系科目	経済学入門Ⅰ	社会を理解するには、消費者や生産者といった個々の経済主体がどのような意思決定に基づいて行動するのかを知る必要がある。また、経済学では、「社会全体にとっての幸せの大きさ」から「その幸せの実現のために必要とされる費用」をひいた、ネットの幸せの部分を最大化することが目的とされる。これらの点を理解するためには専門科目としての「マイクロ経済学」で体系的にマイクロ経済学を学ぶ必要があるが、その準備となるよう、この入門講座では、経済学の役割、市場の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性を、現在の経済事情をひもときながら、主としてマイクロ経済学の視点でわかりやすく説明する。	
総合教育科目	社会系科目	経済学入門Ⅱ	グローバル化の進む社会と経済を理解するには、家計、企業、国家の役割を統合した大きな視点から理解する必要がある。このためには、専門科目としての「マクロ経済学」で体系的にマクロ経済学を学ぶ必要があるが、その準備となるよう、この入門講座では、企業の役割、国家の役割、家計の役割を、現在の経済事情をひもときながら、主としてマクロ経済学の視点でわかりやすく説明する。	
総合教育科目	社会系科目	社会保障入門	現在の社会保障制度は、グローバル化、少子高齢化、就業構造や地域構造の変容など社会的経済的变化の下でさまざまな課題に直面している。社会保障の持続可能性を巡っては、負担と給付のバランスや世代間格差など社会を分断しかねない議論も展開されている。そこで、入門編である本講義においては、日本や諸外国の制度を概観・比較したり、また、貧困や格差といった個別テーマに関連づけたりしながら、社会保障の理念や内容に関する最低限の知識を修得する。	
総合教育科目	自然・情報系科目	数学的発想	この授業では、数Ⅰ・A程度の知識を前提として、グラフ理論、確率・統計、整数の性質などについての初歩的な講義を行う。これらの数学の身近な応用として、たとえば、グラフ理論ではカーナビの経路探索、確率・統計では宝くじや保険、整数の性質では公開鍵暗号方式などのしくみを理解する。それぞれのテーマごとの講義の後に、応用例に関するグループワークなどを通して体験的活動を行って、数学的な発想を経験的に学んでいく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	自然・情報系科目	生命科学	変化が激しくストレスに晒されやすい現代にあって、私たちを取り巻く自然への深い関心と理解を培い、生涯に亘って精神と身体を健康に維持できるように、生物の生命現象を分子の動きを追いながら学び、疾患や失調という形で表出されてくる個体や集団レベルでの課題を理解できるようにする。具体的には、生体構成物質の構造や性質ならびに細胞や器官の働きを理解し、ヒトの健康と密接に関わる栄養、ホメオスタシス、生殖、発生等における基本的な物質の流れを理解する。さらに、生命操作技術の発展が人間社会に及ぼす影響などを理解する。	
総合教育科目	自然・情報系科目	プログラミング基礎	情報と情報技術の問題発見の解決に活用するためのより発展的な内容を学習する。まず、WWWの仕組みを理解し、HTMLを使った演習、ホームページビルダーを利用したWebサイトの作成を通して情報発信力、情報表現力を身につける。次に、アルゴリズムの記述、変数や制御構造、プログラミングの基礎を学ぶことにより、コンピュータの原理理解を深めるとともに、論理的な思考、問題解決能力を養う。最後にExcelプログラミングでは、より実務的な機能を習得することを目的に、これまで学んだExcel関数をベースに複合関数の使い方やマクロの使い方、VBAの基本について学ぶ。	
総合教育科目	自然・情報系科目	IT活用論	はじめにインターネットサービスとはどんなものなのかを中心に学習する。次にマーケティングに活用するビッグデータの重要性を実践的に体験、習熟する。さらにEC、会員サービスとポイント、インターネット広告、検索などのインターネットサービスの基本サービスの学習と事例紹介、決済FinTech、シェアリングエコノミー、IoTの仕組みと事例を学ぶ。すべての講義において、学生とインタラクティブに対象のサービスを実際に使いながら進め、試しに作ってみるなど、実践的な講義を目指す。いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話をしてもらう。ワークショップ、グループディスカッションなどを織り交ぜながら、常に動きのある講義にする。	
総合教育科目	基盤科目	発信力ゼミ	この科目は、専門ゼミの導入科目としての役割を果たすもので、大学で必要とされる基礎能力：思考・判断力、表現力、アカデミックスキルズなどを学ぶ。各ゼミでは、担当教員の指導のもと、あらかじめ設定したテーマに沿って、各自が独自に調べ、まとめたものを発表し、皆で評価し合う。この機会を通して、読み書き話すとといった日本語能力を徹底的にブラッシュアップする。最終学期に、ゼミごとに異なるテーマについて調べた内容を成果としてまとめ、全ゼミ合同の報告会で発表し、論集などの成果物にして残す。	
総合教育科目	基盤科目	デザイン思考	世の中の様々なデザインの系譜や事例を整理し、デザインが所謂デザイナーの活動だけではなく、様々な分野や職種で応用・実践できる方法論であることを理解する。今の姿を探る、課題を見つける、アイデアを発案する、試して磨き上げるというプロセスの中で、発散と収束を繰り返して課題を発見し解決するための、様々なツールを実際に体験する。また、関連したノウハウなども学習し、総合演習では、グループで設定したテーマで、これまで学習したプロセスを通して実施することで、デザイン思考による課題の発見と解決を実践する。	
総合教育科目	基盤科目	世界の文化と社会 I	日本と密接な関係を持っている多文化・多人種社会アメリカ合衆国について、特に地域・人種・日米関係等の視点から、基本的に理解するための講義を進めてゆく。またアメリカ文化が幕末・明治時代以降現在に至るまで日本においていかに受容されてきたのかを概観し、さらにグローバルな視点からアメリカ文化と日本及び東洋の文化との間の比較的考察を試みる。質疑応答・議論などの機会も設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	基盤科目	世界の文化と社会Ⅱ	日本と歴史的に密接な関係を持つ、中華人民共和国および台湾・シンガポールなど漢語通用地域の社会、政治、文化、民族問題などについて、基礎的な情報を理解することを目的として講義を進める。グローバルな視点から日本・中国など東アジアの現在までの歴史的展開について概観しながら、現在の東アジア情勢の原点について考える。また日本の文化と中国の文化の相違についても考察する。質疑応答・議論などの機会も設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。	
総合教育科目	基盤科目	象山学	イノベーターを学外から招き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう講義である。イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、講師をファシリテーターとし、学生自らが自分の問題として考えていく。これまで、整理された知識を受動的に身につける機会が多かった学生に対し、複雑な現実と格闘する先達の姿を見せ、能動的に現実を向き合っていくきっかけを与え、現実と向き合って社会に貢献していく方法を身につけてもらう。 (オムニバス方式/全14回) (23 真野 毅・51 首藤 聡一郎/2回) (共同) ガイダンス、ディスカッション (自分が考える経営のイメージとポイント) : 第1回及び第14回講義  (23 真野 毅/6回) 起業の難しさと面白さ、ソーシャルビジネス、行政におけるイノベーション、ディスカッション (イノベーターになるには?)、サービス産業におけるイノベーション、ベンチャーキャピタル: 第2回~第7回講義  (51 首藤 聡一郎/6回) 農業におけるイノベーション、ものづくりにおけるイノベーション、ディスカッション (イノベーションを起こすためには?)、経営者の責任と面白さ、経営戦略の重要性、組織マネジメントの難しさ: 第8回~第13回講義	オムニバス方式・共同 (一部)
総合教育科目	基盤科目	信州学	大学で身につけるべき教養とは、精神的に豊かに生きるための知識である。そのためには、自分で問題を見つけ出し、解決する能力を身につける必要がある。君たちは何故ここにおいて、これからどのように生き、未来を創っていくべきか。この大きな課題に迫るためには、最も身近な足下から見直していかねばならない。この授業では、長野県立大学なのにどうして、旧国名を冠した信州学なのか、善光寺はあの場所でなければいけないのかなど、信州の歴史や民俗に軸を置きながら、君たちが学ぶ長野県を多面的に理解できるようにする。	
総合教育科目	基盤科目	情報リテラシー	コンピュータやネットワークを知の情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。	
総合教育科目	基盤科目	健康と運動科学Ⅰ	本講義では講義・実習・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。	講義7回 実技7回

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	基盤科目	健康と運動科学Ⅱ	学生自身のからだところへの理解は、知識だけではなく「からだを動かす」ということを通しても広がり、深まってゆく。そのため、できるだけ幅広い分野の教材を取り上げたい。健康・運動・スポーツは、分かる・理解するなどの「知識」を身につけるだけでは不十分で、「実践」につながってこそ始めて完結する。ここに健康と運動科学授業の意味と重要さがある。自分自身でやってみることで、自分自身のからだを実感し、その中の客観的・科学的理論を抽出し、これを再意識して「からだ」についての知識とからだそのものを結び付ける授業としたい。	講義7回 実技7回
総合教育科目	基盤科目	シーズンスポーツ	長期休暇を利用して合宿形式で新しい仲間を作り、自然体験を通して他者との交流を持ちながら、心身ともに充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り、創っていくための様々な方法や技能を学ぶ。自然の中での活動を通して自然環境の理解を図る。授業は長野県内の豊かな自然環境を利用したプログラムを行う。シーズンスポーツを通して、自然、ひと、自分とうまく付き合っていく方法を学んでいく。	
総合教育科目	基盤科目	グローバル教養ゼミ	専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。 (22 張 勇／異文化圏に暮らす人々の体格・体力・生活習慣について考える (26 谷口 眞由実／中国語及び中国文学(特に古典)・中国文化について考える (33 坂 淳一／英米の文学及びその背景となる文化・歴史について考える (45 二本松 泰子／日本語及び日本文学(特に古典)・日本文化について考える (46 萱津 理佳／情報通信技術 (ICT) の利活用・情報教育について考える (50 織田 竜也／文化人類学の諸概念について考える (63 馬場 智一／フランス語・ドイツ語及び哲学・倫理学の諸問題について考える (53 中島 基樹／言語の文法とその習得過程について考える	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通科目	健康発達概論	<p>本講義では、人間の発達について社会・文化的な文脈の中で身体的、精神的な健康を基盤として生涯にわたって発達するという観点から学ぶ。特に、各ライフステージを充実して生きるための環境とその支援、健康の基盤となる食、社会のあり方についての基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、社会文化的アプローチから各発達段階の特徴、人間関係を中心とする社会的環境の機能と役割について学ぶとともに、発達の基礎をつくる幼児期の教育と環境のあり方、健康発達の基盤となる食と栄養、健康を増進する支援、メンタルヘルスのあり方についてディスカッションを通じて自身の経験を振り返りながら学びを深める。また、健康で豊かな発達を保証する地域コミュニティのあり方について考える。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(31 太田 光洋/2回) 健康発達とは何か、発達と環境：第1回及び第2回講義</p> <p>(2 中澤 弥子/1回) 長野県の食と健康：第3回講義</p> <p>(56 中山 智哉/2回) 妊娠授乳期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス、学童期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス：第4回及び第7回講義</p> <p>(12 加藤 孝士/4回) 乳幼児期の発達、環境と保育、支援のあり方、メンタルヘルス、思春期・青年期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス、成人期・高齢期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス、特別な支援を必要とする人の環境と支援：第5回、第8回、第10回及び第13回講義</p> <p>(5 稲山 貴代/5回) 妊娠授乳期・乳幼児期における食と健康、学童期・思春期・青年期における食と健康、成人期における食と健康、高齢期における食と健康、特別な支援を必要とする人・家族の食と健康、まとめ：第6回、第9回、第11回、第12回及び第14回講義</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通科目	健康発達実習	<p>本実習では、健康発達概論の学修内容をふまえ、本学の存置する長野県における健康発達の状況と特色について、フィールドワーク及び調査を通して学ぶ。フィールドワークでは、地域に出て長野県の食文化を切り口に自然環境とそこで築かれてきた生活様式や文化について、主として農業・調理体験を通して学ぶ。また、フィールド調査を通して近年の乳幼児及びその親、高齢者の生活や発達の状況の特色について調べ、フィールドワークで明らかになった地域における健康発達の状況や特色との相違を明らかにして、健康発達増進の課題について考える。</p>	共同
専門教育科目	専門基礎科目	学部共通科目	長野県健康社会史	<p>日本の公衆衛生の歴史や健康の考え方の変遷等を基盤として、長野県で展開されてきた健康長寿に向けた活動を学ぶ。健康の定義、公衆衛生の概念、保健医療福祉や組織活動の変遷と、その健康生活を支援する様々な職種の役割を、先人の活躍と共に理解する。授業を通し、長寿県とされる長野県の強み、弱み、これからの課題を知り、自らの専門性と結びつけ発展へつなげる礎を築く。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	導入科目	海外プログラム	管理栄養士として先駆的な活動を推進している海外（アメリカ合衆国またはニュージーランド）に滞在し、その養成制度と活躍の現状を理解する。また、海外の食習慣や生活習慣を体験するとともに、日本食の海外での普及の現状を知り、視野を広げる。その事前指導として、研修国の社会制度や教育制度、歴史や文化、生活習慣などについて学び、個人個人の目標を設定する。事後指導では、滞在先で学んだ学習内容の省察と個人課題について整理と検討を行い、報告会での発表や意見交換を通して、専門領域への理解を深め、さらなる関心を高める。	共同
専門教育科目	専門基礎科目	導入科目	管理栄養士活動論	保健・医療・介護・福祉ならびに教育分野など、さまざまな職域で専門職として活躍する、次代を担う管理栄養士を養成するための導入科目である。社会のニーズに応えるための管理栄養士の使命や役割、関連法規、職業倫理、歴史的背景、他職種との連携など、多岐にわたる内容について理解を深めるとともに、管理栄養士の職務に対する学びの意欲を醸成する。さらに、各職域で活躍する管理栄養士の生の声を聞いて、これからの時代に活躍する、新しい管理栄養士の可能性を模索し、理想の管理栄養士像を構築する。	
専門教育科目	専門基礎科目	導入科目	食文化論	「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、日本の伝統的な食文化への関心が高まっている。食文化論では、日本の食文化とはなにか、外国からきた食材や料理を巧みに日本化して取り入れていった歴史、米と魚を主軸に、多様な発酵技術を生かした独自性、郷土料理の広がりなど、日本の食文化について学ぶ。食品の種類別にその歴史を通史的に学び、世界や地域の食文化や家庭内・家庭外の食文化について、その特徴とともに、食と健康との関係について学ぶ。自らの食生活や食文化について理解する。	
専門教育科目	専門基礎科目	導入科目	経営学入門	経営学は、営利企業、公的組織を問わず、組織の経営行動の最適化を目的に体系化された学問であり、社会や市場、顧客などの組織外部との関係性の側面と、組織を構成するリーダーやメンバーの意識や行動、設備や技術などの経営資源の活用といった組織内部の側面がある。本講義では、第一に経営学とは何か、経営学を学ぶことの意義について、第二に企業はなぜこのような行動をとるのか、競争優位を獲得するための企業の経営行動について学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	導入科目	アカウンティング入門	給食施設において、栄養バランスが良く安全な食事を、多数に対し継続的に提供するには、運営計画から評価までの一連のプロセスが、給食経営管理の理論と手法に基づいて、効果的にマネジメントされなければならない。これを財務面から支えるのが会計である。 給食施設の運営活動を会計によりとらえる場合、顛末が貨幣額を用いて認識・測定され、会計数値等に要約される。給食施設を経営管理する主体は、この要約情報を利用して経営上の意思決定を行う。本講義では、こうした一連の会計プロセスに関わる様々な論点を順次学修する。	
専門教育科目	専門基礎科目	導入科目	リーダーシップ論	リーダーシップとは「組織の目的や目標の達成に向けて、個人および集団を働かせるための影響力」のことである。本講義では、リーダーとリーダーシップの意味、リーダーシップ研究、リーダーシップのスタイル、経営環境とリーダーシップ、メンバーとフォロワー、現在と今後のリーダーシップのあり方などの論点と実践的な事例を取り上げる。授業方法は、講義に加えて、課題や事例についてのグループ討議、発表と質疑を行い、受講生が主体的に学ぶものとする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	社会・環境と健康	公衆衛生学	個及び集団において、疾病を予防し健康の増進をいかに図っていくか、という公衆衛生的な知識と考え方を身につけることを目的とする。目的達成のため、1) 健康、疾病、障害などの基本的な概念、2) 人を取り巻く社会状況、環境がどのように健康に影響するか、3) 環境や社会にあるリスクと健康との因果関係を明らかにする疫学的方法、4) 疾病の予防と健康を増進するための具体的、実践的な方法について学修する。	
専門教育科目	専門基礎科目	社会・環境と健康	公衆衛生学実習	公衆衛生学で学習した、環境・産業保健、地域保健等の領域から、テーマを選択し調査実習を行う。その際、社会の中での栄養学や関連する保健の位置づけを考えたテーマを設定する。調査実習では、1) 文献調査を行い、現在の状況把握と今後の展望について公衆衛生的視点でまとめること、2) 実態を把握するための調査を行い、公衆衛生的な観点で今後の対策を考えること、3) 疫学的な調査を行い原因と結果の因果関係を明らかにすること、とする。	
専門教育科目	専門基礎科目	社会・環境と健康	食事調査法	対象者（個人および集団）の栄養評価を行う際の基本的な情報となる、食事摂取量の測定としての食事調査法を学ぶ。食事調査法に関しては、食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法等についての意義、目的、特徴(長所・短所)について、さらに各種食事調査法の妥当性や精度について学修する。講義と演習を通して、食事調査法の基礎技術や留意点を理解し、対象者の状況や目的に合わせた食事調査を選択することができるようになることを目的とする。	
専門教育科目	専門基礎科目	社会・環境と健康	栄養疫学	科学的根拠に基づいた栄養学（EBN）とは何かを理解し、「社会・環境と健康」ならびに「公衆栄養学」分野で学んだ疫学研究を実施する際に考慮すべき問題点を理解し、その具体的な克服方法について学修する。 具体的な内容は、1) 栄養疫学研究の概要を理解し、栄養疫学方法論の基礎を理解する。2) 栄養疫学研究に必要な基礎ならびに応用統計を駆使することができる。3) 実際に行われている栄養疫学研究の論文を読んで内容が理解できるようになる。	
専門教育科目	専門基礎科目	社会・環境と健康	社会福祉学	本講義の目的は、福祉施設や病院などで管理栄養士として仕事をする上で必要最低限の知識を修得することである。広範囲に渡る社会福祉の各分野の現状と制度の概要を学び、社会保障制度の中で、医療保障、所得保障、公衆衛生と並んで社会福祉を位置づける。そして社会福祉の戦後の流れを押さえた上で、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉の流れを整理する。制度としての社会福祉の意義を理解し、利用者の保護に関わる制度(情報提供、第三者評価、権利擁護、苦情解決)を学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	臨床医学概論	疾病の原因、病態、症候について人体の構造と機能に関係づけて理解し、診断と治療の概要を学修する。特に、栄養素の不足あるいは過剰が発症に関わる疾患について詳しく学び、健康の維持・増進、疾病の予防・治療の中で食事・栄養が果たす役割を理解する。管理栄養士が適切な栄養管理を行い、チーム医療の一員として積極的に医療現場で活躍できるように臨床医学の基礎を修得する。医療人に必要な医療倫理の基礎を学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	人体機能 (生理) 学	生命現象において調和のとれた個体を作り上げている細胞、組織、器官などの各要素の機能と、それらの相互の関係について学修する。人体における恒常性の維持機構を、神経性調節、内分泌性調節、免疫による生体防御機構などの観点から学ぶ。疾病の病理・病態を学ぶための基本となる人体の機能を学習し、恒常性の破綻が疾病へ発展することや、恒常性維持に対する食事・栄養の役割を理解する。	
専門教育科目	専門基礎科目	生理学実習	人体機能 (生理) 学で学んだ知識を実習を通して確認し、理解を深める。人体の基本的な生理機能である、呼吸・循環機能、自律神経調節、エネルギー代謝に関する臨床検査を体験し、その意義を理解する。臨床検査データや身体計測から栄養状態を評価する方法を学び、栄養管理に必要な基礎的知識を修得する。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体構造 (解剖) 学	人体の形態・構造を、細胞、組織、器官のレベルで学び、またそれらの相互の関係について理解する。肉眼による観察を主とする肉眼解剖学と、顕微鏡を用いて組織や細胞を観察する組織学との両方のレベルで学び、巧妙かつ精緻につくられた身体のしくみを学修する。人体の生理機能や疾病の病態生理を学ぶための基本となる人体の構造を理解する。	
専門教育科目	専門基礎科目	解剖学実習	人体構造 (解剖) 学で学んだ知識を、実習を通して確認し、理解を深める。マクロ解剖学実習として、人体解剖モデルを用いて各臓器・器官の形態、体内での位置を学習し、齧歯類の解剖により生体における各臓器の形態、体内での位置を確認する。ミクロ解剖学実習として、主要臓器 (肝臓、腎臓、心臓、消化器、内分泌腺など) の組織像を顕微鏡にて観察する。正常組織像と病理組織像とを比較することにより、臨床医学概論で学んだ疾患について正常から逸脱した病的構造変化をとらえ、病態理解につなげる。	
専門教育科目	専門基礎科目	病理学	疾病の原因、発症機序、病態生理を学習し、疾病の症候に関連づけて理解する。細胞レベルから組織レベルにおける構造変化および機能破綻が器官から個体に及び、疾病として顕在化するしくみを学ぶ。人体構造 (解剖) 学と人体機能 (生理) 学で学んだ知識をもとに疾病の病態生理を理解し、臨床医学概論で学んだ臨床医学の基礎的知識を補完する。病状に応じて適切な栄養教育・栄養指導を行うために、主要な疾患の治療指針に対する基礎的知識および、主な医薬品と栄養・食事との相互作用について学修する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	生物を構成する糖質、脂質、タンパク質、核酸など代表的な生体成分の化学的特徴や構造、及び分析法の概略を学修する。そして、それら生体分子の細胞や組織・器官における“ふるまい”や様々な調節機能を理解する。具体的には、発生、分化、細胞内・細胞間情報伝達、免疫などのヒトの健康と密接に関わる生命現象を分子レベルで学修する。また、生体内化学反応に欠かせない機能タンパク質としての酵素の一般的性質についての理解を深める。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅱ	栄養の基盤である生体物質の代謝とその調節のしくみ、物質代謝における酵素反応の重要性を理解する。すなわち、酵素反応速度論や酵素活性調節機構、生体エネルギー学、糖代謝（解糖、TCA回路、電子伝達系と酸化リン酸化、糖新生、グリコーゲン合成・分解等）、脂質代謝（脂肪酸の合成・分解、ケトン体産生、トリアシルグリセロールの合成・分解、コレステロール代謝等）、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸代謝、薬物代謝ならびに代謝制御機構や生体調節機構について分子レベルで学修し、病態理解の礎とする。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学実験	生化学の講義で学習した知識の理解を深めるため、基本的な生体成分分子（糖質、脂質、タンパク質、核酸、ミネラル）の化学的性質及び扱い方（抽出、分離、精製）について、実験を通して修得する。また、物質代謝において重要な役割を果たす酵素の生化学的特徴や性質に関する実験を行い、生体内における酵素の代謝調節について学ぶため、代表的な栄養素の消化過程を試験管内で再現する。これらの実験を通じて、栄養という生命現象についての理解を深める。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	運動生理学	運動時の代謝レベルは、安静時の最大8倍に、トップアスリートでは16倍に上昇する。それに伴い、生体は各種恒常性調節系の能力をその最大限にまで発揮させる。一方、運動トレーニングや栄養摂取は調節系の能力を改善するが、恒常性維持能力の可塑性や環境適応能には限界があり、それらを理解することは、現場で生じるさまざまな問題の解決にも役立つ。講義内容は、①筋収縮とそのエネルギー供給、②運動後のエネルギー回復、③運動中に使用されるエネルギー、④トレーニング方法とその効果、⑤筋力、好氣的運動能に関与する要因、である。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	運動生理学実習	運動生理学で学んだ内容を生きた知識として定着することを目的とする。本実習では、①持久力測定方法：自転車エルゴメータ（トレッドミル）を用いた運動負荷漸増時の心拍数、呼気ガスを測定し、持久力指標である最高(大)酸素摂取量、ガス交換閾値の概念と決定因子を学ぶ、②筋力測定方法：膝関節の等尺性筋力（等速性筋力）の測定方法を学ぶ、④持久力トレーニング：持久力を向上させるための負荷運動強度、頻度、期間とその効果について学ぶ、⑤筋力トレーニング：筋力を向上させるための負荷運動強度、頻度、期間とその効果について学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	食品学Ⅰ	食品成分、特に五大栄養素である炭水化物、タンパク質（アミノ酸、ペプチド、酵素）、油脂、水溶性及び脂溶性ビタミン、ミネラルに対し、その構造を含めた化学的特徴、機能、性質を重点的に学修するとともに、それらの基本的な分析方法について学修する。また、食品の嗜好性成分について学修し、食品中の水の役割や食品中成分の成分変化から食品の保存方法についても学修する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	食品学Ⅱ	食品学Ⅰを踏まえた上での応用的学問として、各種食品の成分特徴と種類、貯蔵方法等について学修する。主食である穀物（米、小麦、トウモロコシ）から始まり、植物性食品（豆、芋、野菜、果実、海藻類）、動物性食品（卵、畜肉、鶏肉、乳、水産品）、嗜好飲料や嗜好食品、アルコール飲料、油脂、調味料、発酵食品、新しい加工食品までを網羅的にその特性と利用方法について学修する。またこれらの食品の機能性のほか、表示や規格基準についても学修する。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	食品学実験	食品成分の化学的・物理的性質を理解するために、それぞれ具体的な食品を用いて定量及び定性実験、ならびに物性に関する実験を行う。まず試薬調製法、試薬濃度の表し方について学修し、その知識や技術を身につけた上で、食品成分の分析を行い、食品成分表と比較検討する等、考察を深める。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	食品衛生学	本講義では食品を衛生的に取り扱うために必要な手段について学修する。食品を安全に摂取するためには、その安全性を確保しなければならぬ。食品衛生行政、食中毒、食品添加物、器具・容器包装、食品成分の有毒化などを学ぶことで、自らの食の安全を検討する機会となる。この講義を学ぶことによって、各人が実際に食品を扱うとき、何が危険か危険でないのか、何をどうすると危険なのかを理解できるようになる。食の安全性を守るのは我々自身である、と常に念頭に置くことで安全管理（食のリスクマネジメント）を学修する。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	食品衛生学実験	本実験では前半に微生物試験を連続して行う。その試験特性を理解し、食品や調理器具、自らの手や空間における汚染の現状を把握する。後半は水道水の汚染や、食品中の食品添加物や食品の鮮度を把握するために、それぞれ具体的な食品を用いて化学実験を行う。これらの実験によって実際に試薬や器具の適切な取り扱いができ、自ら試薬調製が可能になると共に、食品の安全性を確保するのに必要な手段を学修する。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	食品開発・品質管理論	実際の企業ではどのような組織活動が行われているかを筆頭に食品開発の研究から工場での品質管理、価格の算出、製品販売までの立ち上げ、営業と販売促進方法など今までの加工食品から今後の目的まで概説する。後半では特に作成された製品をどのようにして安心安全に品質良く届けられるかについて品質管理の手法について解説する。データの取り方や統計に至るまでどのように品質を管理しているか、また管理方法についても学修する。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	食品・メニュー開発実習	本実習では、大学生を中心としたニーズ調査を行い、その意見から食品の対象を目標として設定する。その食品を実際に試作し、最終製品として作成すると共に、パッケージデザインや内容（栄養表示）も全て自分たちで検討を行う。実際に既製品に近い製品を開発、プレゼンテーションを行い、投票で最優秀製品を決定する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	調理学	本講義では、理論体系に裏付けされた講義を通して、食品の衛生・安全面、栄養面、嗜好面の各特性を高める食品の調理理論及び調理操作の方法を理解する。おいしい料理を作ることに役立つ食品の調味や、非加熱調理と加熱調理の原理、代表的な調理器具・設備の使用法、調理操作過程における食品の物理化学的変化、調理による食品の栄養特性の変化、食事設計の基礎、献立作成、食事の配膳、供食に関する知識や技術を修得する。また、食品のレオロジーや官能検査による嗜好性の評価方法について学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	調理科学実験	本実験では、調理学の理論の根拠について実験を通して科学的に理解する。調理の過程で生じる食品の様々な科学的変化について観察し、物理化学的性質の測定や組織学的方法および統計学的手法を用いて、食品組織や成分の変化について学ぶ。調理科学に関する基礎実験、基礎調理操作に関する実験および食品の調理性に関する実験を通して、科学的に調理理論について理解する。食品素材や加工品の品質評価や嗜好性の評価について、機器測定と官能評価による総合的な分析方法を修得する。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	調理学実習Ⅰ	本実習Ⅰでは、調理の基礎的な知識と技術を系統的に修得する。日常用いられる非加熱調理操作、加熱調理操作に関する基礎的事項を理解し、さらに、調味、食器の取り扱い、盛りつけなどの基本調理を系統的に学習する。日本料理様式、西洋料理様式および中国料理様式の系統的実習によって、必要な調理の知識や基本技術について実践を通して修得する。また、安全面・衛生面に関する正しい知識、さらに環境を配慮したエコクッキングの実践力を修得する。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	調理学実習Ⅱ	本実習Ⅱでは、調理学や調理学実習Ⅰで学んだ調理に関する基礎知識や基礎的な調理技術を基に、食の嗜好性や地域性など多角的な視点から食事をとらえ、それらを取り扱うための総合的でより高度な応用技術や知識について学び、創造力を養成する。日本や諸外国の供食、行事食、郷土食などの調理実習や食事マナーの実践を通して、世界の食事文化や食事形式について文化的理解を深め、調理操作と調味、献立構成など、種々の知識を実践に活用する総合的な応用力を修得する。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	国際食文化論実習	国際食文化論実習では、世界中の人々が風土や歴史の中で、どのような食べ物をどのように食べてきたか（産物の入手・準備、調理法・調理技術、調理道具、食器、食具、供食、食卓構成、食事習慣など）を、地域ごとに文献資料や統計資料、映像資料を通して学修する。代表的な外国料理の調理実習をグループで行った後、世界各国の料理によるビュッフェパーティー「ワールドキッチン」の計画・実施を行い、諸外国の多彩な食文化の特徴について学ぶ。報告会での発表や意見交換を通して、世界の多様な食文化について幅広い視点から理解する。	
専門教育科目	専門基礎科目	食べ物と健康	食ビジネス概論	本講義では、外食・中食産業および卸売業、食品を扱う小売業を取り上げ、日本の食ビジネスの第二次産業、第三次産業の全体像を学修する。食品消費の変化や中食産業・小売業の発展の基礎となった「チェーンストア理論」を理解し、前半では、外食・中食産業の各業態の特徴、シェアやトップ企業の戦略について、後半では食品を取り扱う小売業の業態特性、卸売市場と卸売業の役割、食品製造業と流通の関係を学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	栄養の概論に始まり、食物の摂取（中枢制御、日内リズム）、消化・吸収と栄養素の体内動態（消化器系の構造・機能、栄養素の消化・吸収過程と調節、栄養素の体内動態、生物学的利用度）、たんぱく質の栄養（たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送、たんぱく質の量と質の評価、他の栄養素との関係）、炭水化物の栄養（糖質の体内代謝、血糖調節、エネルギー源としての作用、他の栄養素との関係、食物繊維・難消化性糖質）について理解する。	
専門教育科目	専門科目	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅱ	脂質の栄養（体内代謝、臓器間輸送、貯蔵エネルギーとしての作用、コレステロール代謝、脂質の量と質の評価、他の栄養素との関係）、ビタミンの栄養（構造・機能、栄養学的機能、生物学的利用度、他の栄養素との関係）、ミネラル（無機質）の栄養（分類と栄養学的機能、生体機能の調節作用、生物学的利用度、他の栄養素との関係）、水・電解質の栄養学的意義（水分・電解質の出納、電解質代謝と栄養）、エネルギー代謝（概念、エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝、エネルギー代謝の測定法）、分子栄養学について理解する。	
専門教育科目	専門科目	基礎栄養学	基礎栄養学実験	本実験では、3つのテーマで実施する。具体的には、①食事内容（たんぱく質の質と量）の違いによる尿中窒素代謝マーカー（尿中尿素窒素および尿酸）排泄への影響、②食事内容（糖質・食物繊維の質と量）と摂取タイミングの違いによる食後血糖値の変動への影響、③遺伝子多型と体内栄養素代謝能の差異（アルコール代謝関連遺伝子を例に）について、日常の食生活・個人差と体内栄養素代謝との関わりを学修する。	
専門教育科目	専門科目	応用栄養学	食事摂取基準	食事摂取基準は、管理栄養士が個人および集団に対して栄養アセスメントや適切な栄養計画、食事計画を立てる際の科学的根拠となるガイドラインである。その策定の背景や基礎的理論を学ぶとともに、各指標の科学的根拠を理解し、対象者に応じた栄養管理プロセスの活用方法を学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	栄養管理の意義や、栄養管理プロセス（PDCAマネジメントサイクル）を学修し、食事摂取基準の活用、ライフステージ別の栄養管理につなげて考えることを理解する。青年期、妊娠・授乳期、新生児期・乳児期をとりあげ、加齢（成長・発達）に伴い変化する人の身体特性（形態、生理、機能、精神）、ライフステージの変化に伴う環境やライフスタイルの変化について学修し、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養管理プロセスについて理解する。	
専門教育科目	専門科目	応用栄養学	応用栄養学Ⅱ	幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期をとりあげ、加齢（成長・発達、老化）に伴い変化する人の身体特性（形態、生理、機能、精神）、ライフステージの変化に伴う環境やライフスタイルの変化について学修し、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養管理プロセスについて理解する。そのうえで、望ましい栄養状態・食生活の実現、生活の質（QOL）の向上を目指した栄養管理について総合的に考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	応用栄養学	応用栄養学Ⅲ	精神的ストレス、低温・高温環境などの特殊環境や運動などによって生じる人の身体特性（形態、生理、機能、精神）の反応や適応について学修し、栄養アセスメントから、健康・栄養・生活・食生活の課題、栄養管理プロセスについて理解する。さらには、災害時、傷病、障がいに関連する栄養管理プロセスについて学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	応用栄養学	応用栄養学実習	乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、妊娠期、授乳期、成人期、高齢期等、ライフステージ別に提示された事例について、栄養アセスメント項目の選定と方法、栄養・食生活課題の抽出と選定、栄養介入のための計画・立案を演習で学ぶ。計画に基づき、具体的な栄養計画・食事計画をたて、調理・供食し、評価する実習を行い、プロセスを学修する。さらに、栄養管理計画を修正し、多職種連携に理解が得られるような文書作成、プレゼンテーションスキルを習得する。	
専門教育科目	専門科目	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	本講義では、栄養や食に関する知識を学修するだけでなく、科学的根拠に基づいた栄養教育を実践するための栄養教育の定義や目的、行動科学の理論やモデルを学修する。さらに、栄養教育をマネジメントするために、栄養教育のアセスメント・計画・実施・評価の方法を栄養ケア・プロセスにおける栄養介入に基づいて学修する。	共同
専門教育科目	専門科目	栄養教育論	栄養教育論Ⅱ	生涯を通じた健康づくりには、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育が必要である。本講義では、対象者に応じた栄養教育を実施するために、各ライフステージ・ライフスタイル別の特徴を把握し、実践と結びつけながら栄養教育を行う際のポイントを学修する。さらに、栄養教育論Ⅰで履修した行動科学の理論やモデルを、個人や集団の対象者に応じた栄養教育に活用する方法について理解する。また、栄養教育と関連する食環境づくりについて学修する。	共同
専門教育科目	専門科目	栄養教育論	栄養教育論実習	栄養教育論Ⅰと栄養教育論Ⅱで得た知識をもとに、栄養教育プログラムを作成し、それに基づいたアセスメント、計画、実施、評価を実施して、対象者や栄養教育の場に適した栄養教育の実践力を養う。また、栄養教育プログラムごとの教材作成や、栄養アセスメントの結果のまとめ方に関する実習を通して、栄養教育を実施するための総合的なスキルを身に付ける。	共同
専門教育科目	専門科目	栄養教育論	栄養カウンセリング演習	管理栄養士の職務は、「人」を対象として、人々が望ましい食行動や生活習慣へと自発的に変容することを支援し、協働して歩むものであり、修得した食に関する高度な専門的知識や技術を真に生かすためには、対象者と豊かなコミュニケーションを構築することが不可欠である。そのため、コーチングを中心とした基礎理論を学修しつつ、演習やロールプレイを通して、個々の対象者に応じた、きめ細かな対応ができる栄養指導スキルを身につける。さらに、職務を円滑に遂行するための他職種との連携に必要なコミュニケーション能力を高める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	臨床栄養学	臨床栄養管理学Ⅰ	<p>臨床栄養学がなぜ大切なのか、どのような知識が必要なのか、臨床の現場で何が必要とされているのかなど、臨床栄養学を学ぶにあたっての心構えを学修する。総論として、臨床栄養の概念（意義と目的、医療・介護制度、医療・福祉・介護と臨床栄養）、傷病者・要介護者（要支援者）の栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、栄養・食事療法と栄養補給法、傷病者・要支援者・要介護者への栄養教育、モニタリングと再評価、栄養ケア記録）、食事・栄養成分と医薬品の相互作用について理解する。（オムニバス方式／全14回）</p> <p>② 白神俊幸／7回 オリエンテーション、栄養スクリーニング、臨床検査値と栄養マーカーの読み方・考え方、臨床兆候と栄養障害、薬物の吸収・代謝・作用、食事・栄養素と医薬品の相互作用を講義する。</p> <p>③ 川島由起子／7回 医療・福祉・介護における臨床栄養と管理栄養士の役割、医療制度・介護制度、診療報酬体系、栄養補給法の選択、経口栄養法、経腸栄養法、経静脈栄養法、傷病者・要介護者の栄養管理、クリニカルパスと栄養管理プロセスの記録、NSTと栄養サポートを講義する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門科目	臨床栄養学	臨床栄養管理学Ⅱ	<p>各論の疾患・病態別栄養ケアマネジメントの前編として、栄養・代謝・内分泌系疾患（栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）、甲状腺・副甲状腺・副腎等の機能亢進症・低下症）、消化器系疾患（口腔、食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の各疾患）、循環器系疾患（高血圧、動脈硬化症、脳心血管疾患）について理解する。特に、成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法をそれぞれ関連付けて理解する。</p>	
専門教育科目	専門科目	臨床栄養学	臨床栄養管理学Ⅲ	<p>各論の後編として、腎・尿路系疾患（腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、慢性腎臓病、透析）、精神・神経疾患（認知症、神経性食欲不振症・大食症等）、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、喘息、肺炎）、血液系疾患（貧血等）、筋・骨格系疾患（骨粗鬆症、サルコペニア等）、免疫・アレルギー疾患（食物アレルギー、自己免疫疾患等）、癌・術前術後、クリティカルケア、摂食機能障害、ライフステージ別の疾患について理解する。特に、成因、病態、栄養アセスメント、治療、栄養・食事療法をそれぞれ関連付けて理解する。</p>	
専門教育科目	専門科目	臨床栄養学	臨床栄養管理学実習Ⅰ	<p>臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱを基礎として、傷病者・要介護者（要支援者）に対する栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、栄養介入に必要な栄養補給法、特に経口栄養法について学修する。モデル献立の調理実習を踏まえ、献立作成、作成献立の調理実習を通して、医療施設や介護施設で行われている知識や技術を習得する。</p>	
専門教育科目	専門科目	臨床栄養学	臨床栄養管理学実習Ⅱ	<p>臨床栄養管理実習Ⅰで習得した知識を踏まえ、臨床栄養管理学Ⅱ、Ⅲに対応する各種病態やライフステージ別の栄養管理を行うための栄養ケアプランに基づき、栄養補給法（経口栄養法・経腸栄養法）について理解する。モデル献立の調理実習、献立作成（展開食・食品交換表）、作成献立の調理実習を通して、医療施設や介護施設で行われている知識や技術を習得する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	臨床栄養学	臨床栄養管理学演習	臨床栄養管理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び臨床栄養管理実習Ⅰ、Ⅱで習得した知識を踏まえ、医療施設で実施されている栄養管理を行うために必要な「栄養ケア・マネジメント」「栄養ケア・プロセス」の実際について学修する。各疾患の症例を題材として栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入（計画と実施）、栄養モニタリング・評価、アウトカム管理システム、栄養食事指導の知識や技術を習得する。	
専門教育科目	専門科目	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	国・地域レベルでの健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した栄養政策について理解する。地域や集団の健康・栄養問題の現状と課題の理解として、国民健康・栄養調査結果、食育に関する意識調査などから国民の健康状態、食生活、食環境について学修する。さらに健康・栄養問題解決の方向に向けた健康・栄養政策として、管理栄養士・栄養士制度、行政栄養士の役割、健康増進、食育および関連法規を理解する。	
専門教育科目	専門科目	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅱ	地域社会の健康・栄養問題の解決に向けて、関係者や関係機関の横断的な連携・協働を促し、地域の状況に即した計画の立案、実践、評価、フィードバックを行う。これら一連のマネジメントとして、公衆栄養アセスメント、プログラムの課題抽出、目標設定、計画策定、事業計画作成、プログラムの実施、評価を学修する。また地域における健康・栄養活動の実践と展開として、母子保健、食品安全、災害時の食支援についても学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	公衆栄養学	公衆栄養学実習	栄養疫学、公衆栄養学ⅠおよびⅡで学んだことを踏まえ、臨地実習Ⅲ（保健所）へのつながりを視野に入れて実習する。食事調査に関わる技能の修得と地域集団の評価を目的とした解析（食事摂取基準の活用を含む）、地域における健康・栄養に関する計画の立案を中心に、グループ演習、発表（口頭、レポート）等を通して学修する。	
専門教育科目	専門科目	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	特定給食施設の意義、特定給食における関連法規、特定給食施設の対象者別、経営形態別、規模や食事回数などの給食施設の特性を理解し、給食施設の目標に沿った栄養・食事計画、栄養アセスメント、給与栄養目標量の設定などの計画立案と評価などの運営方法について学修する。さらにマーケティングの原理、会計・原価管理、献立作成と給食における作業工程、給食事務管理、給食帳票の作成とその利用、給食設備、機器の点検と管理、安全・衛生管理、食中毒予防、危機管理の体制、リスクマネジメント、災害時の危機管理など特定給食施設における給食の運営や計画から実施、評価について学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅱ	特定給食施設運営について、食事計画、食品構成と献立作成、食事摂取基準に基づく給与栄養量の算出、また、生産管理、大量調理の特性、生産工程における標準化と管理などを学ぶ。衛生管理については、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく安全・衛生管理、食中毒予防、発生時対応など給食施設における給食運営、計画、実施、評価まで学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	給食経営管理論	食事設計論	本講義では、年齢、性別、身体および栄養状態の異なる個人や集団を対象に、目的に応じて適切な食事設計を行い、さらに、計画に基づいて実施、評価・検討するために必要な基本的事項を理解し、実践につなげることを目的とする。食事設計の目的、給与栄養目標量の設定、食品構成表、献立表、作業指示書の作成、食事の提供および食事環境の整備、評価の具体的方法、食事摂取基準および食品成分表の活用方法を学修する。	
専門教育科目	専門科目	給食経営管理論	給食経営管理実習 I	本実習では、PDCAサイクルに基づく給食の全体業務を理解し、給食経営を総合的にマネジメントできる基本的知識と技術を獲得する。給食経営管理論 I・II、その他各分野で学習した理論を応用し、給食の計画・実施・評価に至る一切の業務を学生が主体的に実践する。グループは調理、配膳、食堂、洗浄班に分かれ、給食のテーマに基づき班ごとに給食を計画し、調理班の給食計画に基づき、給食を生産、喫食、評価する。	
専門教育科目	専門科目	給食経営管理論	給食経営管理実習 II	本実習では、給食経営管理に関わる一連の業務を学生が主体的に実践することにより、PDCAサイクルに基づく給食経営の総合的マネジメント能力と技術を体得する。給食経営管理実習 I において獲得した基本的知識と技術を応用し、テーマに基づきグループごとに給食計画を立案する。調理班を中心に給食を生産し、実際に学内の教職員や学生を対象に提供サービス業務を行う。また、喫食者に対して給食を媒体とした栄養教育発表を行う。給食利用者からの評価をもとに、喫食者の満足のいく給食のあり方、給食サービスの方法について考察する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	総合 演習	オムニバス方 式・ 共同 (一部)
		管理栄養士として必要な基本的知識の整理、統合を目指し、4年間の学修の総まとめを行う。そのため、各分野の重要事項について確認、整理するための解説、演習を行う。さらに、各分野のつながりを意識しながら、それらを統合するために繰り返し学修し、実践的な応用力を養う。また、新しい法制度やガイドラインについても重点的に取り上げ、最新の知識を補足して理解を深める。 (オムニバス方式/全14回)  ③ 小木曾 加奈/1回) 食品学のまとめと最新動向  (2 中澤 弥子・④ 上延 麻耶/1回) (共同) 調理学、給食経営管理論のまとめと最新動向  (③ 小木曾 加奈・2 中澤 弥子・④ 上延 麻耶/1回) (共同) 食品学、調理学、給食経営管理論のまとめと応用  (② 白神 俊幸/1回) 基礎栄養学のまとめと最新動向  (5 稲山 貴代/1回) 応用栄養学(食事摂取基準を含む)のまとめと最新動向  (② 白神 俊幸・5 稲山 貴代/1回) (共同) 基礎栄養学、応用栄養学(食事摂取基準を含む)のまとめと応用  (7 石井 陽子/1回) 解剖学、生理学のまとめと最新動向  (① 杉山 英子/1回) 生化学のまとめと最新動向  (3 川島 由起子/1回) 臨床栄養学のまとめと最新動向  (7 石井 陽子・① 杉山 英子・3 川島 由起子/1回) (共同) 解剖学、生理学、生化学、臨床栄養学のまとめと応用  (9 草間 かおる/1回) 公衆栄養学のまとめと最新動向  (13 新保 みさ/1回) 栄養教育論のまとめと最新動向  (9 草間 かおる・13 新保 みさ/1回) (共同) 公衆栄養学、栄養教育論のまとめと応用  (③ 小木曾 加奈・2 中澤 弥子・④ 上延 麻耶・② 白神 俊幸・5 稲山 貴代・7 石井 陽子・① 杉山 英子・3 川島 由起子・9 草間 かおる・13 新保 みさ/1回) (共同) 全体のまとめと応用	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	総合演習 臨地実習事前事後指導	<p>本演習では、給食経営管理論、臨床栄養学、公衆栄養学及び食育の各分野における臨地実習を行うにあたり、実習前は、実習の心構えを理解し、社会人として適切な身だしなみや礼儀等を身に付け、各実習の目的・目標を達成するために必要な事前学習や課題検討を行う。また、実習後には目的・目標が達成されたかどうかの確認を行い、実習報告会の開催により、管理栄養士の役割と現場に必要な知識・技術に関する総合的な理解を深める。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(3 川島 由起子・② 白神 俊幸・9 草間 かおる・④ 上延 麻耶・13 新保 みさ/2回) (共同) ガイダンス及び次年度生への伝達講習：第1回及び第14回演習</p> <p>(④ 上延 麻耶/4回) 給食経営管理論に係る事前事後指導：第2回、第3回、第8回及び第9回演習</p> <p>(3 川島 由起子・② 白神 俊幸/4回) (共同) 臨床栄養学に係る事前事後指導：第4回、第5回、第10回及び第11回演習</p> <p>(9 草間 かおる/4回) 公衆栄養学に係る事前事後指導：第6回、第7回、第12回及び第13回演習</p> <p>(13 新保 みさ/4回) 食育に係る事前事後指導：第6回、第7回、第12回及び第13回演習</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	臨地実習 臨地実習Ⅰ(学校給食センター)	<p>本実習は、学校給食センターにおいて、栄養食事管理、食材管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、原価管理、事務管理等の給食経営管理に関わる実務の実際を体験し学修する。また、組織管理等マネジメントの基本的な考え方や方法、給食従事者の役割やコミュニケーションの取り方などを学修するとともに、給食の関連資源を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。</p>	
専門教育科目	専門科目	臨地実習 臨地実習Ⅱ(病院)	<p>本実習では、病院・栄養部門の概要、栄養・食事管理の実際、栄養管理報告書の実際、嗜好調査・摂食量調査の実際、栄養記録の実際、外来・入院栄養食事指導の実際、糖尿病教室や腎臓病教室等の実際、集団栄養食事指導の計画、栄養教育媒体の作成、集団栄養食事指導の実施と評価、チーム医療・クリニカルパスの実際、ベッドサイド訪問、症例実習、NST回診・褥瘡回診・カンファレンスへの参加といった病院の業務全般について実習する。また、栄養アセスメントに基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の流れについても学修する。</p>	共同
専門教育科目	専門科目	臨地実習 臨地実習Ⅲ(保健所)	<p>県内の保健所等において、講義、演習などを通じ、1) 地域における健康・栄養問題の現状、2) 衛生行政組織と業務の概要、3) 管理栄養士業務の概要、栄養関連法令(法的根拠)、4) 地域保健における栄養・食生活支援体制の整備等について学修する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	臨地実習	臨地実習Ⅳ（福祉施設）	本実習は、福祉施設において、高齢者、要支援・要介護者などのレベルに対応した栄養状態に基づき適正な栄養管理、生活食事支援、栄養教育を行うための能力を養う。摂取量、摂取機能に応じた評価・栄養管理の目標、献立、調理・盛付け等に基づいた食事計画、食事介助、生活食事支援、カンファレンスの参加、栄養教育の実際、地域連携の実際について実習をと通して体験実習する。	
専門教育科目	専門科目	臨地実習	臨地実習Ⅴ（保育所・特別支援学校）	本実習は、保育所・特別支援学校において、子どもの発達段階や障害に応じた食育を行うための能力を養う。また、子どもの心身の発達と生活に基づいた食の提供と食育について理解する。さらに、食育における管理栄養士の役割を理解し、家庭、地域、他職種等と連携しながら食育を推進する能力を養う。	
専門教育科目	専門科目	臨地実習	臨地実習Ⅵ（給食施設）	臨地実習Ⅰで学んだ知識・技術を生かして、各種給食施設において実習を行う。栄養食事管理、食材管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理、原価管理、事務管理などの給食経営管理に関わる実務の実際を学修する。また、マーケティングの原理や応用を理解し、組織管理等マネジメントの基本的な考え方や方法を学修するとともに、食品流通や食品開発の状況等、給食の関連資源を総合的に判断し、栄養・安全・経済面等全般をマネジメントする能力を養う。	
専門教育科目	専門科目	臨地実習	臨地実習Ⅶ（保健所）	臨地実習Ⅲで学んだ知識・技術をさらに深めることを目的として、県内の保健所において実習を行う。1) 地域の健康・栄養課題の把握の実際として、国民健康・栄養調査や県民健康・栄養調査の計画・実施・評価、2) 保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養関連プログラムの計画・実施・評価の総合的マネジメントの方法や考え方等について学修する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	専門 科目	その他	ゼミナール
		<p>少人数のゼミ形式により、学生同士・教員の交流を深めるとともに、さまざまなスタディスキルを修得する。さらに、ゼミごとに、一定のテーマに沿って、ディスカッションやプレゼンテーションを行い、論理的思考を涵養し、コミュニケーション能力を高める。また、管理栄養士としての資質向上をめざすために、自主的な学習習慣を身につけ、互いに切磋琢磨する場を創造する。</p> <p>(2 中澤 弥子) 食文化について考える</p> <p>(3 川島 由起子) 栄養食事指導の方法について考える</p> <p>(5 稲山 貴代) 「あの人はどうして健康なんだろう？」をコミュニティの視点から考える</p> <p>① 杉山 英子) 摂食障害の病態及び発症要因について考える</p> <p>(7 石井 陽子) 生体の恒常性維持と生活習慣について考える</p> <p>② 白神 俊幸) 腸管輸送担体および食品（成分）を中心とした疾病予防について考える</p> <p>(9 草間 かおる) 栄養学的ハイリスク者に対する栄養評価と食生活支援について考える</p> <p>③ 小木曾 加奈) 信州の食材について考える</p> <p>④ 上延 麻耶) 特定集団を対象とした給食の果たす役割について考える</p> <p>(12 加藤 孝士) 食と人間の発達について考える</p> <p>(13 新保 みさ) 食行動の変容について考える</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門科目 その他	卒業研究	<p>教員の指導と助言のもとに、3年3学期から1年半をかけて卒業研究を行う。興味ある研究テーマにそって、調査研究、実験研究、文献研究等の研究方法を駆使し、主体的に研究活動を進めることにより、科学的、論理的なものの見方を修得する。さらに、管理栄養士として、実践に役立つ企画力、創造力、洞察力、問題解決能力等を涵養し、科学的エビデンスに基づく食を通じた健康のプロフェッショナルとしての総合的な能力を養う。卒業研究報告会を実施し、卒業論文をまとめる。</p> <p>(2 中澤 弥子) 食品の調理性及び食文化に関する研究</p> <p>(3 川島 由起子) 医療施設における栄養アセスメントに関する研究</p> <p>(5 稲山 貴代) ライフステージやライフスタイルに応じた栄養管理マネジメントの実践に関する研究</p> <p>① 杉山 英子 摂食障害の病態理解と発症予防に関する研究</p> <p>(7 石井 陽子) 生体の恒常性維持と栄養因子に関する研究</p> <p>② 白神 俊幸 腸管輸送担体の発現調節の解明と疾病予防・治療に向けた基礎研究</p> <p>(9 草間 かおる) 栄養学的ハイリスク者に対する栄養評価と食生活支援に関する研究</p> <p>③ 小木曾 加奈 信州の食材における二次・三次機能の探索と開発に関する研究</p> <p>④ 上延 麻耶 給食施設における栄養・食事管理および給食経営管理に関する研究</p> <p>(12 加藤 孝士) 食と人間の発達に関する研究</p> <p>(13 新保 みさ) 食行動の変容に関する研究</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教職科目	栄養に係る教育に関する科目 学校栄養教育論	<p>栄養教諭としての職務を行うために必要な知識を身につけ、実践的な指導力の必要性を学ぶ。児童および生徒を取り巻く食環境や食生活の実態を把握して、栄養教諭に期待される使命と役割や食に関する指導の教材となる学校給食の献立作成を中核とした管理の重要性を理解し、学校や学校と家庭・地域が連携して取り組む望ましい食習慣を培う食に関する指導及び健康課題を抱える児童生徒に対する個別的相談指導の必要性やその指導方法について正しく学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(1 笠原 賀子/4回) オリエンテーション、栄養教諭の職務内容、使命、役割、食に関する指導の実際、私が経験した学校給食、児童生徒の発育発達と食に関する指導を講義する。</p> <p>(67 市場 祥子/10回) 児童生徒の食に関する指導及び管理に係る法令や諸制度(栄養教諭制度等)、児童生徒に係る諸課題(国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む)と社会的事情、児童生徒の食に関する指導及び管理の現状と課題、食生活の変遷と食文化・食習慣、学校給食の歴史及び学校給食の意義と役割、学校給食における地場産の導入と「生きた教材」としての活用、学校給食の給食管理(栄養管理、衛生管理、調理指導など)、個別的な相談指導(偏食、肥満、痩身傾向、食物アレルギー)、個別的な相談指導を要する児童生徒、他の児童生徒の指導上の配慮と具体的な取組みを講義する。</p>	オムニバス方式
	教職科目	栄養に係る教育に関する科目 学校栄養教育実践論	<p>食に関する指導の具体的な指導内容について実践演習し、その手法を取得する。栄養教諭に課せられている食に関する3つの職務のうち、児童生徒への教科、特別活動等における教育指導については、指導案(年間計画、関連教科、特別活動等)を作成し(plan)、模擬授業を行い(do)、相互評価を行う(check, act)。また、連携指導(校内と家庭・地域等)についての食に関する指導のスキルを学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(1 笠原 賀子・67 市場 祥子/2回)(共同) 実践演習(模擬授業と相互評価①)、実践演習(模擬授業と相互評価②):第12回及び第13回演習</p> <p>(1 笠原 賀子/2回) オリエンテーションと楽しい授業の構想、理想の栄養教諭をめざして:第1回及び第14回講義</p> <p>(67 市場 祥子/10回) 食に関する指導に係る全体的な計画の作成と評価、給食の時間における食に関する指導(地場産物の活用他)、教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科-家庭分野)、教科における食に関する指導(体育科-保健分野、保健体育-保健領域)、道徳、特別活動の時間における食に関する指導(食生活学習教材の活用)、生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導、学校・家庭・地域が連携した食に関する指導と具体的な取組み、実践演習(食に関する指導の指導案作り)全体的な計画の作成、学校給食の教育的な活用、各教科研究授業の立案、実践演習(食に関する指導の指導案作成及び教材作り、実践演習(指導案の発表と相互評価):第2回~第8回講義、第9回~第11回演習</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	教職科目	栄養に係る教育に関する科目 学校栄養教育実習	<p>本実習では、実際の教育現場である小・中学校において、教育実習生として、各学校の教員による講話や学級担任の指導を受け、児童・生徒の観察をはじめ、授業参観や給食指導の観察・参加を行う。その内容は栄養教育実習記録に記載し、日々、児童・生徒と接することにより、その理解を深める。また、学級担任や栄養教諭の指導により、指導案の作成を行い研究授業を実施して、授業分析を行い研鑽を深める。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教職科目	栄養に係る教育に関する科目	学校栄養教育実習事前事後指導	学校栄養教育実習に臨むにあたって、必要な事前事後指導を行う。実習前には、実習の目的や意義を学び、課題を設定して、実習に臨む心構えを養う。実習後は、報告会を行い、相互の体験を共有して、成果や課題の分析を行う。これらの指導を通して、学校における食に関する指導への理解を深め、栄養教諭として必要な資質を身に付ける。	
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	教職論	本授業は主に3つの内容で構成する。第一に、日本における教職の歴史を辿りながら教職の意義・職責・専門性について考える。第二に、教師の日常の仕事を具体的に描きつつ、①子どもや保護者、あるいは他の教師との関係性、②授業・活動の企画立案・運営・評価、③授業・活動における教師の表現力、④教師集団あるいは教師文化の在りよう、について考える。そして第三に、これらのことを踏まえつつ教師養成の現状と課題、並びに今後の養成の在り方を考える。	
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	教育原論	<p>教育の営みの歴史、理念、制度、内容や方法等について、基礎的・基本的な内容を学ぶ。具体的には、①学校の成り立ち、②教育に関する思想、③基本的法律と制度、④学校教育の内容・方法（学習指導要領や教科書等）、⑤教育の今日的課題、⑥家庭や地域社会の教育機能、などについて学び、今後の教育の果たすべき、あるいは果たすことのできる役割機能について考える。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(① 木山 徹哉・② 寺川 直樹/4回) (共同) オリエンテーション、授業の概要、目標、評価を明確にし(第1回)、近代の教育理念(第2回)、現代の教育課題とそれへの対応について(第13、14回)学ぶ。</p> <p>(① 木山 徹哉/8回) 教育と学校の歴史、学校教育の意義、目的、子どもの歴史、法制度など学校教育のしくみ、諸外国の教育制度、教育課程の変遷について学ぶ。(第3回～第6回、第8回～10回、第12回)</p> <p>(② 寺川 直樹/2回) 子どもの発達論的理解(第7回)、社会の変化と学力観との関連について(第11回)学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	発達と教育の心理学	本講義では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を概説し、それに応じた学習のプロセスと学校教育及び子育て、家庭教育の基礎となる理論について学ぶ。また、障害等のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習のプロセスに言及する。それにより、個性に応じた教育の在り方を学び、教育活動における基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。	
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	教育制度論	本講義では、教育制度に関する基礎的知識を習得するとともに、現代教育制度改革の諸動向と論争点を読み解く実践的な能力を養うことを目的とする。授業では、主に教育行政制度、教育財政制度に関する主要制度に焦点を当てていくが、その他近年の制度改革の動向も視野に入れながら論点を整理していく。なお、授業のスタイルとしては「講義方式」を採用するが、グループ単位でのディスカッションなど主体的に学習できるような授業を展開する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	教育課程論	最新の教育課程政策の動向を概観した上で、国際的な視野から日本の教育課程の特色と課題を理解する。また、カリキュラムの理論研究に触れ、教育課程の編成と評価に求められる諸理論を学び、特色ある教育課程の編成について具体例を通して学ぶ。さらに、幼小連携、小中一貫、中高一貫等の接続カリキュラムに求められる社会的背景と課題等について理解し、教員養成カリキュラムについても主体的に検討し合う。この授業では協働作業や話し合いなどのグループワークを毎回取り入れ、主体的に参加する態度が要求される。	
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	道徳教育論	本講義では、以下の三点を軸に、道徳教育についての理論と指導法を習得することを目的とする。1. 現在の我が国の初等・中等教育における道徳教育の制度的位置づけ。2. 道徳教育を吟味するための理論的背景となる道徳思想ならびに教育思想。3. 今日の道徳教育のあり方について考察するうえで不可欠な、我が国における道徳教育の歴史の変遷。4. 道徳教育の実践をめぐる課題と、それへのアプローチ。以上を学生による発表やディスカッションを適宜取り入れながら講義形式で学ぶ。	
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	特別活動論	学校は、学習の場であると同時に、子どもがそこで育ち人格を形成する集団での共同生活の場である。さらに特別活動は学校内の諸活動や社会や地域と学校・子どもをつなぐ媒介・バッファの役割も担う。これは子どもたちにとって社会に開かれた実践的な教育が行われるということでもある。本講義では、「学級活動」「児童・生徒会活動」「学校行事」など、それぞれの活動の意義や目的・内容、指導法について概説した上で、「食に関する指導」に係る学級活動の指導案の作成などを通し、実践をデザインする仕方や実践的な指導法を身につけていく。	
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	教育方法論	学習指導要領の変遷を整理した後、伝統的な学習理論の特徴と歴史の変遷を学ぶことを通して、学力観や授業観等の変遷について学ぶとともに、どのように子どもたちが学ぶことが、もっとも教育効果を上げることができるかについて、すぐれた実践者の授業から教育内容と教育方法を学ぶ。また、ICTの活用を含めた模擬授業演習を通して、わかる授業の授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得する。さらに、教師の意思決定の視点から学習と評価との関係を追及し、「わかる授業」を構想する視座や基礎を習得する。	
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	生徒指導論	生徒指導の意義と役割、児童生徒の指導に資する理論、子どもが抱える可能性のある諸課題など、児童生徒の理解と指導に関する基本的な知識を習得するとともに、学校で出会う可能性のあるさまざまな事例や、先進的な実践をもとに、具体的な指導方法を学ぶ。また、児童生徒と信頼関係を構築し、学校によるチームとしての指導・支援に寄与できる力を養うために、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッションなど、他者と対話し、つながり、協働しながら児童生徒指導のあり方を考える活動を継続的に行う。	
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目	教育相談論	本講義では学校現場における児童・思春期・青年期前期の子どもたちの発達とそれに伴う心理的諸問題を取り扱う。子どもたちのアセスメント、心理的諸問題の発生機序、問題に対応するためのカウンセリングスキル、チームでの対応方法などを講義と演習を通して学習し、実例を通して対応を学んでいく。なお、小グループでのチーム会議やディスカッションも広義に取り入れ、個人だけの学習では得られない協調的問題解決スキル、コミュニケーションスキルも同時に養成する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部食健康学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教職科目	教職に関する科目 教職実践演習	本演習は、学校栄養教育実習の学びを振り返りながら、栄養教諭の職務と役割について理解を深め、教諭としての実践力を高めることを目的とする。履修カルテにより学修を振り返るとともに、課題の発見と解決のための方策をたてる。「食に関する指導」の全体計画、年間計画、指導案を新たに作成し、模擬授業を行って、効果的な教育方法について議論を深める。さらに、児童生徒や保護者、地域の関係者などとの連携を深める方法についても考察する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(健康発達学部こども学科)				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目	英語 Foundations of English I	英文法の基本的な知識を確認し、英文の構造や文と文とのつながりを正確に読み取る読解力を身に付けることによって、英語を正しく理解し、英会話や英作文においても正確に英語を運用するための基礎的な力を養成する。また、英語の基本的な音声的特徴について学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取るための基礎力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語 Basic English Communication I	Students will develop the ability to make conversation with English speakers about self, lifestyle, life journey, hometown, country, and plans. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to actively use the first 700 words of the NGSL. 英語話者に対して、英語で自分のことを語り、自分の故郷や国のことを説明し、相手についても尋ねることが出来る基礎的な英語コミュニケーション能力を養う。また、同様のことを英文で書くことによって英語表現力と語彙力を高め、平易な英語を大量に読む速読・多読を通じて英語で読むことに慣れ、英文を読む速度を高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第1段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語 Foundations of English II	英文法の理解をさらに確かなものに加えて、英語の文章における段落の展開や、筆者の主張などを正確に読み取ることの出来る確かな読解力を身に付け、英会話や英作文においても正しく英語を運用するための土台を固める。また、英語の音声的特徴についてさらに学び、英語を正確に発音し、正しく聞き取る力を身に付ける。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語 Basic English Communication II	Students will develop the ability to make conversation with English speakers about one's country and culture, and opinions. They will learn to express themselves in writing in similar situations. They will increase their reading ability and speed through reading large amounts of simpler texts. Students will also develop the ability to actively use the second 700 words of the NGSL. 英語話者に対して、英語で自国の文化を紹介したり、相手の国の文化について尋ね、自分の意見を述べる事が出来る英語コミュニケーション能力を養う。また、同様のことを英文で書くことによって英語表現力と語彙力を高め、平易な英語を大量に読む速読・多読を通じて、英語で読むことに慣れ、英文を読む速度をさらに高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第2段階の約700語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語 Comprehensive English I	時事的な英文や社会的な論説などを教材として、やや高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて自分の意見を英語で述べる訓練を行うと同時に、自分の意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎的な事項を学ぶ。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようにするための訓練を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication I	Students will learn to describe, support and exchange opinions on academic and non-academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings on current topics and academic topics. Students will also develop the ability to actively use the third 500 words of the NGSL.	
				日常的な事柄から学問的な事柄まで、英語を用いて説明をしたり、自分の意見を述べたり、相手と意見を交換したりすることが出来る会話力を養う。また、同様の事柄について自分の主張をわかりやすく英文にまとめる英作文力を養い、学問的な英文や時事的な英文を読んで、英語で要約する力も養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第3段階の約500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Comprehensive English II	時事的な英文や社会的な論説などを教材として、高度な英文の精読を行う。また、それらのリーディング課題やリスニング課題に基づいて英語でディスカッションを行うことで自分の意見を述べる力を高めるとともに、その意見を英語によるレポート・論文としてまとめることを通して、アカデミック・ライティングのための基礎力をより確かなものとする。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication II	Students will learn to describe, support and exchange opinions on current issues and academic topics. They will learn to write essays supporting their opinions. Students will read and summarize readings related to their major. Students will also develop the ability to actively use the fourth 500 words of the NGSL. 学問的な事柄から時事的な事柄まで、英語を用いて説明をしたり、自分の意見を述べたり、相手と意見を交換したりすることが出来る会話力をさらに高める。また、自分の主張を論理的な英文にまとめる英作文力を養い、所属学部の専門に関係するような英文や時事的な英文なども読み、その内容を英語で要約する力も養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第4段階の約500語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Comprehensive English III	世界のさまざまな文化や社会に関する事柄や各学部学科で学んでいる専門的な事柄を英語で読み、英語で聞くことによって、高度な英語力に加えて、グローバルな視点と分析的な思考能力を養う。また、それらのテーマについて意見を述べ、ディスカッションを行い、英文レポートを書くことで、自分の意見を論理的に発信出来るスピーキングスキルやライティングスキルを養成する。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。	
総合教育科目	外国語科目	英語	Academic English Communication III	Students will learn higher levels of expression appropriate for English discussions, presentations and debates. Students will learn to read and write about more difficult topics related to global affairs and their major. Students will also develop the ability to actively use the fifth 400 words of the NGSL. 英語によるディスカッションやプレゼンテーション、さらにはディベートなどを行い、高度な発信能力を養う。また、国際情勢のような難しい事柄や、各学部学科で学んでいる専門的な事柄についても、英語で読み、英語で自分の意見を書くことの出来る高度な英作文力を養成し、アカデミック・ライティングの力を高める。さらには、授業時間内の学習ならびに課外の自学自習を通じて、NGSL第5段階の約400語を自在に使いこなせるようになるための訓練を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目 英語	Career English for Global Mobility I	出題傾向に即した問題演習を行うことにより、TOEICなどの英語検定試験において高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC500点台から600点台のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、ビジネス英語の語彙や表現、学科の専門分野の語彙や表現を身に付け、英文による履歴書や手紙の書き方についても学ぶ。さらには、英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力の基礎を固める。	
総合教育科目	外国語科目 英語	Career English for Global Mobility II	出題傾向に即した問題演習をさらに行うことによって、TOEICなどの英語検定試験においてより高いスコアを取ることが出来る英語力を養成する。具体的には、TOEIC600点台から700点台以上のスコアを取ることが出来ることを目標とする。また、英文ビジネス・レターの書き方や英語による面接についての練習も行うほか、国際的な話題に関する英文を読み、ディスカッションやレポート作成を行うなど、これまでに学んだ英語の4技能を総合的に復習し、自立した英語使用者としてグローバルに活躍するための英語力を完成させる。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	フランス語 I	フランス語の基礎を学ぶ。聞くことと話すことにより、フランス語に親しみ、簡単な自己紹介と基礎的なやりとりができるようになることを目的とする。まず発音記号、綴りと発音を学び、フランス語特有の母音や綴りに慣れる。次に日常的な会話表現を学んでゆく。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で名詞・形容詞・所有形容詞・冠詞およびその性数、規則動詞と代表的な不規則動詞の変化を学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	フランス語 II	フランス語 I で得た基礎力をさらに発展させ、フランス語圏を旅行することができる程度の理解力、表現力を身につける。具体的には、時間、曜日、予定、謝る、場所、趣味・余暇、頻度、習慣、家族、過去の出来事、どこに行ったのか、だれかを誘う、断る、交通手段を尋ねるなどの表現を学ぶ。実際に使われる表現を学びながら、理解に必要な範囲で、疑問詞、前置詞、複合過去、複合過去における性数一致について学ぶ。授業中に適宜フランスの文化や習慣について解説する。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	ドイツ語 I	本授業の達成目標は、自己紹介、大学や家での生活など、自分の身の回りのことがらを、正しいドイツ語を使って、口頭でも筆記でも表現できるようになることである。ドイツ語圏文化理解の出発点であるドイツ語運用の基礎力を身につけることをねらいとし、「ドイツ語 II」との連続受講で、ドイツ語技能検定試験4級あるいは3級合格程度の力を身につけてもらう。語彙力の強化と発信型の学習を特に重視する。発信型の学習の例として、授業では受講生によるDialog作りおよびその発表を行う。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	ドイツ語 II	本授業の達成目標は「ドイツ語 I」と同様、自分の身の回りのことがらを、正しいドイツ語を使って、口頭でも筆記でも表現できるようになることである。「ドイツ語 II」ではさらに、身近な話題について書かれたドイツ語の文章を読んで理解することも目標とする。ドイツ語運用の基礎力を身につけることをねらいとし、教科書をベースに自分で表現できることの幅を広げていく。語彙力の強化と発信型の学習を特に重視し、授業でのDialog作成・発表に加え、クラス内でのインタビューや作文など、表現の機会を多く設ける。	
総合教育科目	外国語科目 諸外国語	中国語 I	初めて中国語を学ぶ学生を対象に初級段階で必要な発音と基本文法事項・語彙を学習する。拼音字母の発音、声調、音節の発音に習熟することをはじめとして、聞く・話す・読む・書くの4つの能力にわたる中国語の基礎学力を身につける。基礎文法については、豊富な例文を取り上げ、繰り返し練習問題に取り組むことで要点の理解を進める。また、例文については音読し、暗唱できるようにする。最後には学習した文型を使いながら、自分自身について語る力を身につけ、自己紹介ができるようにする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	中国語Ⅱ	この授業では、「中国語Ⅰ」で学んだ初級段階の発音と基本文法事項・語彙についての復習を交えつつ、一段階進んださらに多くの語彙や呼応関係、文法事項を学ぶ。特に日常生活や中国旅行など、実際の場面で役立つ例文を豊富に学習し、繰り返し練習問題に取り組むことで理解を進める。音読練習、暗唱を盛り込み、頭で理解するだけでなく中国語の音を体で感じながら、発音と構文を一体として習得する。また2人組みでの会話の発表などを通じて実践的な中国語によるコミュニケーション能力を身につける。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	スペイン語Ⅰ	スペイン語の入門・初級クラス。前半はスペイン語理解の基礎として、アルファベット、名詞の性・数、冠詞、形容詞、ser動詞、estar動詞、規則動詞、不規則動詞の現在形を講義する。講義した文法事項を踏まえて「聴く」「話す」訓練を実施する。後半はより複雑な表現や点過去形、線過去形、未来形、現在完了形などの時制、接続法の初歩について講義し、「読む」「書く」訓練を重視する。スペイン語話者との間で簡単なコミュニケーションができる(ヨーロッパ言語共通参照枠A2)程度の語学力を習得することを目標とする。	
総合教育科目	外国語科目	諸外国語	スペイン語Ⅱ	スペイン語の初級・中級クラス。複雑な文を理解するために、直説法の時制、人称代名詞の目的語の用法、再帰動詞、受動文、知覚文、無生物主語文などについて講義する。構文を理解することで、会話での「聴く」「話す」能力ばかりでなく、メールや雑誌などを「読む」「書く」能力を高める。スペイン語話者との間で率先してコミュニケーションができる(ヨーロッパ言語共通参照枠B1)程度の文法事項と語彙を習得することを目標とする。	
総合教育科目	外国語科目	日本語	日本語Ⅰ	外国人留学生在が日本語で口頭発表したり2,000字程度のレポートを書いたりするために必要な知識として、日本語の文法および語彙の基本的な学習を行う。文法については、品詞の知識と文章上での単語の使い方を中心に学習を進め、正しい日本語の組み立て方を理解する。語彙については、普遍性の高い言葉を学ぶために新聞記事や小説などを取り上げ、その読解および要約を通して知識を習得する。担当者による講義以外に、受講生に適宜プレゼンテーションや課題作文を実施することによって、より実践的な日本語運用能力を身に付けることを目指す。	
総合教育科目	外国語科目	日本語	日本語Ⅱ	「日本語Ⅰ」をすでに履修した外国人留学生を対象とした授業とする。日本語の語彙・文法についての基礎知識を確認しながら、幅広いテーマについて書かれた本文を読んで内容を把握しディスカッションを行って理解を深める。次に本文について要旨や感想、意見を短文にまとめ、学生同士互いに批評しあってさらに手直しし提出する。これらの過程を通して「聞く・話す・読む・書く」の4つの能力にわたって総合的な力を身につける。最後に、本文のテーマに沿ったレポートを書き、明解な文章を構成する力を養う。	共同
総合教育科目	人文系科目		心理学	心理学に対して興味や関心をもつ人は多いが、心理学という学問がどういった学問で、どのようなことを研究しているのか理解している人は少ない。心理学の対象・目的・仕事を明確にし、心理学の代表的な研究法を学ぶことで、心理学とはどのような学問であるのかを理解する。さらに、心理学の様々な分野(知覚心理学、性格心理学、思考心理学、臨床心理学、社会心理学、動物心理学、教育心理学、発達心理学、生理心理学等)における研究成果を知ることにより、その有用性を確認する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	人文系科目	哲学	ギリシアに始まる哲学の営みを代表的な学説を紹介しながら、主に時系列に学んでゆく。古代は自然哲学と人間・社会の哲学の関連を、古代末期と中世は、「神」と人間を哲学がどのように考えたのかをみてゆく。近世・近代は、懐疑と科学的精神に基づいた新たな哲学および、その揺り戻しとしての思弁的哲学の展開を追う。「神」なき時代を共通の前提とする現代において、ヨーロッパの哲学がいかに人間のあり方を実存として考え直したのか、日本近代哲学がいかに東洋思想の伝統に西洋哲学を受容したのかを紹介する。最後に倫理学、法哲学、政治哲学など、隣接分野との関連を論ずる。	
総合教育科目	人文系科目	倫理学	規範倫理学、非規範的な倫理学、応用倫理学について主要な学説を学んでゆく。規範倫理学については、功利主義、義務論、徳倫理学、討議倫理学の基本的な学説を解説する。非規範的な倫理学は、メタ倫理学と現象学的倫理学を中心に倫理を規範とは別の観点から考察する方法を学ぶ。これらの理論を踏まえた上で、生命倫理、環境倫理、正義論、グローバルジャスティスといった応用倫理学の主要な議論を紹介し、現代が直面する問題の倫理的なアプローチを学ぶ。	
総合教育科目	人文系科目	教育学	子どもと教育に関する心理学的、社会学的、哲学的、教育学的な理論を学び、学際的視点から現代社会における教育の課題を検討する。特に1980年代以降の子ども論の理論動向を軸に、高度情報化社会の中の子どもの生活世界の変容や、近代学校制度から始まる学校中心主義の教育言説の構造的問題点についても触れながら、子ども・若者の教育の現代的課題を浮き彫りにし、人間にとっての教育の意味、社会における教育の意味を検討していく。	
総合教育科目	人文系科目	言語学Ⅰ	言葉とは何かという素朴な疑問から入り、身のまわりの言葉の不思議な魅力に迫る。言葉について人はどのように考え、どのようにアプローチしてきたのか。言葉に対する人間の飽くなき好奇心の歴史をたどる。人間の認知や心理など、20世紀中葉までの言語学で敬遠されてきた側面に焦点を当て、人間にとって不可欠な存在となった言葉の仕組みの一端を明らかにする。ときに、生物学、脳科学、心理学、哲学、コンピュータ科学、社会科学などの領域についても言及し、関連する日本語の表現や文法現象についても広く見ていく。	
総合教育科目	人文系科目	言語学Ⅱ	前半の授業では主に日本語と英語の文法を比較し、その共通点と相違点を整理することを通して、人間言語の普遍性と多様性について考える。後半の授業では、母語話者と第二言語(外国語)学習者の文法知識の習得過程に関する主要な先行研究を概観し、その共通点と相違点および第二言語習得の成否を左右する要因について検討する。最後に、言語の特性や言語習得過程に関する正しい理解をふまえ、効果的な外国語学習法や外国語教育のあり方について議論する。	
総合教育科目	人文系科目	文学Ⅰ(日本文学)	日本文学を学ぶということは、言語表現を伴う日本文化のさまざまな事象を理解することにつながる。中でも古典文学は、わが国の伝統的な精神文化を言語表現の分野から形づくった媒体で、日本文化の基盤をなすものである。本授業では、このような日本文化の諸事象に影響を与えたとおぼしき日本古典文学作品の読解を進め、日本文学の源流を学びながら、その本質を理解することを目指す。最終的な到達点としては、日本文化の基幹としての日本文学全体をカバーする幅広い知見を身に付けることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	人文系科目	文学Ⅱ (中国文学)	中国文学は三千年近い歴史を有し、日本文学や日本文化への影響も計り知れない。本授業は、中国文学を世界文学の一つである点と日本文学との深い関わりとの両方を軸として捉え直す。中国古典文学の多様なジャンルの作品を取り上げ、味わうと共にその特徴を考察する。また、作者の生涯や作品が誕生した社会的あるいは文学史的背景に着目し、文学に表された人間観、世界観について考える補助線とする。古典文学が人間存在の奥深さや世界観の多様さへと我々をいざない、現代の個人や社会の諸問題のありかを照らす灯となることを理解する。	
総合教育科目	人文系科目	文学Ⅲ (イギリス文学)	イギリス文学は、幅広いジャンルと長い伝統を持ち、欧米文学への入り口として好適である。この講座では、イギリス文学史の区分に従って講義と作品鑑賞を行い、イギリス文学の魅力を探ってゆく。詩と小説の鑑賞を交互に行いながらイギリス文学の歴史と魅力について学び、時代背景や文化・思想・宗教などについても学ぶ。英詩の鑑賞には英日対訳教材を用い、小説の鑑賞には映画と翻訳を活用するが、時には原書も参照する。鑑賞した作品については授業内でディスカッションを行い、相互に理解を深める。また、作品分析のレポートを書き、文化研究の方法を学ぶ。	
総合教育科目	人文系科目	歴史 (近現代)	主として19～20世紀の日本社会を対象にして、日本史学の現状と課題を講義する。長野県地域史の成果や沖縄・北海道・在日朝鮮人など「日本史」をなるべく多様な問題群に開いていくよう意識したい。なお、単なる「概説」ではなく、講義名の内実をも意識して史学方法論もあわせて講義し、近現代世界史のなかで「日本」・長野県を考えて行くこととする。	
総合教育科目	人文系科目	民俗文化論	民俗文化 (Folk Culture) とは都市文化 (Urban Culture) との対比で語られてきた文化現象である。民俗学という分野を中心に研究が行われてきたが、文化人類学、社会学、歴史学、文学との関連も深い。参拝、祭り、民間伝承、民俗芸能などの事例から民俗文化に親しみ、現代の観光やデジタルコンテンツとの融合状況を学んで、民俗文化の変容について考える。先駆者の仕事から民俗文化への接近方法を習得し、まれびと、トリックスター、フォークロリズムなど、民俗文化を理解するための専門的な切り口について理解を深める。	
総合教育科目	人文系科目	文化人類学	文化人類学とは、文化を通して人間集団について理解する学問分野である。文化とは集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受け、常に変化する。他者とは何かを考えながら、人間が創り出す世界観についてのイメージを持ち、各地の様々な文化現象について、共感できなくても理解する力を習得する。構造主義、文化相対主義、創られた伝統、トリックスター、ポトラッチ、シャーマニズムなどの文化人類学の思考方法や概念を通して世界を見つめた後に、自分とは何か、人間とは何かといった普遍的な問いに立ち返る。	
総合教育科目	人文系科目	音楽	第2回～第8回は、エリック・サティの家具の音楽、ジョン・ケージの「4分33秒」、ブライアン・イーノの環境音楽、ノイズミュージックなどの音楽作品や障がい児を対象とした音楽療法の紹介、さらに受講生全員によるワークショップを通して聴くことの意味を考察する。第9回目から第13回は子どもの音楽表現、あるいは障がい者の音楽表現、即興演奏、様々な表現とのコラボレーションを紹介しながら、音楽が生み出されるプロセスについて検証する。なお、第2回、第3回、第7回、第11回、第13回は担当教員によるピアノ演奏や必要に応じてゲストとのコラボレーションを実演する。第14回目は本講義の教育目標でもある「音楽の多様性について」グループごとディスカッションしたのちに、全体でプレゼンテーションを行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	社会系科目	国際関係論	現代の国際社会が直面するグローバルな諸問題（変容する国民国家の役割・機能、多発化する国際的紛争、グローバル化する格差・貧困、悪化する地球環境、国際移動する移民・難民など）を受講生自ら解決する手がかりを見つけ出せるよう、国際関係論の歴史と理論について講義を行う。また、現代の国際関係に関連するビデオ（第1次世界大戦、第2次世界大、冷戦）を用いる。	
総合教育科目	社会系科目	社会学	基本的に講義形式で行い、学生による能動的学修も組み込む。社会学の立場から、現代社会の構造と特徴について講義する。現代社会を、社会学的パースペクティブを用いて分析し、考察できるようになることを目標とする。まず、社会学の方法と視点、社会学が誕生した歴史的背景について解説する。次に、近代社会、リスク社会の特質について、解説する。そして、社会的に重要視され、受講生が関心を持つ問題を取り上げて、そのメカニズムや構造的背景について考察する。特に、身近な分野としての家族、地域社会、男女共同参画社会、NPOや市民の活動などについて社会学的に接近し、履修者間の議論を通じて理解を深める。	
総合教育科目	社会系科目	憲法	この授業では、前半で国民主権や平和主義などの日本国憲法の基本原理や、自由権、参政権、社会権、法の下での平等などの様々な基本的人権について概説する。加えて、判例や事例等を通じて、それらの人権規定が実際に適用される状況や適用の限界等に関わる問題点についての検討も行う。後半では、人権保障のために設けられている立法、行政、司法、地方自治等の統治機構の各機能について概説する。また、改憲手続や近年の改憲論争についても解説を行う。	
総合教育科目	社会系科目	経済学入門Ⅰ	社会を理解するには、消費者や生産者といった個々の経済主体がどのような意思決定に基づいて行動するのかを知る必要がある。また、経済学では、「社会全体にとっての幸せの大きさ」から「その幸せの実現のために必要とされる費用」をひいた、ネットの幸せの部分を最大化することが目的とされる。これらの点を理解するためには専門科目としての「マイクロ経済学」で体系的にマイクロ経済学を学ぶ必要があるが、その準備となるよう、この入門講座では、経済学の役割、市場の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性を、現在の経済事情をひもときながら、主としてマイクロ経済学の視点でわかりやすく説明する。	
総合教育科目	社会系科目	経済学入門Ⅱ	グローバル化の進む社会と経済を理解するには、家計、企業、国家の役割を統合した大きな視点から理解する必要がある。このためには、専門科目としての「マクロ経済学」で体系的にマクロ経済学を学ぶ必要があるが、その準備となるよう、この入門講座では、企業の役割、国家の役割、家計の役割を、現在の経済事情をひもときながら、主としてマクロ経済学の視点でわかりやすく説明する。	
総合教育科目	社会系科目	社会保障入門	現在の社会保障制度は、グローバル化、少子高齢化、就業構造や地域構造の変容など社会的経済的变化の下でさまざまな課題に直面している。社会保障の持続可能性を巡っては、負担と給付のバランスや世代間格差など社会を分断しかねない議論も展開されている。そこで、入門編である本講義においては、日本や諸外国の制度を概観・比較したり、また、貧困や格差といった個別テーマに関連づけたりしながら、社会保障の理念や内容に関する最低限の知識を修得する。	
総合教育科目	自然・情報系科目	数学的発想	この授業では、数Ⅰ・A程度の知識を前提として、グラフ理論、確率・統計、整数の性質などについての初歩的な講義を行う。これらの数学の身近な応用として、たとえば、グラフ理論ではカーナビの経路探索、確率・統計では宝くじや保険、整数の性質では公開鍵暗号方式などのしくみを理解する。それぞれのテーマごとの講義の後に、応用例に関するグループワークなどを通して体験的活動を行って、数学的な発想を経験的に学んでいく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	自然・情報系科目	生命科学	変化が激しくストレスに晒されやすい現代にあって、私たちを取り巻く自然への深い関心と理解を培い、生涯に亘って精神と身体を健康に維持できるように、生物の生命現象を分子の動きを追いながら学び、疾患や失調という形で表出されてくる個体や集団レベルでの課題を理解できるようにする。具体的には、生体構成物質の構造や性質ならびに細胞や器官の働きを理解し、ヒトの健康と密接に関わる栄養、ホメオスタシス、生殖、発生等における基本的な物質の流れを理解する。さらに、生命操作技術の発展が人間社会に及ぼす影響などを理解する。	
総合教育科目	自然・情報系科目	プログラミング基礎	情報と情報技術を問題発見の解決に活用するためのより発展的な内容を学習する。まず、WWWの仕組みを理解し、HTMLを使った演習、ホームページビルダーを利用したWebサイトの作成を通して情報発信力、情報表現力を身につける。次に、アルゴリズムの記述、変数や制御構造、プログラミングの基礎を学ぶことにより、コンピュータの原理理解を深めるとともに、論理的な思考、問題解決能力を養う。最後にExcelプログラミングでは、より実務的な機能を習得することを目的に、これまで学んだExcel関数をベースに複合関数の使い方やマクロの使い方、VBAの基本について学ぶ。	
総合教育科目	自然・情報系科目	IT活用論	はじめにインターネットサービスとはどんなものなのかを中心に学習する。次にマーケティングに活用するビッグデータの重要性を実践的に体験・習熟する。さらにEC、会員サービスとポイント、インターネット広告、検索などのインターネットサービスの基本サービスの学習と事例紹介、決済FinTech、シェアリングエコノミー、IoTの仕組みと事例を学ぶ。すべての講義において、学生とインタラクティブに対象のサービスを実際に使いながら進め、試しに作ってみるなど、実践的な講義を目指す。いくつかの講義では、その領域の専門家をゲスト講師として招いて話をしてもらう。ワークショップ、グループディスカッションなどを織り交ぜながら、常に動きのある講義にする。	
総合教育科目	基盤科目	発信力ゼミ	この科目は、専門ゼミの導入科目としての役割を果たすもので、大学で必要とされる基礎能力：思考・判断力、表現力、アカデミックスキルズなどを学ぶ。各ゼミでは、担当教員の指導のもと、あらかじめ設定したテーマに沿って、各自が独自に調べ、まとめたものを発表し、皆で評価し合う。この機会を通して、読み書き話すとといった日本語能力を徹底的にブラッシュアップする。最終学期に、ゼミごとに異なるテーマについて調べた内容を成果としてまとめ、全ゼミ合同の報告会で発表し、論集などの成果物にして残す。	
総合教育科目	基盤科目	デザイン思考	世の中の様々なデザインの系譜や事例を整理し、デザインが所謂デザイナーの活動だけではなく、様々な分野や職種で応用・実践できる方法論であることを理解する。今の姿を探る、課題を見つける、アイデアを発案する、試して磨き上げるというプロセスの中で、発散と収束を繰り返して課題を発見し解決するための、様々なツールを実際に体験する。また、関連したノウハウなども学習し、総合演習では、グループで設定したテーマで、これまで学習したプロセスを通して実施することで、デザイン思考による課題の発見と解決を実践する。	
総合教育科目	基盤科目	世界の文化と社会 I	日本と密接な関係を持っている多文化・多人種社会アメリカ合衆国について、特に地域・人種・日米関係等の視点から、基本的に理解するための講義を進めてゆく。またアメリカ文化が幕末・明治時代以降現在に至るまで日本においていかに受容されてきたのかを概観し、さらにグローバルな視点からアメリカ文化と日本及び東洋の文化との間の比較的考察を試みる。質疑応答・議論などの機会も設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	基盤科目	世界の文化と社会Ⅱ	日本と歴史的に密接な関係を持つ、中華人民共和国および台湾・シンガポールなど漢語通用地域の社会、政治、文化、民族問題などについて、基礎的な情報を理解することを目的として講義を進める。グローバルな視点から日本・中国など東アジアの現在までの歴史的展開について概観しながら、現在の東アジア情勢の原点について考える。また日本の文化と中国の文化の相違についても考察する。質疑応答・議論などの機会も設けることにより、双方向的な授業内容にしたい。	
総合教育科目	基盤科目	象山学	イノベーターを学外から招き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう講義である。イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、講師をファシリテーターとし、学生自らが自分の問題として考えていく。これまで、整理された知識を受動的に身につける機会が多かった学生に対し、複雑な現実と格闘する先達の姿を見せ、能動的に現実を向き合っていくきっかけを与え、現実と向き合って社会に貢献していく方法を身につけてもらう。 (オムニバス方式/全14回) (23 真野 毅・51 首藤 聡一郎/2回) (共同) ガイダンス、ディスカッション(自分が考える経営のイメージとポイント)：第1回及び第14回講義 (23 真野 毅/6回) 起業の難しさと面白さ、ソーシャルビジネス、行政におけるイノベーション、ディスカッション(イノベーターになるには?)、サービス産業におけるイノベーション、ベンチャーキャピタル：第2回～第7回講義 (51 首藤 聡一郎/6回) 農業におけるイノベーション、ものづくりにおけるイノベーション、ディスカッション(イノベーションを起こすためには?)、経営者の責任と面白さ、経営戦略の重要性、組織マネジメントの難しさ：第8回～第13回講義	オムニバス方式・共同(一部)
総合教育科目	基盤科目	信州学	大学で身につけるべき教養とは、精神的に豊かに生きるための知識である。そのためには、自分で問題を見つけ出し、解決する能力を身につける必要がある。君たちは何故ここにいる、これからどのように生き、未来を創っていくべきか。この大きな課題に迫るためには、最も身近な足下から見直していかねばならない。この授業では、長野県立大学なのにどうして、旧国名を冠した信州学なのか、善光寺はあの場所でなければいけないのかなど、信州の歴史や民俗に基軸を置きながら、君たちが学ぶ長野県を多面的に理解できるようにする。	
総合教育科目	基盤科目	情報リテラシー	コンピュータやネットワークを知的情報ツールとして使いこなすための基礎知識や情報化社会の危険性を講義するとともに、情報モラルの必要性や情報に対する責任、情報社会に参画する態度等について考えてもらう。そして、大学での生活、学習、研究に必要なICTの利活用スキルを演習によって学ぶ。具体的には、情報検索の方法をはじめ、レポートを書くための文書作成ソフト、情報を整理・分析するための表計算ソフト、そして、それらの文書を基にして情報発信するためのプレゼンテーションソフトの効果的な利用方法を教授する。	
総合教育科目	基盤科目	健康と運動科学Ⅰ	本講義では講義・実習・実技の統合型の方法で健康に関連する文化的側面を様々な角度から取り上げ、身体観、健康観の基礎を築き、身体、健康、スポーツへの理解を高め、健康に対する見方、考え方を広げ、アクセスの方法を学ぶ。授業では、様々な身体技法、健康法、スポーツ種目を教材として取り上げる。そうした教材を通して、身体づくり、積極的健康づくりの理論を学び、仲間とのコミュニケーションを深め、スポーツに親しみ、生涯にわたり健康やスポーツへの関心を持ち続けてもらえるよう授業を展開する。	講義7回 実技7回

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	基盤科目	健康と運動科学Ⅱ	学生自身のからだところへの理解は、知識だけではなく「からだを動かす」ということを通しても広がり、深まってゆく。そのため、できるだけ幅広い分野の教材を取り上げたい。健康・運動・スポーツは、分かる・理解するなどの「知識」を身につけるだけでは不十分で、「実践」につながってこそ始めて完結する。ここに健康と運動科学授業の意味と重要さがある。自分自身でやってみることで、自分自身のからだを実感し、その中の客観的・科学的理論を抽出し、これを再意識して「からだ」についての知識とからだそのものを結び付ける授業としたい。	講義7回 実技7回
総合教育科目	基盤科目	シーズンスポーツ	長期休暇を利用して合宿形式で新しい仲間を作り、自然体験を通して他者との交流を持ちながら、心身ともに充実した大学生活を送り、生涯にわたって自己の健康を守り、創っていくための様々な方法や技能を学ぶ。自然の中での活動を通して自然環境の理解を図る。授業は長野県内の豊かな自然環境を利用したプログラムを行う。シーズンスポーツを通して、自然、ひと、自分とうまく付き合っていく方法を学んでいく。	
総合教育科目	基盤科目	グローバル教養ゼミ	専攻とは別の学問分野を副専攻に近いものとして深く学び、グローバル化した現代世界を複眼的に捉えるための教養を形成する。広く日本や世界の文化を理解するために、初級以降の語学、1次文献や2次文献の講読演習、フィールドワーク、自ら深めたいテーマの調査、研究発表、ディスカッションなど、様々なディシプリンに応じて研究を行う。 (22 張 勇/異文化圏に暮らす人々の体格・体力・生活習慣について考える (26 谷口 眞由実/中国語及び中国文学(特に古典)・中国文化について考える (33 坂 淳一/英米の文学及びその背景となる文化・歴史について考える (45 二本松 泰子/日本語及び日本文学(特に古典)・日本文化について考える (46 萱津 理佳/情報通信技術 (ICT) の利活用・情報教育について考える (50 織田 竜也/文化人類学の諸概念について考える (53 中島 基樹/言語の文法とその習得過程について考える (54 馬場 智一/フランス語・ドイツ語及び哲学・倫理学の諸問題について考える	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目	学部共通基礎科目 健康発達概論	<p>本講義では、人間の発達について社会・文化的な文脈の中で身体的、精神的な健康を基盤として生涯にわたって発達するという観点から学ぶ。特に、各ライフステージを充実して生きるための環境とその支援、健康の基盤となる食、社会のあり方についての基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、社会文化的アプローチから各発達段階における発達の主導的活動、人間関係を中心とする社会的環境の機能と役割について学ぶとともに、発達の基礎をつくる幼児期の教育と環境のあり方、健康発達の基盤となる食と栄養、健康を増進する支援、メンタルヘルスのあり方についてディベートを通じて自身の経験を振り返りながら学びを深める。また、健康で豊かな発達を保証する地域コミュニティのあり方について考える。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)                      (1 太田 光洋/2回)                      健康発達とは何か、発達と環境：第1回及び第2回講義                      (39 中澤 弥子/1回)                      長野県の食と健康：第3回講義                      (7 中山 智哉/2回)                      妊娠授乳期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス、学童期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス：第4回及び第7回講義                      (60 加藤 孝士/4回)                      乳幼児期の発達、環境と保育、支援のあり方、メンタルヘルス、思春期・青年期の発達、環境と教育、支援のあり方、メンタルヘルス、成人期・高齢期の発達、環境と支援のあり方、メンタルヘルス、特別な支援を必要とする人の環境と支援：第5回、第8回、第10回及び第13回講義                      (28 稲山 貴代/5回)                      妊娠授乳期・乳幼児期における食と健康、学童期・思春期・青年期における食と健康、成人期における食と健康、高齢期における食と健康、特別な支援を必要とする人・家族の食と健康、まとめ：第6回、第9回、第11回、第12回及び第14回講義</p>	オムニバス方式
専門教育科目	基礎科目	学部共通基礎科目 健康発達実習	<p>本実習では、健康発達概論の学修内容をふまえ、本学の存置する長野県における健康発達の状況と特色について、フィールドワーク及び調査を通して学ぶ。フィールドワークでは、地域に出て長野県の食文化を切り口に自然環境とそこで築かれてきた生活様式や文化について、主として農業・調理体験を通して学ぶ。また、フィールド調査を通して近年の乳幼児及びその親、高齢者の生活や発達の状況の特色について調べ、フィールドワークで明らかになった地域における健康発達の状況や特色との相違を明らかにして、健康発達増進の課題について考える。</p>	共同
専門教育科目	基礎科目	学部共通基礎科目 長野県健康社会史	<p>日本の公衆衛生の歴史や健康の考え方の変遷等を基盤として、長野県で展開されてきた健康長寿に向けた活動を学ぶ。健康の定義、公衆衛生の概念、保健医療福祉や組織活動の変遷と、その健康生活を支援する様々な職種の役割を、先人の活躍と共に理解する。授業を通し、長寿県とされる長野県の強み、弱み、これからの課題を知り、自らの専門性と結びつけ発展へつなげる礎を築く。</p>	
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目 保育原理	<p>現代の保育実践がどのような子ども観や発達観、保育観を基礎として構築されているかについて、保育の歴史、先人の教育思想から学ぶ。また、学んだことをもとに現代の子どもや家族、保育を取り巻く状況や保育制度を捉え、今後の保育のあり方について考える。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	こどもの文化	子どもたちの生活と遊びについての考えを深めるために、子どもの発達を促し、生きる喜びを育むものとしての「子どもの文化」と「子どものための文化」の果たす役割を理解する。また、保育内容としてのコマやカルタ等の伝承遊びや児童文化財の種類とその活用についてを概観し、それらに関する各自の体験を掘り起して、実際に活用しながらその楽しさと遊びとしての機能を考え、それらを通して子どもの話す力、聞く力、表現する力がどう育つかを実践的に学んでいく。	
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	教育原理	<p>保育・教育の営みの歴史、理念、制度、内容や方法等について、基礎的・基本的な内容を学ぶ。具体的には、①保育機関及び学校の成り立ち、②保育・教育に関する思想、③基本的法律と制度、④保育及び学校教育の内容・方法、⑤教育の今日的課題、などについて学び、今後の保育・教育の果たすべき、あるいは果たすことのできる役割機能について考え、保育者・教育者となる私たちが修得すべき知識や技能について一定の提案をする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)                      (⑫ 木山徹哉、⑪ 寺川直樹/4回) (共同)                      授業の概要、目標、評価を明確にし(第1回)、保育・教育の対象である子どもへの視座について(第8回)、また現代の保育・教育課題と対応について(第13、14回)学ぶ。</p> <p>(⑫ 木山徹哉/8回)                      近代以降の教育及び学校の歴史、保育や学校教育の理念、意義、目的、法制度などのしくみ、保育・教育内容について学ぶ。(第3回～第7回、第9回～第11回)</p> <p>(⑪ 寺川直樹/2回)                      近代以前の教育思想について(第2回)、また生涯学習の観点からの学力保障について(第12回)学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	発達心理学	ヒトの発達段階(胎生期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期)を知り、各発達段階における発達・成熟過程やそれぞれの段階でみられる特徴的な行動や学習、心理的な問題を学ぶ。特に、保育を実践する上で必要な乳幼児期の発達に関する知識を習得し、子どもへの理解を深めるとともに、子どもが他者との相互的にかかわりを通して発達していくことや初期経験の重要性について保育との関連でとらえる。	
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	こどもと音楽	ポディパーカッションの演奏、動きのアレンジ(既成曲)、オリジナル曲の制作、ボイスアンサンブルの演奏(既成曲)とオリジナル曲の制作をグループで行う。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「表現」のねらい、内容の概説、およびカール・オルフ、ダルクローズ、ジョン・ペイター、ピーター・アストンによる音楽教育の理論を取り上げ、音楽および音楽活動の多様性について理解を深める。	
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	こどもと自然	こどもは自らを取り巻く環境とのかかわりの中から、さまざまなことを学んでいく。特に、自然とのかかわりはそれがもつ可塑性の高さから情操や思考を育む上で優れた教材である。本講では、保育者自身が自然を感じる力を養うとともに、こどもが自然とのかかわることによる発達への効果について考えていく。また、こどもが主体的な遊びの中で見せる環境とのかかわり方やとらえ方、またそれらを促す保育者の配慮や役割について、自然を中心とした受講生自身の直接体験と、その結果のグループ討議を基に考えていく。さらに、国内外で行われる自然を通じた保育・教育の実際や、小学校教科科目である生活科を理解することにより、それへの滑らかな連携としての就学前における自然の教育的取り扱いについて理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	児童家庭福祉	わが国の児童福祉は、すべての子どもがよりよく生きられ、自己実現が保証されることを目指し、その時代に応じた法制度や実践の展開がなされている。しかし一方で、子ども家庭をめぐる諸問題は依然として生じており、児童福祉の一翼である保育現場が担う役割も大きい。本講義では、児童福祉の理念と意義、子ども家庭の現状、児童福祉各分野の課題把握を基礎とし、現代社会における子ども家庭を支援するための保育者として必要な児童福祉に関する知識を体系的・構造的に理解することを目的とする。	
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	こどもと運動	乳幼児期における運動機能の発達と習熟過程について理解するとともに、子どもたちが心と身体を積極的に動かして生活したり遊んだりすることを支える保育者の役割と指導方法を学ぶ。そのために、自らの身体を使ってさまざまな環境下での多様な活動を体験し、身体を動かすことの意味を理解する。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいかについて具体的な実践の方法を学ぶ。	
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	保育者論	<p>教職（保育者）の意義、保育者養成制度の概略、保育者の役割と倫理、専門性と職務内容、保育者の研修・専門性向上、地域との連携の重要性と必要性等、保育者としてのあり方について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)                      (② 荒井聡史/7回)</p> <p>講義概要の説明とオリエンテーションを行い、教職、保育職の意義と重要性、現代の保育制度と保育職、保育者養成制度、保育者の仕事について学ぶ。</p> <p>(1 太田光洋/7回)</p> <p>保育者の専門性、保育者観と理想の保育者像、保育者の成長とキャリア形成について学び、保育職への期待と課題についてグループディスカッションとまとめを行う。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科目	社会福祉概論	<p>広い範囲に渡る社会福祉の各分野の現状と制度の概要を学ぶ。社会保障制度の中で、医療保障、所得保障、公衆衛生と並んで社会福祉を位置づける。そして社会福祉の戦後の流れを押さえた上で、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉の流れを整理する。制度としての社会福祉の意義を理解し、またそれを支える社会福祉の専門職のあり方を学び、同時に利用者の保護に関わる制度(情報提供、第三者評価、権利擁護、苦情解決)を学ぶ。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目 こども学科基礎科目	こども学	<p>多様な視点から子どもという存在を捉え直し、従来の子どもをめぐる言説の批判的再検討を行う中で、保育実践の基礎となる子ども観を深めていく。セッション1では心性史と呼ばれる歴史学の視点にもとづき、絵画や映画などの多種多様な資料を通して、人々の日常生活の中に潜在している子どもという存在についての意識を描き出す。セッション2では日本における子ども論の展開および、教育思想の潮流を紹介し、子どもの生活世界から子どもという存在を捉え直す。セッション3では子どもの表現活動に着目し、個々の子どもたちの表現が織り成す文化のなかで自己形成する子どもの姿を描き出す。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)                      (② 荒井聡史、⑩ 木山徹哉、9 山本直樹/2回) (共同)                      授業のガイダンス、まとめと確認を行う。</p> <p>(⑩ 木山徹哉/4回)                      歴史の中の子どもについて、絵画や映画に描かれる子どもを通じてみる方法、および日本の子どもの歴史について学ぶ。</p> <p>(② 荒井聡史/4回)                      子ども学の理論的枠組みについて、子ども論の誕生と展開、子ども学の人間学と臨床教育学、子どもの生活世界という視点、現代社会における子どもの生活世界の課題という視点から学ぶ。</p> <p>(9 山本直樹/4回)                      子どもの文化から見た子どもについて、表現の発達、ごっこの世界、劇的本能、遊びとコミュニケーションという視点から学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	基礎科目 こども学科基礎科目	こどもと造形	<p>本授業では、こどもの造形活動の発達や展開、また、保育者としての支援のあり方について学ぶ。特に、幼児造形活動を支援するという観点から「色彩・形態・材質」、「材料・用具」、「安全・衛生面」、「言葉掛け」などについて理解を深めていく。また、講義による知識の獲得を最終目標とするのではなく、学んだ知識を実制作を通して活用することで、受講者が知識を技能として深化・定着できるように授業を進行する。加えて、実制作から知識を引き出すような展開も重視する。</p>	
専門教育科目	基礎科目 こども学科基礎科目	小児保健Ⅰ	<p>こどもの健康課題の歴史の変遷、こどもを取り巻く法的根拠を確認し、母子保健や児童福祉の理念を理解する。新生児から思春期までの成長・発達を学び、発達段階に必要な養護を理解する。また、こどもの日常生活を理解し、生活環境がこどもの成長発達に及ぼす影響を理解する。</p>	
専門教育科目	基礎科目 こども学科基礎科目	海外プログラム	<p>子育てや子どもの発達支援および自然保育について先進的な取り組みを行うフィンランド共和国に滞在し、その取り組みを実践的に理解する。本講では、その事前指導として北欧地域における社会福祉や教育の制度、子育てに関する思想や文化、渡航に関して必要な文化や習慣、生活技術などについて理解する。滞在中は、フィンランド共和国の子育てや保育、保育者の役割の理解などについての講義を受けるほか、一般保育施設における参加実習、自然保育の体験実習などを行う。事後指導では、滞在中で学んだ学習内容の省察と報告書の作成、報告会を行い、自らの保育技能への昇華を図るとともに、本邦の保育の現状に対する俯瞰的な視野からの理解とその改善にたいする考察を行う。</p>	
専門教育科目	基礎科目 こども学科基礎科目	社会的養護	<p>社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について、児童福祉施設の今日的動向にふれながら学ぶ。社会的養護を要する児童や家庭等の現代的な背景、児童養護施設・乳児院等の児童福祉施設・里親制度等の歴史、現状、課題等を学ぶことにより、保育士がめざすべき役割等を考え、理解する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科	教育心理学	心理学の諸分野（教育心理学、発達心理学、学習心理学、認知心理学、臨床心理学、パーソナリティ心理学など）の研究成果の中から、保育・教育場面に有用なトピックを選び、紹介する。保育・教育場面に有用な心理学の研究結果を知ることにより、心理学的見地から「保育・教育とは何か」、「保育者・教師とは何か」について考える。また、子どもの発達、生活や遊びを通じた学習過程、保育における発達援助などについて学ぶことで、保育の実践を効果的なものにする。	
専門教育科目	基礎科目	こども学科基礎科	こどもの食と栄養	こどもの食と栄養では、講義と調理実習・食育の実践活動を通して、妊娠授乳期を含めた小児各期に適した食生活の意義と栄養に関する基本的知識について学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。家庭や児童福祉施設の食生活の現状と課題や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。また、実践活動を通して、食育の基本と内容及び保育に展開するための環境について学び、地域社会や食文化についても理解を深める。	
専門教育科目	基幹科目		自然保育論	自然の中には子どもの動機づけや創造性を高める素材が多く存在しており、子どもの興味や状況に応じた活動の設定を可能とする。このような条件を備えた自然環境を生かした保育は、子どもたちが潜在的にもつ感覚を自らの感性とペースで発揮することを可能としていく。本講義では、自然とのかかわりの中で子どもが実際にどのような活動を行っているのか考え、さらに、それらを促す保育者の配慮や役割について考える。	
専門教育科目	基幹科目		音楽表現演習	講義の前半は、基礎的な記譜法、音程、コードを理解した上でコード譜による子どものうたをキーボードを使って演奏する。後半は木の実や、石、葉などの自然の素材やビニール、紙、ペットボトルなど日常生活で身近な素材を使った音楽表現やトーンチャイム、ハンドベル、打楽器などを使った音楽表現を体験する。また、子どもの音楽表現活動のまとめとして、絵本をテキストにした音楽作品を制作する。	
専門教育科目	基幹科目		保育内容（言葉）	保育内容（言葉）では、他の領域との関連性をふまえながら、生きる力の基礎としての言葉の役割について理解するとともに、養育者（母親・家族・保育者）や、仲間との豊かなことばの環境の中で言葉を獲得していくことを学ぶ。また、それらをもとに言葉の豊かな育ちにかかわる保育内容と指導法について、絵本や紙芝居などの、実際の児童文化財などに触れながら理解を深め、言葉に対する感覚を養うための実践力を育む。	
専門教育科目	基幹科目		地域子育て支援論	家庭支援が必要となった背景、機能や変遷、現状について学び、今日の家庭支援に求められるあり方を考える。家庭の意義とその機能をふまえ、子育て家庭を取り巻く社会的状況について子どもや親の育ちという観点から家庭支援の現代的課題について理解する。主として保育者による家庭支援の具体的な事例を取りあげ子育て家庭の支援体制について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開や関連機関との連携などのアプローチを学び、保育者という立場からの具体的な支援について考える。	
専門教育科目	基幹科目		保育内容（健康）	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」についてのねらいと内容を理解するとともに、実際の保育場面における保育者の役割について学ぶ。乳幼児期の心と身体の発達の特徴をふまえ、子どもの心身の健やかな成長のために、適切な指導方法のあり方を学ぶ。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいかについて具体的な実践の方法を学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基幹科目	器楽基礎	ソルフェージュ課題により、リズム感、音程感を身につけ、読譜力を向上させる。授業形態は習熟度に合わせた8グループによるグループレッスンとする。ピアノに関してはバイエルを中心とした課題、弾き歌いに関しては共通テキストにある楽曲を課題とする。	共同
専門教育科目	基幹科目	保育の指導法	幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての総合的な指導」の方法的特質について理解する。幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしいかかわり方を身につけていくことをふまえ、5領域のねらい及び内容の関連と総合的な指導のあり方について実践的に学ぶ。実践事例の記録、保育指導案などから様々な指導法や指導のあり方について考えるとともに、基本的な指導計画を作成する力を身につける。	
専門教育科目	基幹科目	保育内容(環境)	子どもは身近な環境とのかかわりを通じて、生活の知識や技術などを身に付けていく。本講では、子どもが環境(自然・もの・人・できごと)とのかかわりを通じて周囲への興味・関心を広げていく過程を、実際と理論の側面から学習するとともに、保育者がそれに対して行い得る援助について考える。特に、子どもが「感じる力」「考える力」「判断する力」「実行する力」を自発的に発揮できることをねらいとして、保育者自身がどのような環境構成をできるかについて考える。また、授業は、季節や子どもの発達に応じた指導計画を立てられることをねらいとする。	
専門教育科目	基幹科目	幼児理解の理論と方法	就学前の子どもとその保護者、家庭を理解するための理論と方法を学ぶ。具体的には、子どもの発達を客観的に評価する方法や、日常において生起する臨床的問題の実際を、臨床発達心理学の観点から理解できるようにする。また、多様な保護者やさまざまな困難を抱える子どもの理解や援助の仕方の原則を理解し、保育現場の内外の資源と連携をしながら援助を行っていくための知識と技能を習得する。子どもやその保護者をめぐる多様な問題に対して、客観的な根拠に基づいて多面的かつ柔軟に援助ができるようになることをねらいとする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	基幹 科目  保育内容（表現）	<p>音楽表現、造形表現、身体表現について、指導や援助方法をオムニバス形式で学ぶ。乳幼児の発達を理解し、身近にあるものやことに興味を持てるような環境設定の方法を学ぶ。音楽表現では「聴く力」を育む実践を行い、音を創造する活動を通して、和らかな感性を育むことを目指す。造形表現では動かすことのできる造形物の制作を通して、造形表現における「動き」について理解を深める。身体表現では、自己のからだところや他者（人・モノ）とのかかわりについて体験を通して理解を深める。また、指導計画の立案、模擬保育とその振り返りを行い、全体を通して保育内容表現についての総合的理解を深め、乳幼児の生活と遊びにおける表現について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全14回）                      ⑩ 宮城正作、⑥ 安氏洋子、⑨ 白澤舞/2回）（共同）                      第1回目では領域「表現」についてのねらい及び内容を、14回目では授業の総まとめを担当者全員で行う。</p> <p>⑩ 宮城正作/4回）                      造形表現。割り箸鉄砲を作ろう！動くペープサートを作ろう！</p> <p>⑥ 安氏洋子/4回）                      音楽表現。領域「表現」と音楽的な発達について。「聴く」力を育む。音をかたちで表現する。音を創造する。オリジナル曲の創作。楽器の種類と取扱い方法、奏法について。創作曲の発表。指導案の作成。</p> <p>⑨ 白澤舞/4回）                      身体表現。からだところ、コミュニケーションにおけるからだを感じる。いろいろな素材をからだで感じる。こどもの生活と遊びにおける身体表現と保育者の役割。指導案の作成。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
専門 教育科目	基幹 科目  ドラマ表現演習	<p>他者と共に自己表現を楽しむドラマの体感を基礎として、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な資質・能力である、自分を表現する力、自分なりに工夫して行動する力、感じる力、想像・創造する力の研ぎ澄ましをテーマとした活動や、子どもを対象とする語りと最小限の演技で構成されるリーダーシアターに取り組み、単なる専門的・芸術的表現とは異なる保育者の“豊かな表現”を意識しながら、子どもの表現を見る目を養っていく。</p>	
専門 教育科目	基幹 科目  身体表現演習	<p>領域「表現」におけるねらいと内容をふまえ、子どもの表現の捉え方について理解するとともに、子どもの豊かな表現をとらえ、育むための保育者の役割と指導方法を学ぶ。そのために、自己の感覚を十分に働かせて多様で自由な表現を体験し、自己の身体と心の関わりや身体による他者（人・モノ）との関わりについて理解する。また、事例検討や教材研究、指導計画の立案を行うことで、どのような内容を組み立て、どのような配慮を持って環境の設定や援助をしたらよいのかについて具体的な実践の方法を学ぶ。</p>	
専門 教育科目	基幹 科目  保育内容総論	<p>保育内容の歴史と意味について理解したうえで、領域の観点から子どもを総合的に捉える視点を養い、子どもの発達の実態や個性に適した保育内容の継続的で具体的な展開を行うために必要な知識や技能を身につける。</p>	
専門 教育科目	基幹 科目  乳児保育	<p>乳児保育(0、1、2歳児)の理念、歴史の変遷とその役割について理解する。乳児期の発達を理解し、一人一人の発達過程に応じた援助や関わり、乳児保育の現状と課題について、保育実践の映像や演習を通して学ぶ。また、発達に応じた保育内容について学び、手作り玩具の製作やふれあい遊びを習得するとともに、記録の書き方、保育課程にもとづく指導計画を立案する。さらに、保護者と連携して乳児の育ちを支えていくためには、どのような育児支援が必要かを考える。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基幹科目	保育臨床相談	近年、子どもや教育、家庭を取り巻く環境は大きく変化し、子どもの教育や学習に関する相談の必要の高まり、児童虐待や育児ストレスの増加など、子ども家庭をめぐる問題も多く指摘されている。この状況に対応するため、現在、保育者には、子ども家庭を支援するための相談支援の専門性が求められている。本講義では、現代の家庭が抱える様々な課題について事例を通して学び、その上で保育者として子どもの教育と教育の土台としての家庭を支援するために必要な相談支援力を身につけることを目的とする。また、相談支援技能の基礎としてカウンセリングやソーシャルワークの理論と技法の習得を目指す。	
専門教育科目	基幹科目	発達支援論	保育所や幼稚園に在籍する障害のある子や、集団生活に困難を示すいわゆる発達に気になる子について、その行動・発達の理解と豊かな生活を送るための保育的配慮のあり方について解説を行う。また、家庭の養護を十分に受けることができないために、日常生活に困難を示す子どもについても、本講の対象とする。講義では、子どもの定型発達と学習のプロセスを概観した上で、心身に障害のある児の特徴と育ちについて解説し、これを基に、障害の様態に応じた保育と援助の実際を事例を通して理解する。また、十分な家庭の養護が受けられない子どもの成長や発達の特徴についても事例を通して理解する。これらをもとに、発達に配慮が必要な子どもにたいする保護者の支援や社会資源を用いた包括的な援助について学習することをねらいとする。	
専門教育科目	基幹科目	保育内容（人間関係）	幼児が周囲の人々に親しみを持ち、支え合って生活するために、自立心と人とかかわる力を養うための保育内容と方法について学ぶ。幼児の人への信頼感や人とかかわる力、自己のあり方、社会生活に望ましい習慣や態度が、充実感のある他者との関係のなかで育っていくことに留意し、保育者の役割と援助について理解する。幼児の人間関係は保育の場における遊びや生活を通して豊かに育つことから、演習を通して保育の場での人間関係をめぐる具体的な事例、人間関係を豊かにする遊びや活動について指導計画の立案や模擬保育の検討などを通して実践的に理解する。	
専門教育科目	基幹科目	保育課程論	カリキュラムの基礎理論を理解し、保育における計画と評価の意義と必要性について、計画・実践・省察・評価・改善の課程の循環の中で質の向上が図られていくことを学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」の基本を理解したうえで、実際の保育課程と保育計画がどのように日常の保育の中に活かされているのか、日々の保育からつながる保育の連続性を感じ、保育課程と保育計画の作成および、作成の留意事項について理解を深める。	
専門教育科目	基幹科目	社会的養護内容	前半では専門書を講読しながら、施設養護に関する主な諸概念の理解を深める。後半では各分野の現場の先生をゲスト講師に迎えて、実際の現場での現状と支援について学ぶ。児童養護施設、乳児院、障害児施設、母子生活支援施設、児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設、里親制度などで実際に働く職員を呼んで実際の養護実践の現状と課題を考える。	
専門教育科目	基幹科目	器楽応用 I	保育現場における音楽活動に必要なピアノの演奏、および弾き歌いの演奏技術を修得し、様々な表現活動や遊びに展開できる基礎を学ぶ。授業形態は習熟度に合わせた8つのグループによるグループレッスンとする。ピアノの演奏に関してはバイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバムなど練習曲を中心としたレッスン、弾き歌いに関してはオリジナルな伴奏譜だけでなく、コード譜も教材として用い、簡易伴奏から複雑なアレンジによる伴奏まで各自のレベルに応じた伴奏を体験し、器楽基礎で習得した読譜力、演奏技術をさらに高める。	共同

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基幹科目	小児保健Ⅱ	こどもの病気・事故・ケガなどに関する知識を学び、予防方法や対処方法の基本的な知識に基づいて、実践に役立つ保健活動を考える。こどもに関わる保護者・保育者の健康の保持増進、地域に存在する様々な社会資源との連携等について学び、健やかなこどもの成長発達を促進する仕組みを理解する。	
専門教育科目	基幹科目	相談援助	ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の基礎知識と技術の修得を目的とする。特に保育・養護場面におけるソーシャルワークの視点を学び、保育・福祉現場で支援する際に必要な知識と態度を修得する。	
専門教育科目	基幹科目	造形表現演習	本授業では、保育者として必要な造形知識や技術を、実制作を通して技能として身に付けていく。特に、「紙による表現」、「粘土による表現」、「版表現」について主に取り組む。その際、各活動において、材料や用具の選定が表現効果に与える影響について着目し、各技法と材料・用具との関係について理解を深めていく。また、本授業の最終活動では、受講者が理想とする保育者像、保育環境を具体化することで、受講者が身に付けてきた技能が、自身の将来の職業と有機的に関連していることを実感できるように構成している。	
専門教育科目	基幹科目	器楽応用Ⅱ	保育現場における音楽活動に必要なピアノの演奏、および弾き歌いの演奏技術を修得し、様々な表現活動や遊びに展開できる基礎を学ぶ。授業形態は習熟度に合わせた8つのグループによるグループレッスンとする。ピアノの演奏についてはクラシックだけではなく多様なジャンルの楽曲に挑戦し、弾き歌いに関してはオリジナルな伴奏譜だけでなく、コード譜も教材として用い、簡易伴奏から複雑なアレンジによる伴奏まで各自のレベルに応じた伴奏を体験し、器楽応用Ⅰで習得した読譜力、演奏技術をさらに高める。	共同
専門教育科目	基幹科目	教育史	幼児教育及び初等教育を中心とした保育・教育という営みが今日までどのような経緯を辿ってきたかを、①各時代における保育・教育へのさまざまな要求、②各時代における「子ども」の捉え方や処遇などを中心に考える。具体的には、日本の明治以降の保育・教育機関の成立・普及・展開の過程を、欧米の教育思想や制度の導入、日本の政治的・経済的・社会的変化と保育・教育との関係、さらに社会や大人と子どもとの関係を主な視点にして整理するとともに、今後の保育・教育の課題について検討する。	
専門教育科目	基幹科目	教育の方法と技術	幼児期の教育の基本を踏まえた上で、保育方法の基本として子どもの側や保育者の側から捉える保育方法とその原理、保育形態の種類と活用法を概観する。その上で、「幼稚園教育要領」で示されている具体的指導法の4項目「環境を通して行う教育」「幼児期にふさわしい生活の展開」「遊びを通しての総合的指導」「一人一人の特性に応じた指導」について解説し考える。保育方法としての情報機器や視聴覚教材の活用法についても具体的な演習活動を展開する。	
専門教育科目	基幹科目	小児保健実習	乳幼児の健康保持・増進にとって必要な知識を学び、保育現場での保健活動に役立つ力の習得を図る。具体的には病気・事故・ケガに関して保育者として必要な知識を習得し、実践での生かし方を学ぶ。また、子どもの心身の健康に多大な影響を及ぼす保育者・保護者の健康保持・増進についても取り上げる。さらに、保健日より・保健教材づくりを通して現場での健康教育のあり方を検討する。随時グループワークを行なう。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基幹科目	保育の観察法と統計解析法	授業の前半では保育現場における観察の意味を理解し、子どもの行動を客観的に観察する様々な方法を学ぶ。実際に幼児の行動を観察したり、保育場面を記録した動画を視聴したりする中で、保育者が幼児の行動を観察する際に留意すべき点などを確認する。授業の後半では、観察等により得られたデータを統計的に分析する手法を学習し、観察結果を正確に評価・査定する手段を習得する。	
専門教育科目	展開科目	自然保育演習	自然を通じた保育を計画・実践できるようになることをねらいとする。自然とのかかわりの中で、実際に行われている子どもの活動を考える。また、その活動を季節ごとや、発達の視点から分類し体系化することで、保育の教材として取り入れられるよう整理する。さらに、学生自身がそれらを体験し、子どもの視点や動き、保育者の動きや配慮を考える。	
専門教育科目	展開科目	地域子育て支援演習	現代の地域子育て支援の状況をふまえ、地域における多様な支援のあり方について学ぶ。学生自身が企画・準備し、具体的な地域子育て支援活動に参加することを通して実践経験を重ね理解を深める。地域子育て支援拠点及び学内での実践を通して、利用者親子に対する理解と支援者に求められる役割等について体験的に学び、実践力を高める。地域で活動する様々な団体や専門機関との連携について学び、子育て家庭に対する支援の方策について考える。	
専門教育科目	展開科目	発達支援演習	保育所や幼稚園では、知的・運動・社会性の発達には大きな偏りを示さないが、集団生活に困難を示す「発達が気になる子」への対応が苦慮されている。本講ではこれらの子が見せる気になる行動と、その背景にある身体感覚の未熟さを解説し、それを改善、向上させる具体的な保育方法を考える。また、発達が気になる子どもの保護者、子育てに不安を抱えていたり十分にそれができない保護者についても理解し、その援助方法について実際の演習を通して学んでいく。保育所や幼稚園に在籍する障害のある子や、集団生活に困難を示すいわゆる発達が気になる子について、その行動を理解し、豊かな生活を送るための保育的配慮を計画・実践できるようになることをねらいとする講義である。	
専門教育科目	展開科目	保育者支援論	現在保育現場では、さまざまな課題を抱える子ども、信頼関係が作りづらい保護者、保育者同士の人間関係など、多くの困難を抱えている。また、保育現場は、こうした課題を抱え込みやすい組織的・社会構造的な側面を持つ。本講義では、こうした課題を抱える保育者や保育現場を支援するための方法論を理論的・体験的に学習することを目的とする。園内連携や外部の専門家や機関との協働が保育者の負担を軽減し、さらに保育者の力量形成につながるのかを研究報告や支援実践を通して理解を深める。	
専門教育科目	展開科目	保育経営論	本講義では保育経営について園経営と学級経営という観点から、保育に関わる基本的な事項とそれを支える人的・物的条件の理解を通して、保育経営の基礎について理解する。さらに近年の動向等をふまえ、社会におけるこれからの幼稚園・保育所等及び保育者に期待される役割について考え、園経営、学級経営における今日的な課題を解決する具体的方法とキャリアステージに応じた保育経営への参画について考える。	
専門教育科目	展開科目	保育臨床特殊講義 I	保育臨床特殊講義は、保育に関する現代的な課題やトピックについて取り上げ、保育の臨床的課題とその対応、子どもや保護者を取り巻く地域や、社会、環境と保育のあり方についての理解を深める一連の科目である。本講義では、保育園や幼稚園、認定こども園等の保育実践映像をもとに、今日の子どもの育ちや保育実践分析を行う。あわせて、時事ニュースから子ども達を取り巻き、方向づけている現代社会における保育のあり方を考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	展開科目	保育臨床特殊講義Ⅱ	保育臨床特殊講義は、保育に関する現代的な課題やトピックについて取り上げ、保育の臨床的課題とその対応、子どもや保護者を取り巻く地域や、社会、環境と保育のあり方についての理解を深める一連の科目である。本講義では、発達特性のある園児のいるクラスにおいて、クラス活動の進め方、配慮を必要とする園児への対応、主活動を進める保育士と加配保育士の連携、発達特性のある子の家族との連携、また、関係機関との多職種連携の在り方等について学ぶ。	
専門教育科目	展開科目	保育臨床特殊講義Ⅲ	保育臨床特殊講義は、保育に関する現代的な課題やトピックについて取り上げ、保育の臨床的課題とその対応、子どもや保護者を取り巻く地域や、社会、環境と保育のあり方についての理解を深める一連の科目である。本講義では、長野県で行われてきた保育・幼児教育史について学び、それぞれの地域、文化と保育とのかかわりについて考えるとともに、今日の保育にどのように結びついているかを学ぶ。	
専門教育科目	展開科目	保育臨床特殊講義Ⅳ	保育臨床特殊講義は、保育に関する現代的な課題やトピックについて取り上げ、保育の臨床的課題とその対応、子どもや保護者を取り巻く地域や、社会、環境と保育のあり方についての理解を深める一連の科目である。本講義では、保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園、子育て支援NPO法人の職員などをゲストスピーカーとして招き、それぞれの保育現場に置ける親子の姿や抱える課題、保育や子育てに関する工夫や配慮などについて学ぶ。	
専門教育科目	実践科目	教育実習Ⅰ 事前事後指導	事前指導では、教育実習Ⅰの意義と目的を理解し、幼稚園理解を深めるとともに、実習前・実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方について学ぶ。また、見学実習の際の子どもの観察、記録、指導計画の立案、実践と評価の内容と方法等、実際に現場で幼稚園、幼稚園教諭の役割を学ぶための基本的な知識を得て、最初の实習に臨めるよう必要な準備を整える。事後指導では、実習先の評価をもとにした総括と学びの振り返り、実習での自らの課題、また、次の教育実習Ⅱに向けた新たな課題について、省察と課題発見を行う。	
専門教育科目	実践科目	教育実習Ⅰ	幼稚園の生活に参加することで、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の役割と機能、保育の内容、子どもの生活、記録、幼稚園教諭の役割、職務内容について、実践的、具体的に理解する。観察実習と部分参加実習を中心として幼児の発達および発達過程と、それに応じた保育の実践について学ぶ。記録の意義や子どものとらえ方、幼稚園教諭の役割など、教師としての視点や考え方を指導教諭の指導の下で学び、実践的理解を深めるとともに以後の学習に向けた課題を明らかにする。	
専門教育科目	実践科目	保育所実習Ⅰ 事前事後指導	事前指導では、保育所の役割や機能を理解するとともに、子どもの理解の視点や保育士の業務の専門性を講義と演習により学ぶ。また、講義と実践が効果的に結びつくよう、知識・意識・技術などについて、学生自身の主体的な参加を通して実践的に準備を行う。そのため、授業では学生自身が考え表現し学ぶことができるよう演習(グループワーク)形態をとることもある。事後指導では、実習録などを基に実習の振り返りをおこない、自身の実習内容を省察するとともに、保育所実習Ⅱに向けた課題や学習目標を明確にする。	
専門教育科目	実践科目	保育所実習Ⅰ	実習施設について理解をし、保育者の役割や子どもとのかかわりを観察の視点から学ぶ。また、実際に子どもとのかかわりを通して発達の理解を深め、保育所の役割(地域との連携等)についても学ぶ。実習は各自が指定された保育所で3年生の2学期に10日～11日間実施する。主に観察・参加実習が主となり、子どもの様子を把握することを通じて指導案の作成および部分実習を行い、さらに、振り返りを実施することで自身の実習を深めていく。また、実習の不安や不明な点の改善、実習の見通し等の助言のため、実習期間中は教員が巡回指導をおこなう。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	実践 科目	保育所実習Ⅱ事前事後指導	
		<p>子どもの実態（発達や経験）に合わせて指導計画案をたて、教材準備をおこない保育を行えるための実践力を身につける。事前指導では、保育所実習Ⅰの学びと課題を基に保育所実習Ⅱの目標を明確にする。また、実習時期にあわせた保育所のカリキュラムや子どもの姿を想定した指導計画案をたて、教材研究と準備、模擬保育を通して実践力を培う。事後指導では、実習の振り返りや自己評価・面談などを通して、今後の学習の課題や目標を明確にする。授業は講義だけでなく、学生自身が考え表現し学ぶことができるよう演習（グループワーク）といった形態をとることもある。実習後は、自己評価や面談、レポート等を通して実習を振り返り、今後の学習の課題や目標を明確にする。</p>	
専門 教育科目	実践 科目	保育所実習Ⅱ	
		<p>実習施設について理解をし、保育所の役割・機能や保育士の専門性、乳幼児の発達の理解を深め、総合的に学ぶ。子どもの実態（発達・経験）を基に保育の計画について理解を深め、部分実習や責任実習を実施する。実習は各自が指定された保育所で3年生の3学期に10日～11日間実施する。保育所実習Ⅰを踏まえ部分実習や責任実習をおこなう。子どもの実態（発達・経験）に合わせて指導案の作成および部分実習・責任実習をおこない、さらに、振り返りを実施することで自身の実習を深めていく。実習の不安や不明な点の改善、実習の見通し等の助言のため、実習期間中は教員が巡回指導をおこなう。</p>	
専門 教育科目	実践 科目	施設実習Ⅰ事前事後指導	共同
		<p>施設実習Ⅰを円滑かつ効果的に進めるために必要な知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にする共に、実習体験を深化することが目的。具体的には実習の概要の理解、実習先の決定、実習先の理解、実習への心構え、実習のねらいと内容の理解、事後は振り返りの自己洞察などが課題となる。</p>	
専門 教育科目	実践 科目	施設実習Ⅰ	共同
		<p>保育士資格の取得には施設実習Ⅰの履修が必修科目。11日間の実習。主に居住型施設の生活に参加し、児童や利用者の理解を深めるとともに、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。</p>	
専門 教育科目	実践 科目	施設実習Ⅱ事前事後指導	共同
		<p>施設実習Ⅱを円滑かつ効果的に進めるために必要な知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にする共に、実習体験を深化することが目的。特に施設実習Ⅱの選択は進路との関連もあり、実習先を自分で調べて決定することが重要となる。事前学習は、実習先の理解、実習への心構え、実習のねらいと内容の理解、事後は振り返りの自己洞察などが課題となる。</p>	
専門 教育科目	実践 科目	施設実習Ⅱ	共同
		<p>施設実習Ⅰに比べて、障害、養護系の福祉施設（通所も含む）での実習を行う。児童福祉施設、社会福祉施設における養護・支援活動に実際に参加し、必要な知識・能力・技術を習得する。さらに家庭や地域の生活実態にふれて、子どもや利用者の家庭に対する理解力・判断力を養うとともに地域で支援するために必要とされる能力を養い、施設の機能と福祉専門職、保育士の職務について学ぶ。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践科目	教育実習Ⅱ事前事後指導	教育実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習Ⅰや既習の教科の内容を踏まえた上で、幼稚園教諭として必要な資質や能力、技能を得るために、責任実習の際の記録、指導計画の立案と修正、教材研究、実践と評価の内容と方法等、現場で実践するために必要な準備を整える。実習前・実習中の留意点と対策、訪問指導教員の指導の受け方について再確認する。事後指導では、実習先の評価をもとにした総括と学びの振り返り、自分の保育の省察と課題発見を行う。	
専門教育科目	実践科目	教育実習Ⅱ	教育実習Ⅰの学びとその後の学習をふまえ、幼稚園における教育活動について、指導教諭のもとで計画・実践し、幼稚園教諭として必要な資質・専門的知識・技術を習得する。教育実習Ⅱでは、子どもの観察、記録、指導計画の立案、実践と評価の内容と方法等について実際に取り組む参加実習、責任実習を中心として、理論と実践の統合をはかり、保育理解を深める。また、クラス経営や家庭と地域の生活実態にふれ、子育て支援ニーズについて理解を深めるとともに、子育てを支援するために必要な能力を養う。	
専門教育科目	実践科目	保育・教職実践演習	<p>履修カルテを活用しながら、これまでの学習全体を振り返り、保育・教職の意義や人間関係、幼児理解、学級経営・保育内容の指導力などについて事例検討、模擬授業、ロールプレイング、フィールドワーク、グループ討論等を通して保育者としての資質、能力の形成を図る。セッション1では保育職・教職の専門性についての観点から受講者各自の課題とその解決の方法を探究する。セッション2ではワークショップ形式のアイスブレイク、グループワーク、チームビルディングなどを通して各自の実践力の課題を確認し、さらに事例記録の作成と事例検討のグループ・カンファレンスを通して実践力を磨く。セッション3～5では教育実習・保育実習の体験にもとづいて保育内容に関する課題の確認と探求を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)                      (② 荒井聡史/4回)                      ガイダンス及び履修カルテを通じた課題の確認を行い、実践力の検討と探求についてワークショップを通じた実践力の確認、事例記録の作成、グループ・カンファレンスを行う。</p> <p>(⑫ 木山徹哉/3回)                      保育・教職の意義の検討と探求について、保育職・教職の専門性と私の課題、各自の課題解決のための方法という視点から学ぶ。</p> <p>(⑤ 渡邊望/2回)                      幼稚園実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求について学び、現職幼稚園教諭を招いての研究発表会およびディスカッションを行う。</p> <p>(⑧ 小笠原明子/2回)                      保育実習の体験にもとづく保育内容の検討と探求について学び、現職保育士を招いての研究発表会およびディスカッションを行う。</p> <p>(⑤ 渡邊望、⑧ 小笠原明子/2回) (共同)                      幼保連携型認定こども園でのフィールドワークを通じ、研究テーマの確認と探求を行う。</p> <p>(② 荒井聡史、⑫ 木山徹哉、⑤ 渡邊望、⑧ 小笠原明子/1回)                      (共同)                      本授業のまとめを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	総合 研究 科目	<p>資料探索等、調査研究の基本について学ぶとともに子どもやその発達に関わる基本的な文献や資料の読み合わせを通して、子ども発達と教育についての理解を深める。保育や子育ての場、子どもが育ち、育てられる環境や保育内容・方法等について、自ら課題を発見し、調べる、まとめる、報告することを通して問題を整理する力を養う。さらに、プレゼンテーション及びディベートを通して、子どもとその発達について教育という観点から追究したい内容についての理解を深める。</p> <p>(1 太田光洋/幼児期の子どもの発達における遊びの意義について考える)</p> <p>(① 藤田勉/行動分析学の理論と技法を学ぶ)</p> <p>(① 尾島豊/社会福祉の分野と仕事に関する現状と課題を考える)</p> <p>(4 大南匠/メディアと子どもの音楽表現の実践と考察)</p> <p>(② 荒井聡史/保育事例に潜在化している保育観、人間観を分析する)</p> <p>(③ 前田泰弘/障害のある子、発達が気になる子の理解について考える)</p> <p>(④ 金山美和子/子育て家庭の現状について考える)</p> <p>(⑤ 渡邊望/保育内容と方法について考える)</p> <p>(9 山本直樹/ドラマ表現について考える)</p> <p>(⑥ 安氏洋子/「感じる力」を育むトレーニング)</p> <p>(⑦ 中山智哉/保育相談支援・家庭支援について考える)</p> <p>(⑧ 小笠原明子/保育・教育における自然の役割)</p> <p>(⑨ 白澤舞/身体と表現について考える)</p> <p>(⑩ 宮城正作/こどもと造形について考える)</p> <p>(⑪ 寺川直樹/教育哲学について考える)</p>	
専門 教育科目	総合 研究 科目	<p>こども学ゼミⅠの学修を基礎として、実験や調査方法について学び、自分自身が問題意識を持った内容について適切なアプローチの方法を習得し、考察するための方法的知識を身につける。さらにゼミで調べた内容について発表し、他者にわかりやすく説明するプレゼンテーションや説明能力を養い、提起された問題について議論することを通して理解を深めるとともに、子どもの発達を支え、促す教育実践として具体化する方法について共同で考察を深める。</p> <p>(1 太田光洋/幼児教育における遊びを通しての指導のあり方について考える)</p> <p>(① 藤田勉/子どもの行動をより望ましい方向に導く方法を考える)</p> <p>(① 尾島豊/社会的養護と子どもの貧困の問題の現状と課題を考える)</p> <p>(4 大南匠/即興演奏の実践と考察)</p> <p>(② 荒井聡史/保育事例に潜在化している実践知を分析する)</p> <p>(③ 前田泰弘/障害のある子、発達が気になる子の支援について考える)</p> <p>(④ 金山美和子/保育者として子どもと家庭を支える方法を考える)</p> <p>(⑤ 渡邊望/保育内容と方法について考える)</p> <p>(9 山本直樹/ドラマ表現について考える)</p> <p>(⑥ 安氏洋子/音楽の表現方法について、自己省察及び討議)</p> <p>(⑦ 中山智哉/保育相談支援・家庭支援について考える)</p> <p>(⑧ 小笠原明子/保育・教育における自然とのかかわり)</p> <p>(⑨ 白澤舞/身体と表現と創造性について考える)</p> <p>(⑩ 宮城正作/こどもと造形について考える)</p> <p>(⑪ 寺川直樹/教育哲学について考える)</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(健康発達学部こども学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	総合 研究 科目	<p>子どもの発達と保育・教育に関する自分自身の問題意識に沿ってテーマを設定し、指導教員の指導のもとで計画を立て、問題を明らかにするための適切な方法と技術を身につける。資料収集、文献講読、調査、制作、表現等に取り組み、適切な方法によって卒業研究としてまとめる。また、研究プロセスで相互の研究に触れる機会を設け、子どもの発達とその支援・教育に関わる知見を広げるとともに自らの課題に対する考察を深めていく。</p> <p>(1 太田光洋/遊びと生活を中心とした幼児教育実践に関する研究)                      (① 藤田勉/行動分析学に関する研究)                      (① 尾島豊/社会的養護と子どもの貧困の問題を中心としたフィールド調査)                      (4 大南匠/総合的表現活動の研究)                      (② 荒井聡史/保育思想、教育思想に関する研究)                      (③ 前田泰弘/障害のある子、発達が気になる子の理解と支援に関する研究)                      (④ 金山美和子/地域子育て支援の実践に関する研究)                      (⑤ 渡邊望/保育内容と方法に関する研究)                      (9 山本直樹/ドラマ表現に関する研究)                      (⑥ 安氏洋子/表現の方法に関する研究と発表)                      (⑦ 中山智哉/保育相談支援・家庭支援に関する研究)                      (⑧ 小笠原明子/子どもの発達を促す自然保育の研究)                      (⑨ 白澤舞/身体表現と創造性を育む指導法に関する研究)                      (⑩ 宮城正作/こどもと造形に関する研究)                      (⑪ 寺川直樹/教育哲学に関する研究)</p>	

# 長野県 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
				長野県立大学				大学新設
				グローバルマネジメント学部				
				グローバルマネジメント 学科	170	-	680	
				健康発達学部				
				食健康学科	30	-	120	
				こども学科	40	-	160	
				計	240	-	960	
				長野県看護大学				
				看護学部				
				看護学科	80	10	340	3年次
				計	80	10	340	3年次
				長野県看護大学大学院				
				看護学研究科				
				看護学専攻(M)	16	-	32	
				看護学専攻(D)	4	-	12	
				計	20	-	44	
				長野県短期大学				
				多文化コミュニケーション学科				
				国際地域文化専攻	40	-	80	
				英語英米文化専攻	40	-	80	
				日本語日本文化専攻	40	-	80	
				生活科学科				
				健康栄養専攻	40	-	80	
				生活環境専攻	40	-	80	
				幼児教育学科	40	-	120	
				計	240	-	520	
				長野県須坂看護専門学校				
				看護学科(4年制)	40	-	160	
				計	40	-	160	
				長野県福祉大学校				
				保育学科	50	-	100	
				介護福祉学科	20	-	20	
				計	70	-	120	
				長野県公衆衛生専門学校				
				歯科衛生士学科	20	-	60	
				計	20	-	60	
				長野県農業大学校				
				農学部				
				総合農学科				
				実践経営者コース	10	-	20	
				農業経営コース	40	-	80	
				実科	50	-	50	
				研究科	50	-	50	
				計	150	-	200	
				長野県林業大学校				
				林学科	20	-	40	
				計	20	-	40	
				長野県立大学				
				グローバルマネジメント学部				
				グローバルマネジメント 学科	170	-	680	平成30年4月学生募集停止
				健康発達学部				
				食健康学科	30	-	120	平成30年4月学生募集停止
				こども学科	40	-	160	平成30年4月学生募集停止
				計	240	-	960	平成30年4月学生募集停止
				長野県看護大学				
				看護学部				
				看護学科	80	10	340	平成30年4月学生募集停止
				計	80	10	340	平成30年4月学生募集停止
				長野県看護大学大学院				
				看護学研究科				
				看護学専攻(M)	16	-	32	平成30年4月学生募集停止
				看護学専攻(D)	4	-	12	平成30年4月学生募集停止
				計	20	-	44	平成30年4月学生募集停止
				長野県短期大学				
				多文化コミュニケーション学科				
				国際地域文化専攻	40	-	80	平成30年4月学生募集停止
				英語英米文化専攻	40	-	80	平成30年4月学生募集停止
				日本語日本文化専攻	40	-	80	平成30年4月学生募集停止
				生活科学科				
				健康栄養専攻	40	-	80	平成30年4月学生募集停止
				生活環境専攻	40	-	80	平成30年4月学生募集停止
				幼児教育学科	40	-	120	平成30年4月学生募集停止
				計	240	-	520	平成30年4月学生募集停止
				長野県須坂看護専門学校				
				看護学科(4年制)	40	-	160	平成30年4月学生募集停止
				計	40	-	160	平成30年4月学生募集停止
				長野県福祉大学校				
				保育学科	50	-	100	平成30年4月学生募集停止
				介護福祉学科	20	-	20	平成30年4月学生募集停止
				計	70	-	120	平成30年4月学生募集停止
				長野県公衆衛生専門学校				
				歯科衛生士学科	20	-	60	平成30年4月学生募集停止
				計	20	-	60	平成30年4月学生募集停止
				長野県農業大学校				
				農学部				
				総合農学科				
				実践経営者コース	10	-	20	平成30年4月学生募集停止
				農業経営コース	40	-	80	平成30年4月学生募集停止
				実科	50	-	50	平成30年4月学生募集停止
				研究科	50	-	50	平成30年4月学生募集停止
				計	150	-	200	平成30年4月学生募集停止
				長野県林業大学校				
				林学科	20	-	40	平成30年4月学生募集停止
				計	20	-	40	平成30年4月学生募集停止